

[009] 九州文化史研究所所蔵古文書目録：秋月黒田家文書

九州大学九州文化史研究施設

<https://doi.org/10.15017/6796335>

出版情報：9, 1971-07-10. 九州大学文学部附属九州文化史研究施設
バージョン：
権利関係：



九州文化史研究所所藏古文書目錄 九

九州大学九州文化史研究施設

凡 例

一、本研究所所蔵に係る古文書目録の第九輯として、本冊には「秋月黒田家文書」を収録した。

一、秋月黒田家文書は、昭和三十一年、旧所蔵者黒田長敬氏より本研究所が購入した分と、秋月郷土館所蔵分とに現在二分されている。本目録には、黒田家をはじめ秋月郷土館関係者の方々の御好意により両者を一括して掲載した。御協力いただいた関係者の方々に、ここで謝意を表したい。

なお両者を区別するために、秋月郷土館所蔵分には、番号の上に※をつけた。

一、同家は福岡藩の支藩（秋月藩）の藩主であり、元和九年、本藩より五万石を分知された長興よりはじまる。その領知は夜須郡の内三十ヶ村、嘉麻郡の内十一ヶ村、下座郡の内十七ヶ村よりなる。但し元禄十三年、秋月領七ヶ村のうち千八百余石を本藩領であつた穂波郡弥山村・内山田村、夜須郡中牟田村と交換している。人口は享和年間で、在町二万三千余人、家臣は家族を含めて二千八百人（弱）を数える（史料^{752・762}）。財政状態は中期以降悪化し、とくに文化六年には「国内者不及申、日田・長崎・石州等にも御借金相疊」有様で、諸方への借銀は一時七千貫目余に及んだ。こうした財政政策の失敗のためか文化九年には代々家老職を勤めていた宮崎織部等が辞職し、同十年には「御政事を覆し、權威を慾」に「種々謀計を企」てたという理由で宮崎織部・渡辺帯刀以下七名は大島・姫島へ流罪になった。その後、福岡藩より沢木七郎大夫が財政逼迫につき「御財用用向」を仰付けられたが、なかなか財政は立直らなかつたようである（史料^{343・858}）。

以上のように、同家文書はいわゆる藩政史料が中心をなすが、本藩史料が稀少な現在、福岡藩政を知る史料として貴重なものとなろう。また慶長七年の検地帳をはじめとする初期検地帳（のちの秋月領に該当）も、福岡藩の農村構造を知るうえで秀逸な史料である。

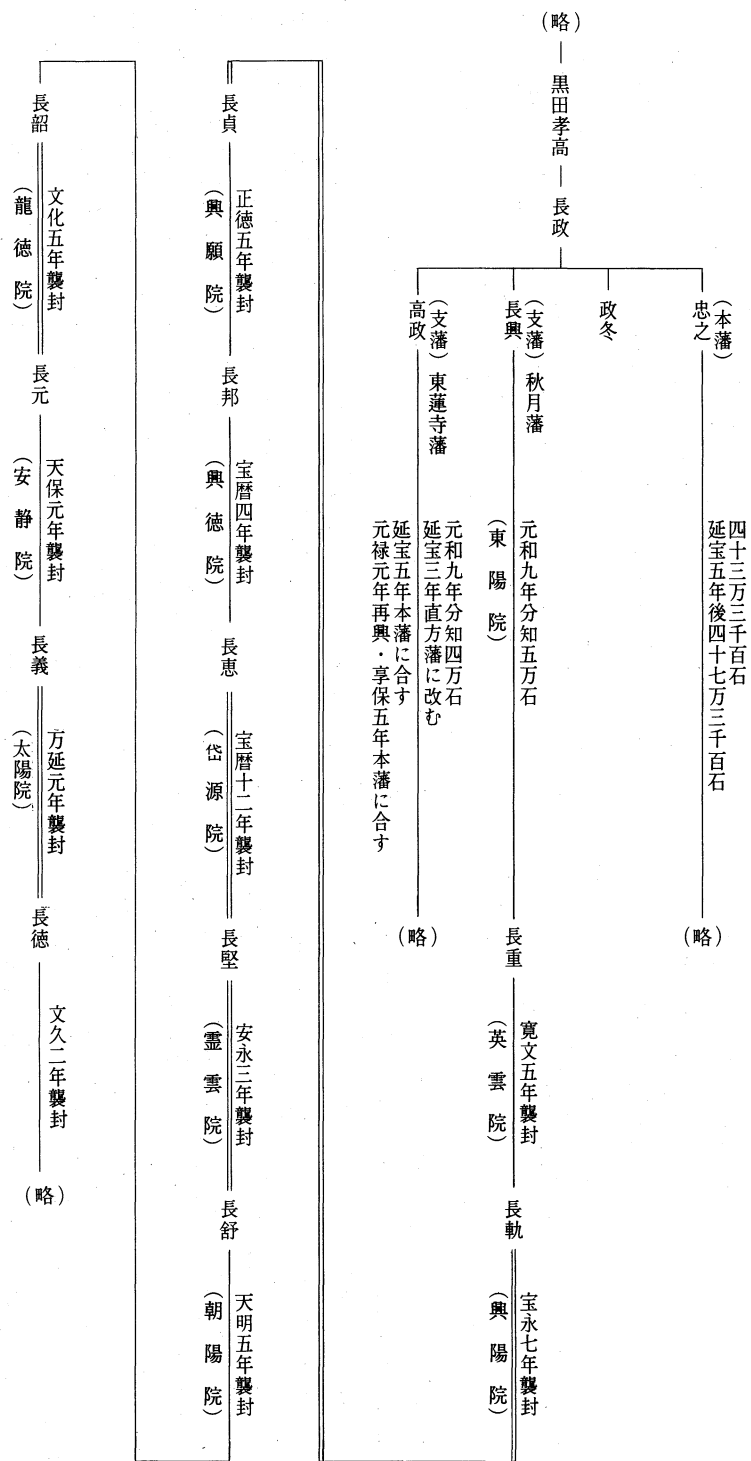
一、史料の分類にあたっては、同家文書が支藩の文書であるという特色を生かし、藩政一般の項目のほか「対幕府」「对本藩」等の項目を設け、かつ幕末維新関係は別に「幕末維新」という項目を設け分類した。また、明治四年七月の廃藩置県以降を「明治以降史料」として「江戸時代史料」と区別した。なお、いくつかの項目に該当するものは適宜一項目にのみ収めたため、本文書の利用者は全項目にわたって目を通されることを希望する。

一、形状中、書綴とあるのは書冊様の綴、長綴とあるのは長帳様の綴、小横綴とあるのは小横帳様の綴にしたものである。明治以降の史料には、冊・綴以外の形状は略した。

一、年代を推定したものは（ ）を付して区別した。

一、史料題名の下の（ ）内に表示した番号は、その史料の整理番号である。

一、本目録の作成には、杉本勲・藤野保・三本俊秋・木村忠夫・北条義堯・長崎沢子・菟田克子・中元美智子があつた。
二、同家の家系を次に掲げる。



目次

秋月黒田家文書

一、江戸時代史料

1	家		一頁
(1)	家譜・系図		一頁
(2)	家督		二頁
(3)	冠婚葬祭		五頁
(4)	その他		一頁
2	領知		一五頁
3	法令		一六頁
4	日記・記録		二三頁
5	行政・軍事		三三頁
(1)	対幕府		三三頁
(2)	対本藩		三八頁
(3)	秋月支藩		四二頁
(a)	職制		四二頁
(b)	行政		四六頁
(c)	訴訟・刑罰		五一頁
(d)	財政		五九頁

[illegible]

(7) 褒賞	一〇八頁
(8) その他	一〇八頁
8 絵図	一〇頁
9 その他	一一三頁
二、明治以降史料	一一五頁

秋
月
黒
田
家
文
書

一、江戸時代史料

1 家（藩主）

(1) 系図・家譜

※ 一 靈鑑

（年度未詳）

書冊 一冊
(六〇六)

二（仮題）歴代御法名記

（年度未詳）

書冊 一冊
(五五二)

※ 三 御系譜書継草稿

弘化三年

書冊 一冊
(五七七)

※ 四 御靈鑑書継草稿

（年度未詳）

書冊 一冊
(五六五)

五 御續書草稿

（年度未詳）

書冊 一冊
(五九五)

※ 六 御一家様御續書

（年度未詳）

長帳 二冊
(二六六)

※ 七 御續書

（年度未詳）

書冊 一冊
(五八八)

※ 八 源姓黒田氏系譜序

（年度未詳）

書冊 一冊
(二二八)

※ 九 黒田御外戚傳

（年度未詳）

書冊 一冊
(二六〇)

※ 一〇 外戚傳

（年度未詳）

小横帳 一冊
(一一三〇)

※ 一二 長重公御代記

寛文五年～宝永七年

書冊 一冊
(五一)

※ 一三 長重公御代記

寛文五年～宝永七年

書冊 一冊
(八〇)

※ 一四 長軌公御代之記

宝永七年～正徳五年

書冊 一冊
(六二五)

※ 一五 長軌公御代記

宝永七年～正徳五年

書冊 一冊
(六二六)

※ 一六 長貞公御代之記

正徳五年～寛延元年

書冊 一冊
(六〇九)

※ 一七 長貞公御代記

正徳五年～宝暦四年

書冊 一冊
(六二七)

※ 一八 黒田家譜略説一～四

（高政～義高時代）

書冊 四冊
(三三・三二・二九・二六)

※ 一九 黒田家譜略説四

天保十五年八月写

書冊 一冊
(五五三)

※ 二〇 黒田續家譜一～四

（年度未詳）

書冊 四冊
(一〇・六・七・八)

※ 二一 忠之記

（年度未詳）

書冊 一冊
(九)

※三 黒田傳記

（年度未詳）

書冊 一冊（二五）

※三 御年譜草稿

寛政八年～文化七年十一月

（五八九）

※三 雜事記

（元和～元禄）

書冊 一冊（一九）

御系図の儀に付調書

(2) 家督

二四 御願書類写之書付

イ 御跡目御願ニ付從御本家御添願之御先例桜田御記録之写
（二二五八の二）

宝曆十二年二月

切紙 一通

ロ 長崎御受持ニ付御參勤御暇御例年之儀ニ付從御本家様公辺へ御差出之御書面案写
（二二五八の二）

（宝曆十二年）六月

切紙 一通

ハ 御本家様御添願之御書面写

（宝曆十二年）

（二二五八の三）
切紙 一通

家督相統願

二五 御意書

（宝曆十二年）六月

長綴 一綴（二五二〇）

渡辺半太夫宛、豊松様、興徳院様御遺領御拝領被成に付

二六 長堅公御幼年御家督ニ付家老中御誓紙差上候儀福岡

御家老中江差出伺候書

（安永三年）十一月

長綴（包紙入）一綴（二五二八）

※三 長舒公御相續記錄

天明四・五年

書冊 一冊（五五八）

二六 御家督被為蒙仰候ニ付被仰出之書付

文化五年四月九日

卷紙（包紙入）二通（八四七）

二七 御殿様御意之書付

文化五年五月十八日

切紙（包紙入）一通（二一七五）

甲斐守様御家督無相違御拝領被成

二八 御仮御養子之儀ニ付公辺始御勤一件

イ 御願書写并御添書

文政十年十月十八日

切紙（包紙入）二通（二六三六の三）

御老中宛、仮養子願

ロ 御使札写

（文政十年）十月十八日

切紙（包紙入）一通（二六三六の四）

御老中宛、仮養子の件

ハ 御返札写

（文政十年）十一月廿四日

切紙（包紙入）一通（二六三六の二）

水野出羽守宛、御嫡子修理儀死去に付養子願書一覽の

事

二 書状

（文政十年）十一月廿六日

卷紙 一通（二六三六の二）

渡辺長左衛門・高橋市郎大夫宛吉田齋之助・吉田縫殿

外宛、松佐渡守様御三男亀之助様御仮養子御相談済の儀

※三 長元公御引移前後之記
文政十年～十二年
(五七六・五六六・五六九)
書冊 三冊

※三 長元公御養實御續下調
(文政)
(六二四)
書冊 一冊

※三 御養子御縁組記録
文政十・十一年
(九二)
書冊 一冊

※三 (仮題) 御相統并御隠居記録
文政十二年
(二〇三)
書冊 一冊

※三 御隠居・御家督御記録
文政十二年十月
(五六七)
書冊 一冊

※三 長韶公
長元公 御隠居・御家督御手数草稿
天保元年
(一八〇)
書冊 一冊

※三 長韶公
長元公 御隠居・御家督記録
天保元年
(六二〇)
書冊 一冊

※三 御隠居・御家督御記録一
天保元年
(五四〇)
書冊 一冊

※三 長韶公
長元公 御隠居・御家督記録二
(天保元年)
(六三三)
書冊 一冊

※四 長韶公
長元公 御隠居・御家督記録三
(天保元年)
(六二二)
書冊 一冊

※四 長韶公御隠居・長元公御家督御記録一
(天保元年)
(五五九)
書冊 一冊

※四 長韶公御隠居・長元公御家督御記録二
(天保元年)
(五四九)
書冊 一冊

※四 長韶公御隠居・長元公御家督御記録三
(天保元年)
(五五七)
書冊 一冊

※四 長韶公御隠居・長元公御家督御記録
(天保元年)
(五五〇)
書冊 一冊

※四 長元公御家督後御回勤帳
(天保元年)
(五四三)
書冊 一冊

哭 奉書控
イ 廿六日御役人中一同申達
(安政頃)
(二二三の二)
切紙 一通

口 廿九日於席御役人一同申談候口達
(安政頃)
(二二三の二)
卷紙 一通

ハ 廿九日於大書院御納戸御下組外直口達之写
(安政頃)
(二二三の三)
切紙 一通

弔 国之進様御乞戻一件ニ付双方差出候書付写
(安政頃)
(二二三の二)
卷紙(包紙入) 一通

養子縁組の件
(安政頃)
(二二三の二)
卷紙(包紙入) 一通

※ 四 長元公御隠居・長義公御家督一件申請書 （二五四）

（万延元年） 書冊 一冊

※ 四 長元公御隠居・長義公御家督一件申請書 （五六八）

万延元年八月 書冊 一冊

※ 五 長元公御隠居・長義公御家督一件申請書 （六二二）

万延元年 書冊 一冊

五 長元公御隠居・長義公御家督之節御本家様より之御願書写 （一二六〇）

万延元年八月十八日 巻紙 一通

五 御書入

イ 書状 （二四〇〇の七）

（文久二年）二月三日 切紙 二通

自笑庵々吉田右近・田代四郎右衛門外宛、附、渡辺善右衛門外の添状

ロ 書状 （二四〇〇の二）

（文久二年）三月七日 切紙（封筒入）二通

自笑庵々家老中宛、相続の義に付

ハ 書状 （二四〇〇の二）

（文久二年）三月十八日 切紙（封筒入）一通

自笑庵々田代四郎右衛門・太田多左衛門宛、相続の件

ニ 書状 （二四〇〇の九）

（文久二年）七月五日 切紙（包紙入）一通

自笑庵々吉田右近・箕浦主殿外宛、伴婚姻の義に付

ホ 書状 （二四〇〇の五）

（文久二年）七月廿五日 切紙（包紙入）二通

自笑庵々吉田右近・田代四郎右衛門外宛、篤之九家督に付

ヘ 書状 （二四〇〇の三の二）

（文久二年）八月十五日 切紙（包紙入）一通

篤之九々吉田右近・田代四郎右衛門外宛、太陽院様以御直筆被仰出御遺志奉請繼、再興に及度候

ト 書状 （二四〇〇の三の二）

（文久二年）八月十五日 切紙（包紙入）一通

今般家督蒙仰に付

チ 書状 （二四〇〇の六）

（文久二年）八月十五日 切紙 二通

篤之九々吉田右近・太田多左衛門宛、家督蒙仰に付

リ 書状 （二四〇〇の三の三）

（文久二年）八月十七日 切紙 一通

上田左門・宮井左平太々吉田右近・田代四郎右衛門外宛、殿様々尊公様方へ御書被下候に付

ヌ 書状 （二四〇〇の四）

（文久二年） 切紙（包紙入）一通

自笑庵々吉田右近・田代四郎右衛門外宛、篤之九家督に付

※ 五 岩虎様御出府ヨリ急御養子御願済殿様逝去御発迄

（文久二年） 書冊 一冊

吾書状写

(文久二年)

卷紙 一通

山田齊面・伊藤作右衛門、養子縁組に付

※ 五 御即位記録

(幕末)

書冊 一冊

五 御先代御家督之節次第

(江戸後期)

長綴 一綴・巻紙 一通

五 御隠居・御家督被為濟候付一統心得之次第写(九二〇)

(江戸後期)

長帳 一冊

五 二月朔日主殿・伴左衛門馬場之御屋敷へ参上之上重

役出会差出候書面之写

(江戸後期) 二月朔日

巻紙 一通

甲斐守様養子の件

五 御意書

(江戸後期) 六月

長綴 一綴

御先代御家督の砌、福岡被下之

(3) 冠婚葬祭

※ 六 元姫様御縁組御願一件書拔

寛政五年

書冊 一冊

六 覚

(寛政五年) 十一月

書綴 一綴

唐橋様御記録之写、元姫様縁組に付

六 元姫様御引越一件(大坂記録書拔)

(寛政五年) 十月

卷紙 一通

七 松大和守様御使者を以御縁組御許容被仰遣候御口上

書之扣

(江戸後期) 四月十六日

折紙(包紙入) 一通

八 御縁組御願濟御達書写

文化四年十一月廿九日

切紙(包紙入) 二通

九 御口上手控

(文政十一年) 子十二月

巻紙 一通

於雄様御縁談の事

十 書状

(文政十二年) 二月廿四日

巻紙 一通

小河専太夫・宮内十右衛門、伊藤半大夫宛、於雄様の事

十一 (仮題) 於雄様御破縁之覚

(文政十二年) 四月

巻紙 一通

十二 御口上手控

(文政十二年) 五月

切紙 一通

お雄様の事

十三 書状

(文政十二年)

切紙 一通

太夫様・御雄様御縁辺の義

十四 於雄様御破縁一件二付御双方様御取替候御口上手書

イ（仮題）於雄様御破縁の儀に付覚

（一五六六の二）

文政十二年

巻紙 一通

ロ（仮題）拝借米の件に付覚

（一五六六の二）

文政十二年

切紙 一通

七 文政十二年於唐橋家御縁談御内約之处、御熟談之上
御破縁之義唐橋家より申来候御口上書

（二四三四の二六）

文政十二年

（包紙のみ）

三 於栄様御縁辺一件二付御書付

（一五八七）

（江戸後期）

巻紙（包紙入） 一通

三 御姫様御道具類覚

（五九〇）

文政十三年五月

書冊 一冊

四 秀姫様竹中様御離縁一件書付

（九五二）

イ 手控

天保八年十二月

巻紙（包紙入） 一通

於秀様御事竹中殿へ御引越の儀に付

ロ 手控

天保九年三月十九日

巻紙（包紙入） 一通

於秀様御事竹中殿へ御引越の儀に付

ハ 手控

（天保九年）

巻紙（包紙入） 一通

於秀様御事竹中殿へ御引越の儀

ニ 書状

（天保八年）十二月朔日

（九五三）

郡金右衛門より太田多左衛門宛、於秀様の事

切紙（包紙入） 一通

五 下書

（九五四）

（天保八年）

切紙 一通

御離縁之儀再応被仰入候御口上扣

六 江戸詰中御役人中より懸合書状

（九五八）

（天保八年）九月十一日

切紙 一通

岡本弥三郎外より戸波六兵衛外宛、於秀様の件

七 福岡江差出候書付控

（九五九）

天保八年十月

切紙 一通

秋月家老中より

八 覚

（九六〇）

（天保八年）西十月

長綴 一綴

於秀様離縁の事

九 福岡へ差出候書付扣

（九五五）

天保八年十二月

切紙 一通

秋月家老中より、於秀様御事竹中様へ御引越の儀に付

〇 御離縁之儀被仰入候節竹中様より御返答御口上扣

（九七四）

（天保八・九年）

巻紙（包紙入） 一通

一 覚

（九七六）

（天保九年）三月

切紙 一通

秀姫様の事

二 竹中様へ被仰入候御口上扣

（九五七）

天保九年五月朔日

切紙 一通

於秀様離縁の件

三 竹中様御届案

天保九年十一月十八日

切紙 一通

(九五六)

竹中主税助、韶翁娘との離縁の儀

四 竹中様御離縁御熟談被進候御口上手扣

天保九年十一月五日

卷紙(包紙入) 一通

(九七五)

※ 五 於秀様御引越御道具類扣

(天保九年)

書冊 一冊

(一五〇)

※ 六 鋤姫様御婚姻御式書

慶応四年八月

書冊 一冊

(一四五)

七 口上控

(明治元年) 十一月四日

卷紙(包紙入) 一通

(二〇四六)

御馬回中、鋤姫様御入與の件

八 覚

(明治元年) 十一月四日

切紙(包紙入) 一通

(二一〇五)

御組外中、鋤姫様御入與の義

九 鋤姫様御婚姻御式下書

(明治元年)

書冊 一冊

(五一)

十 書狀

(明治元年)

切紙(包紙入) 一通

(二六五八)

於鋤様の儀

※ 九 口上覚

(明治元年) 十一月四日

切紙 一通

(九二四)

無足中、鋤姫様の儀

三 口上覚

(明治元年) 十二月十九日

切紙(包紙入) 一通

(二三一八)

横目役中、鋤姫様はじめ南御殿御住居の儀

三 書狀

(明治初期) 六月十二日

切紙(包紙入) 一通

(二六三の二)

坂田第三、廉代様御破縁に相成

四 (仮題) 覚

(江戸後期)

卷紙 一通

(二六三〇)

御姫様方へ御仕方金御不足に付

五 覚

(江戸後期) 九月十七日

切紙 一通

(二五二二)

町田善藏、於延様御縁組願の件

六 半太夫殿へ御家老中へ御自筆を以御返書下書

(二四七二)

(江戸後期) 三月十八日

切紙 一通

御学様御縁組の儀

七 御学様御縁組初発福岡へ御相談

(江戸後期) 三月

切紙 一通

(二五六三)

八 書狀

(江戸後期) 三月七日

卷紙 一通

(二五二〇)

伊藤半太夫、吉田縫殿・太田多左衛門外宛、学様縁組の件

九 書狀(首欠)

(江戸後期)

卷紙 一通

(二四八五)

縁組の件に付

一〇〇 書状

（二四九一）

（江戸後期）三月廿三日

巻紙（包紙入）一通

磯淳ら臼井監宛、縁組取結の嘆願書に付

一〇一（仮題）達

（二四一五）

（江戸後期）

切紙（包紙入）一通

於松様竹中吉太郎殿へ御縁辺御取組に付

一〇二 若狭様御縁辺江為洛候付御下調子一件

（二一五四）

（江戸後期）四月三日

書冊 一冊

一〇三 書状

（二四四六）

（江戸後期）正月廿三日

切紙 一通

垂井半左衛門ら田代四郎左衛門宛、京都庭田家へ御縁組御願の儀に付懸合状

※一〇四 若殿様御縁辺書

（九三）

（江戸後期）

書冊 一冊

一〇五 覚

（八一）

（安永七年）

書綴 一綴

瑞耀院様御中陰明の際の諸処置

一〇六 覚

（八二）

（安永七年）

書綴 一綴

瑞耀院様御成行に付御跡御構近年の間御取行

※一〇七（仮題）朝陽院様御逝去一件

（二四四）

文化五年正月一二月

書冊 一冊

一〇八 朝陽院様御不例御差重被成候ら御逝去後迄福岡ら追々御医師且御家老其外大目付被差越候節御取扱

（二五六）

文化六年二月^{（五カ）}

書冊 一冊

一〇九 縫殿助殿御渡之福岡懸合之書状

黒田長舒逝去一件

イ 書状

（二一五一の六）

（文化四年）十月十二日

切紙 一通

榎玄蕃ら吉田縫殿助宛、其節卒度御伝被成候御名の儀

ロ 書状

（二一五一の三）

（文化四年）十一月十三日

切紙 一通

榎玄蕃・櫛橋又之進ら宮崎織部外宛、甲斐守様御容躰に付

ハ 書状

（二一五一の五）

（文化四年）十二月八日

切紙 一通

榎玄蕃・斉藤三郎大夫ら吉田縫殿助・宮崎主計宛、其御許様御出来の御凶左右御承知

ニ 書状

（二一五一の七）

（文化五年）正月十日

切紙 一通

榎玄蕃ら吉田縫殿助・宮崎藤右衛門宛、御手数一件

ホ 書状

（二一五一の二）

（文化五年）正月十三日

切紙 一通

榎玄蕃ら吉田縫殿助・宮崎藤右衛門宛、御手数取起の儀従江戸飛脚

へ 書状 (一一五一の二)

(文化五年) 正月七日 切紙 一通

横玄蕃々吉田縫殿助・宮崎藤右衛門宛、御内向御用御
手数

ト 書状 (一一五一の四)

(文化五年) 正月十日 切紙 一通

横玄蕃々吉田縫殿助・宮崎藤右衛門宛、長舒死亡の連
絡時期打合せ

チ 書状 (一一五一の八)

(文化五年) 二月八日 切紙 一通

斎藤甚右衛門々渡辺帶刀外宛、朝陽院様御入寺に付

二〇 長舒公御不例ニ付従長房公家老中へ被下候御書

(九四九)

(文化四年) 十月十九日・十一月朔日巻紙(包紙入) 二通

黒勘解由々宮崎織部・渡辺半之助外宛

二一 (仮題) 黒田甲斐守長舒卒去一件書類

イ 甲斐守様御卒去御届 (七八一の二)

(文化五年) 長綴 一綴

ロ 甲斐守様御卒去ニ付而之御手数 (七八一の二)

(文化五年) 長綴 一綴

ハ 甲斐守様御病氣御差重被為及御大切候付而之御
手数

(文化四・五年) (七八一の三)

長綴 一綴

二 甲斐守様御病氣御勝不被成候付御届 (七八一の四)

(文化四・五年) 長綴 一綴

ホ 甲斐守様御病氣弥御勝不被成候付而之御手数

(七八一の五)

(文化四・五年) 長綴 一綴

へ 甲斐守様御病氣頃日御勝不被成候付而御手数

(七八一の六)

(文化四・五年) 長綴 一綴

ト 甲斐守様々御相続之御願書案 (七八一の七)

文化五年 長綴 一綴

二三 御手数 (一一五七)

(文化五年) 切紙 一通

藩主死亡届出手数

二三 書状 (二〇〇六)

(文化五年) 三月廿七日 切紙 一通

原田傳右衛門々吉田斎宮助外宛、大殿様内実は御逝去
に付

※二四 東陽院様百五十回御忌御法事記録 (六一六)

文化十一年三月廿日 書冊 一冊

※二五 此方様・御本家様・京都御縁家様方・江戸御縁家様
方・福岡御縁家方御吉凶記録 (八四)

文化十四年 書冊 一冊

※二六 興雲院様二百回御忌御法事御祝記録 (六一五)

文政五年二月 書冊 一冊

二七（仮題）覚

（二七八）

文政十年六月

切紙 一通

御本家様ニ而御正統様御法事被成御執行候節以来殿様
御見廻之御品御進上に付

二六 長韶公御逝去御葬式御次第書

（五〇九）

天保十一年二月

小横帳 一冊

※二九 英雲院様百五十回御忌・東陽院様二百回御忌御取越
御法事記録

安政六年三月

書冊 一冊

三〇 縫殿助殿御渡被成候江戸進合書状

イ 書状

（一二四四の二）

（江戸後期）十月廿一日

切紙 一通

殿様御容躰不一通に付御代番の儀

ロ 書状

（一二四四の四）

（江戸後期）十月廿一日

切紙 一通

牧安左衛門・渡辺平大夫宮崎織部外宛、殿様御快然
の御容体

ハ 覚

（一二四四の三）

（江戸後期）十二月十九日

切紙 一通

若殿様来年御家督の儀

ニ 書状

（一二四四の二）

（江戸後期）正月十日

切紙 一通

御殿様御不例不容易御容躰に付若殿様御下向一件

三三 書状

（二五七〇）

（江戸後期）正月廿五日

巻紙 一通

原田傳右衛門吉田斎宮助・太田多左衛門外宛、大殿
様御不例の件外

三三 書状

（二二九三）

（江戸後期）五月十四日

切紙（包紙入）二通

垂井半左衛門吉田右近・箕浦主殿外宛、大殿様御逝
去に付

※三三（仮題）黒田家覚書

（八八）

（江戸後期）

書冊 一冊

法事関係

※三四 御本家様并御縁家様共ニ御凶事之記

（八六）

（江戸後期）

書冊 一冊

三五 御本家様御凶事之記但御法事御回向之類共

（二六二）

（江戸後期）

書冊 一冊

※三六 御法號御年回記

（八二）

（年度未詳）

書冊 一冊

三七 御手数

（二〇四二）

（江戸後期）

巻紙 一通

殿様卒去に付

三六 御凶事ニ付御主意之御直書写

（二五八九）

（江戸後期）

切紙（包紙入）二通

三元 覚

(二二〇〇)

(江戸後期)
葬儀次第

切紙 一通

二〇 書状

(二五五一)

(江戸後期)
溜池御前様御逝去の件

切紙(包紙入) 一通

一九 書状

(二二五一)

(江戸後期) 六月十八日
西川左大夫吉田齋宮助・太田多左衛門外宛、溜池御前様逝去報知

切紙 一通

一八 御齋非時頂戴御礼帳

(二二〇四)

(江戸後期) 三月九日

長帳 一冊

一七 御忌服御伺書写

(二六七)

(江戸後期)

巻紙(包紙入) 二通

一六 書状

(二五二五)

(江戸後期) 十月廿九日
真藤可楽六戸波六兵衛・井上庄左衛門宛、御満衛様御逝去通知

切紙 一通

一五 (仮題) 死亡通知下書

(二〇八三)

(江戸後期)

切紙 一通

一四 書状

(二四〇一の四)

(江戸後期) 五月十九日
太田多左衛門吉田齋宮・吉田静馬外宛、亀次郎様卒去に付

切紙 一通

(4) その他

三〇 心性院殿屋鋪引移二付諸事作法被仰付候次第

(二一九二)

宝曆七年九月十二日

長綴 一綴

渡辺半太夫・宮崎藤右衛門田中波門・田代宅左衛門外宛

二九 御台所奉行記

(九二〇)

(天明五年~寛政十年)

書冊 一冊

二八 音次郎様御誕生并於吟産前後一件

(二〇二〇)

寛政七年

書冊 一冊

二七 書状

(二四九九)

(江戸後期) 九月七日

切紙(包紙入) 一通

戸波六兵衛吉田齋宮・太田多左衛門外宛

※二六 長邦公御病氣御届扣

(七九)

(宝曆九年~文化十二年)

書冊 一冊

※二五 江戸記録朝陽院様御病中一切御勤之御手数一件

(八二)

文化五年二月

書冊 一冊

※二四 櫻田江年中御勤之記

(二一五)

文化十一年、文政十二年正月改

書冊 一冊

※二三 櫻田江年中御勤控

(二五二)

文政十二年正月改

書冊 一冊

※一四 若御前様御出府ニ付御召物呉服其外書留帳（八三）

文政十三年 書冊 一冊

一四 追加御惣客様御盃事控（一二〇）

（幕末） 書冊 一冊

※一五 御構御取約一件主意書（六〇五）

天保五年 書冊 一冊

御出府後諸事御改革の節御構御取計に付御前様へ
申上候次第并役女中已下へ相論候主意

※一六 両御構諸事御取行覚（六一九）

天保五年五月 書冊 一冊

※一七 長元公御子様御育方ニ付御直書控并直惣女中心得方
申談等控（五九六）

天保七年 書冊 一冊

一五 上田左門江戸表へ被差登節申談候扣（一二七）

天保十二年九月 切紙 一通

御満衛様・御前様儉約の義

一五 覚（一一〇）

（江戸後期） 長綴 一綴

内記様御家政一件

一五 両御構役女中江相渡覚書控（二七七）

（江戸後期） 書冊 一冊

儉約申渡

一五 未九月申八月迄御茶屋御入用調帳（七三八）

（江戸後期） 書冊 一冊

一五 御茶屋未九月申八月迄一ヶ年惣入簡約覚（七四八）

（江戸後期）二月 卷紙 一通

一五（仮題）御奥省略報告（二六五）

（江戸後期） 切紙 一通

一五 江戸御構女中諸渡（二二九）

（江戸後期） 卷紙 一通

一五 覚（二三八）

（江戸後期） 切紙 一通

御奥幕方省略の件

一五（仮題）御召物覚（八二九）

（江戸後期）四月～十二月 書綴 一綴

一五 當卯春於江戸内記方へ御渡被遊候御直書付之写（一二七）

文政二年三月廿二日 切紙 二通

出福の節に付覚、附、於雄様福岡御出ニ付人馬入用覚

一六 遂姫様御上京前於鈴様御同道ニ而御内分福岡江為御
步行御出被成候懸合書状并福岡ニ而御手数書類（二〇八八）

（カ）

文政十年秋

（二〇八八）

候事

一 甲斐守様御女於遂様御城下近辺所々御撥覧被成

（カ）（二〇八八の二）

（文政十年） 長綴 一綴

口 秋月於^(カ)遂様御上京ニ付大里々下関江御渡海立御船組

(文政十年) (二〇八八の二) 折紙 一通

ハ ^(カ)遂姫様御召船一件

(文政十年) (二〇八八の三) 切紙 一通

※一六 書状

(天保五年) 切紙 一通

於延様当秋御出府被成候に付右御入目金の義

※一三 書状

(天保五年) 切紙 一通

於秀様御出府に付

一三 廿一日便江戸言上

(江戸後期) 切紙 二通

於延様於秀様と改名の事

一四 書状

(江戸後期) 二月廿二日 切紙 一通

伊藤半大夫々宮内十郎右衛門外宛、於雄様今般其御地御滞留都合の義

一五 書状

(江戸後期) 五月十一日 切紙 一通

戸波六兵衛々吉田斎宮・太田多左衛門外宛、御満衛様御衣裳藏御焼失に付嘉麻郡百姓の女共々木綿献上の義

※一六 慶姫様御出府ニ付御土産之進物并被下物之覚 (二四三)

(江戸後期) 書冊 一冊

※一七 御定例御箇條付り御付中心得之事

(江戸後期) 長帳 一冊

家老中々新御殿御納戸頭中宛

一六 御馬具請帳写

寛政十年二月 (二六二) 書冊 一冊

一五 御武器請帳写

文政二年三月 (二六四) 書冊 一冊

一四 御寶藏御讓御武器請帳写

文政二年六月 (二二二) 書冊 一冊

※一七 御腰物請帳控

安政五年八月 (二九三) 書冊 一冊

一三 大殿様御道具御武器扣

万延二年二月改 (一八) 書冊 一冊

※一三 御宝藏御書藏諸御道具類控

慶応元年七月改 (六一〇) 書冊 一冊

一四 御道具請帳御旗

明治三年十一月 (二六三) 書冊 一冊

※一五 御甲冑諸道具控

明治四年六月改 (二五七) 書冊 一冊

一六 御馬具御次馬具扣帳

明治四年七月 (二五五) 書冊 一冊

一七 御道具請帳写

(年度未詳) (二五四) 書冊 一冊

一七 御道具帳

（年度未詳）

書冊 一冊
（二五三）

一七 若殿様御腰物請帳写

（年度未詳）

書冊 一冊
（二五二）

一八 御道具請帳写

（年度未詳）

書冊 一冊
（二五一）

一九 瑞耀院様御道具請帳写

（安永頃）

書冊 一冊
（二五〇）

二〇 御道具請帳写

（年度未詳）

書冊 一冊
（二四一）

二一 若殿様御譲り、御前様御用、太田原様・武田様江御持
参、古川様江被進、織田様江被進

（年度未詳）

書冊 一冊
（二〇七）

刀剣類の譲与

二二 請帳消分

（年度未詳）

書冊 一冊
（二〇八）

刀剣譲覚

二三 御大小控

文久元年七月改

書綴 一綴
（五九一）

※二四 御屏風請帳写并御道具請帳

（年度未詳）

書冊 一冊
（二二七）

※二五 黒田秘記

（年度未詳）

書冊 一冊
（二二〇）

黒田家御重寶故實

※二六 黒田家御重寶故實

（年度未詳）

書冊 一冊
（三〇）

※二七 御重寶記御数奇道具故實

（年度未詳）

書冊 一冊
（三三）

※二八 御重寶記御数奇道具故實

（年度未詳）

書冊 一冊
（二六）

※二九 御重寶記御武器故實

（年度未詳）

書冊 一冊
（二七）

※三〇 御書物請帳

慶応元年六月

書冊 一冊
（二四六）

※三一 御旗馬幟御紋之由來

（年度未詳）

書冊 一冊
（二三）

※三二 黒田家旗馬幟并御紋由來

（年度未詳）

書冊 一冊
（二四）

※三三 書状

（幕末）

切紙 一通
（九三四）

高德の長徳宛、願置候一条に付

一六 書状

（年度未詳）六月十日

切紙 一通
（二二九）

吉田翁の吉村臨四郎宛、正五位様御容身に付

一七 書状

（江戸後期）十一月廿四日

卷紙（包紙入）一通
（二三九八）

箕浦主殿の吉田右近・田代四郎右衛門外宛、御二所様
御逢の模様報知

一九 書状

(江戸後期) 九月十五日

(二三五六)
巻紙 一通

広長と黒田甲斐守宛、借用金の件

一〇 覚

(江戸後期) 三月十七日

(二六四五)
巻紙 一通・切紙 二通

本の借用、附、演説覚

二〇 (仮題) 朝陽院様覚書

(江戸後期)

(二六六五)
切紙 一通

二〇 覚

(江戸後期) 十一月十二日

(二六七四)
巻紙 一通

半大夫と三兵衛外宛

二〇 書状

(江戸後期) 十月十四日

(二〇二二)
切紙 一通

吉田縫殿助外と吉田久大夫外宛、寿光院様御不例に付

二〇 御無心御禮之上又御無心之御状也

(江戸後期)

(九四八)
切紙(包紙入) 一通

堤三信と黒田甲斐守宛

二〇 書状(首尾欠)

(江戸後期) 十月九日

(八八六)
巻紙 一通

堤広長と黒田甲斐守宛、難渋に付御助情願

二〇 書状

(江戸後期) 七月廿三日

(九八七)
切紙 一通

罷越候期日の件

二〇 覚

(年度未詳)

(一〇三四)
一紙(包紙入) 一通

御伝母沢野の事

2 領知

※ 一 長興公江御讓金并五万石御積書写帳

(元和九年)

(五九四)
書冊 一冊

二 (仮題) 筑後川領知之儀二付口上書

(宝暦十年) 九月

(九三三)
書冊 一冊

有馬中務大輔家来笠井但見方

※ 三 演説書

(宝暦十年) 十月

(二二七)
書冊 一冊

筑後川境界の儀

四 筑後・筑前川出入二付宝暦十年十月福岡へ御出之節

御持参被成候覚書之下書

イ 覚

(宝暦十年)

(一一三三の二)
長綴 一綴

日田御代官所御用米運送差支出来候は、川境論に相障

ロ 書状(案)

(宝暦十年)

(一一三三の二)
切紙 一通

揖斐十太夫と毛利長右衛門外宛、日田御用米運送差支

一件に付

五（仮題）忠之公の分知目録

（元和九年）

（五〇六）
書綴 一綴

太田氏蔵郡府秘記に依る

3 法令・規式

一 御制札

（寛文七年～明和二年）文政元年写

（七二三）
書冊 一冊

二 札辻御制札之写

（天和二年五月～明和二年二月）

（二二六）
書冊 一冊

※ 三 御制札写

（天和二年五月外）

（六〇二）
書冊 一冊

四 元禄二巳年正月廿二日浦觸之節覺書を差添遣候儀於
江戸山岡十兵衛相窺候覺書

（元禄二年）

（二六一七）
断簡 一枚

密貿易の件

五 先年被仰出候觸書写

（正徳四年五月～享保十一年九月）

（一一五三）
書冊 一冊

唐船私商売の件

六 武家諸法度

享保二年三月十一日

（八五四）
卷紙 一通

七 拔荷筋二付御觸書并御仕置御下知書写

享保四年～安永四年

（四七八）
書冊 一冊

※ 八 大番所勤方心得

宝暦五年三月

（六六七）
書冊 一冊

九 安永三甲午年正月廿二日大御目付より里御觸写

安永三年十月

（二六二九）
卷紙 一通

一〇（仮題）公義大目付の被仰出

（年度未詳）四月

（二四〇八）
長綴 一綴

二 大御目付觸写

（年度未詳）四月

（八六六）
卷紙（包紙入）一通

道中往來の儀

三 柵之儀二付大目付廻状写

文化七年六月廿四日

（八〇六）
切紙（包紙入）一通

三 定・御定則秘書・御定書写・御掟

元和八年九月・文政十三年三月・天保十年九月外

（六〇三）
書冊 一冊

※ 四 服忌令

元文元年九月十五日

（二四七）
書冊 一冊

五 長恵公御代御者頭・御側筒頭・御郡奉行・御勘定奉
行・御町奉行相渡御書付控

明和九年十月

（五九九）
書冊 一冊

※ 六 御鎧初御規式

天明五年十二月

（四七五）
書冊 一冊

一七 御壁書写

享和元年十一月改

（一四〇三）
長帳（包紙入）一冊

一六 文化三年大火二付御達書

イ 町達

文化三年十月

渡辺帶刀 林久左衛門宛

(一五〇九の二)
切紙 一通

ロ 御財用方之面々へ申合之覚

(文化三年) 十月六日

渡辺帶刀

(一五〇九の二)
卷紙 一通

ハ 文化三寅九月廿五日出火二付一統二被仰出書付

(文化三年) 九月廿八日

ニ 御家中竹木御渡方之達書

(文化三年) 九月廿八日

ホ 御家中達

(文化三年) 九月廿八日

家老中々、拝領錢被仰付候

ヘ 御家中拝領錢達

(文化三年) 九月廿八日

ト 申達

(文化三年) 十月

渡辺帶刀 林久左衛門宛

一九 御家中一統御達書

文化六年十二月十五日

御心付米御渡方

(八七三)
卷紙 一通

※ 三 御規格帳

文化六年

三 覚

文化六年六月

長房 〆者頭中宛、取籠者有之時

書冊 一冊
(一四七九)
卷紙 一通

三 定

文化八年八月

宮崎織部、辻番所張紙

卷紙 一通
(八八二)

三 江戸御法令控追々被仰出覚

文化九・十年

書冊 一冊
(七五)

※ 二 定書

(年度未詳)

書冊 一冊
(一〇五)

※ 二五 定書

文化十三年九月

書冊 一冊
(一〇七)

※ 二六 定書

文化十三年三月

書冊 一冊
(一〇四)

※ 二七 御定書

文化十三年九月

書冊 一冊
(六一三)

※ 二六 御直筆之写 定

文化十三年三月

書冊 一冊
(一八七)

二 元 長詔公御直筆写

文化十三年三月

書冊 一冊
(六〇二)

当家定書の趣可相守

三 御家内御規格

文政元年写

（二二）
書冊 一冊

三 文政二年〆三ヶ年御省略二付御達書

（文政二年）

（一五〇八）
長綴 三綴

※ 三 定書

文政六年九月

（一一）
書冊 一冊

※ 三 御定書

文政七年

（一〇八）
書冊 一冊

三 （仮題） 覚書（首尾欠）

（文政）

（四九七）
小横綴 一綴

文政十年三月十八日將軍家齊公御昇進御位階被為洛候
節御次第書写、正月廿日御法令書状写

※ 三 御鑑初二付御法書写

文政十一年正月

（一二五）
書冊 一冊

※ 三 御規格帳題目録全

文政十二年二月

（一二一）
書冊 一冊

三 法令規格草稿下

文政十三年八月

（四七三）
書冊 一冊

※ 三 定書

文政十三年三月

（一〇六）
書冊 一冊

※ 元 江戸御留守中御残書

文政十三年三月

（二四一）
書冊 一冊

※ 四 御残書写

文政十三年三月

（二二八）
書冊 一冊

郡町御定書

※ 四 （仮題） 定書

天保二年九月

（二〇九）
書冊 一冊

四 定

天保二年六月

（二四九八）
巻紙 一通

御門勤番之事外

※ 四 定書

天保四年八月

（二〇一）
書冊 一冊

放勤衣服定

※ 四 勘定所江御渡二相成候御定書

天保五年

（六一二）
書冊 一冊

※ 四 御残書写

天保七年三月

（二五九）
書冊 一冊

※ 四 江戸詰心得書

天保七年十二月

（一一〇）
書冊 一冊

※ 四 定書

天保十年九月

（二〇〇）
書冊 一冊

四 御定書

天保十一年八月

（二三四）
書冊 一冊

町奉行

四 御定書

天保十一年八月
郡奉行

書冊 一冊
(二二七)

五 定書

天保十一年八月

書冊 一冊
(一〇三)

五 定書

(年度未詳)

書冊 一冊
(五一二)

五 郡役所定書

(年度未詳)

長帳 一冊
(六四五)

五 御定書

(年度未詳)

書冊 一冊
(一一二)

五 御定書写

(年度未詳)

書冊 一冊
(一三九)

※ 五 定書

(年度未詳)

書冊 一冊
(一二三)

五 定

(年度未詳)

書冊 一冊
(二二九)

※ 五 御掟

天保十年九月

書冊 一冊
(一〇二)

※ 五 御法令御規格御制度之記

安政二年正月～文久二年

書冊 一冊
(六〇〇)

※ 五 衣服飲食定

安政三年・同六年

書冊 一冊
(五九七)

六 (仮題) 定書

(年度未詳)

書冊 一冊
(二七)

六 留守中定

(年度未詳)

書冊 一冊
(七三)

六 御掟

(年度未詳)

書冊 一冊
(四五五)

※ 六 服忌令

安政十年

書冊 一冊
(二五八)

※ 六 大殿様御直書之写

文久元年三月
御馬廻年番

書冊 一冊
(二八四)

※ 六 規格御間控

慶応元年閏五月写

書冊 一冊
(六〇四)

六 御達類写

慶応元年
山方関係

書冊 一冊
(一一二)

六 主法帳

(江戸後期)

長帳 一冊
(六三三)

※ 六 男女庶子制度

(年度未詳)

長帳 一冊
(一四九)

六 御側筒頭衆觸状写

(江戸後期) 閏七月十七日
出火以後雜説有之致騒動に付

切紙 一通
(八〇八)

七〇 諸役條令

（年度未詳）

書冊 一冊
（二二三）

七一（仮題）定書（首尾欠）

（年度未詳）

書綴 一綴
（四九八）

七二 規格帳

（江戸後期）

小横帳 一冊
（二二二）

※ 七三 御在府中御定格公辺御勤向御規格控上

（江戸後期）

書冊 一冊
（五七二）

※ 七四 御在府中御定格公辺御勤向御規格控下

（江戸後期）

書冊 一冊
（五七〇）

※ 七五 御在府御在邑中御定格御勤向御規格控帳附録

（江戸後期）

書冊 一冊
（五七三）

七六 御在府御在邑中公辺御勤向御規格控凡例

（江戸後期）

書冊 一冊
（三四）

※ 七七 御在邑中御定格公辺御勤向御規格控上

（江戸後期）

書冊 一冊
（五七二）

七八 御在邑中御定格公辺御勤向御規格控下

（江戸後期）

書冊 一冊
（三五）

※ 七九 御家御規格附録二

（年度未詳）

書冊 一冊
（二二三）

※ 八〇（仮題）規格帳

（年度未詳）

書冊 一冊
（二二九）

※ 八二 規格帳

（年度未詳）

書冊 一冊
（二九九）

※ 八三 法令規格簿

（年度未詳）

書冊 一冊
（二二四）

※ 八四 法令規格簿坤

（年度未詳）

書冊 一冊
（二四〇）

※ 八五 御家御規格一五

（年度未詳）

書冊 五冊
（二一六、二二〇）

八六 家居御法見込書

（江戸後期）十二月十二日

長綴（包紙入）一綴
（二二六）

八七 覚

（江戸後期）巳二月

巻紙 一通
（八八〇）

八八 目付頭郡奉行覚書

（江戸後期）

書冊 一冊
（五九八）

※ 八九 御供方心得

（年度未詳）

書冊 一冊
（二八）

※ 九〇 御供方心得

（年度未詳）

書冊 一冊
（三六）

※ 九一 御供方心得

（年度未詳）

書冊 一冊
（二五）

九二 江戸詰心得書

（年度未詳）

書冊 一冊
（五〇三の二）

渡辺典膳・宮崎織部・吉田斎、御作事所并役場定書

三 御在府中諸扣

(江戸後期)

殿様在府中の諸行事心得

(二二二)
小横帳 一冊

三 覚

(天保十二年) 閏正月四日

祐筆勤方心得

(一九七)
長綴 一綴

四 (仮題) 大儉執行二付覚

(江戸後期)

大目付宛

(二六〇)
巻紙 一通

五 覚

(江戸後期)

諸儀式儉約規定

(二三三)
巻紙 一通

※ 六 御法事御定

(年度未詳)

(二四八)
書冊 一冊

七 勝手次第

(江戸後期) 辰十月

吉凶事儉約の事

(二〇五三)
切紙 一通

六 (仮題) 大目付江達

(幕末)

(二〇一三)
切紙 一通

九 御條目一通

(年度未詳)

(六四一)
(包紙のみ)

※ 一〇 願届定

(江戸後期) 子四月

(六一四)
書冊 一冊

二 覚

(江戸後期) 未三月

家中への儉約令

(八二六)
書綴 一綴

二 御省略御達

(幕末) 四月十七日

(一〇三三)
書冊 一冊

二 (仮題) 甲斐守様御世帯向御取締二付殿様御意達

(江戸後期)

吉田縫殿・吉田久右衛門宛

(九〇六)
巻紙 一通

二 (仮題) 御家中達

(江戸後期)

家中一統所務減の事

(一〇一〇)
切紙 一通

二 御家中御達之^(マ)汚

(幕末) 四月

家中揚米に付

(一〇三二)
書冊 一冊

二 覚

(江戸後期)

家臣への達

(一〇七六)
切紙 一通

二 (仮題) 郡方中達

(江戸後期) 卯五月

(八六五)
巻紙 一通

二 覚

(江戸後期)

儉約に付諸方への達

(一四一四)
切紙 一通

二〇 郡奉行江郡筋之儀ニ付御意之扣

（江戸後期）

（二五八八）
切紙（包紙入）一通

二一 御役人中へ相達候口達扣

（江戸後期）

（九一五）
切紙 一通

格段御省略御取計に付勤方の件達

二二 公議所法則案

（明治元年）十二月

（八四五）
書冊 一冊

二三 御觸御達之写

明治二年四月

（三四二）
書冊 一冊

公用方

二四 御觸出写

明治二年七月

（三四〇）
書冊 一冊

二五 御觸御達之写

明治二年七月

（四六三）
書冊 一冊

二六 御布告類集

明治二年初秋

（三四一）
書冊 一冊

公議局用

二七 公議所御回達類控一

明治二年

（四二〇）
書冊 一冊

二八 賈金ニ付御布告下付類

イ 御觸写

（明治二年）七月廿四日

（一三六一の二）
切紙 一通

太政官

ロ（仮題）覚

（明治二年）

（一三六一の二）
切紙 一通

大監察宛

ハ（仮題）賈金の件につき覚

（明治二年）

（一三六一の三）
切紙 一通

ニ（仮題）賈金取締の件達

（明治二年七月）

（一三六一の四）
切紙 一通

太政官

ホ（仮題）賈金の件につき達

（明治二年）

（一三六一の五）
切紙 一通

大監察宛

二六 御觸御達之写

明治三年正月

（四三九）
書冊 一冊

二九 御觸御達之写

明治三年二月

（三二七）
書冊 一冊

三〇 御觸御達之写

明治三年五月

（四二七）
書冊 一冊

三三 御回達写

明治三年八月

（五二五）
書冊 一冊

三三 御廻達写

明治四年

（四〇八）
書冊 一冊

4 日記・記録

一(仮題) 秋月家日記

宝永七年～文化十三年

書冊 一冊 (二五六)

二日記

文政九年五月廿六日～同十月十八日

書冊 一冊 (四二五)

三御奥日記

文政十年正月元日～同正月廿日

書冊 一冊 (二三五)

四御奥日記

文政十年正月廿一日～同三月三日

書冊 一冊 (三四八)

五御奥日記

文政十年四月廿九日～同閏六月十六日

書冊 一冊 (三〇九)

六御奥日記

文政十年閏六月十七日～同八月廿五日

書冊 一冊 (三三八)

七御奥日記

文政十年八月廿六日～同十一月廿三日

(表紙のみ) (二六九)

八御奥日記

文政十年十一月廿四日～同十二月廿九日

書冊 一冊 (四三六)

九御奥日記

文政十一年正月元日～同三月十一日

書冊 一冊 (三五〇)

一〇御奥日記

文政十一年三月十二日～同六月七日

書冊 一冊 (二七三)

秋月黒田家文書(一、江戸時代史料)

二御奥日記

文政十一年六月八日～同八月九日

書冊 一冊 (三八六)

三御奥日記

文政十一年八月十日

書冊 一冊 (三六五)

三御奥日記

文政十一年十一月十八日～同十二月廿九日

書冊 一冊 (二六九)

四(仮題) 奥日記

文政十二年正月

書冊 一冊 (二〇三)

五御奥日記

文政十二年二月廿六日～同五月廿九日

書冊 一冊 (三八八)

六御奥日記

文政十二年

書冊 一冊 (三四九)

七御奥日記

文政十三年三月三日～同四月十三日

書冊 一冊 (四四二)

八御奥日記

文政十三年四月十四日～同七月十日

書冊 一冊 (三八四)

九御奥日記

文政十三年七月十一日～同十月十五日

書冊 一冊 (二七一)

一〇御奥日記

文政十三年十月十六日～十二月

書冊 一冊 (三八五)

三(仮題) 御奥日記

文政十三年

書綴 一綴 (三八二)

三 御奥日記

天保二年正月～同二月十七日

書冊 一冊 (二九六)

三 御奥日記

天保二年二月十八日～同三月廿九日

書冊 一冊 (三八七)

四 御奥日記

天保二年四月

書冊 一冊 (三七九)

五 御奥日記

天保二年六月廿三日～同十月十五日

書冊 一冊 (三三九)

六 御奥日記

天保二年

書冊 一冊 (四二二)

七 御奥日記

天保三年正月元日

書冊 一冊 (三三九)

六 御奥日記

天保三年四月

書冊 一冊 (三四六)

元 御奥日記

天保三年八月廿五日～同十月

書冊 一冊 (三〇四)

三〇 御奥日記

天保三年十月二日～同十二月晦日

書冊 一冊 (三一六)

三 御奥日記

天保四年正月元日～同六月廿九日

書冊 一冊 (四五〇)

三 御奥日記

天保五年正月元日～同三月晦日

書冊 一冊 (四二四)

三 御奥日記

天保五年八月三日～同十一月五日

書冊 一冊 (四二一)

四 御奥日記

天保七年十月十二日～同十二月廿九日

書冊 一冊 (三二九)

五 御奥日記

天保八年正月元日～同二月十四日

書冊 一冊 (三六二)

六 御奥日記

天保八年二月十五日～同六月十四日

書冊 一冊 (三五一)

七 御奥日記

天保八年六月十五日～同十二月晦日

書冊 一冊 (四四三)

元 御奥日記

天保九年正月元日～同四月廿二日

書冊 一冊 (二七〇)

元 御奥日記

天保九年閏四月十一日～同十月八日

書冊 一冊 (五二二)

四 日記

天保九年十月九日～同十二月晦日

書冊 一冊 (三二一)

四 御奥日記

天保十年正月元日～同四月十七日

書冊 一冊 (三三七)

四 御奥日記

天保十年四月十八日～同八月四日

書冊 一冊 (三三七)

四 御奥日記

天保十年八月五日～同十一月八日

書冊 一冊 (三七六)

四 御奥日記 (四五二)

天保十年十一月九日～同十二月廿九日 書冊 一冊

望 御奥日記 (三三八)

天保十一年正月元日～同三月廿七日 書冊 一冊

哭 御奥日記 (三八一)

天保十一年三月廿八日～同七月十四日 書冊 一冊

咎 御奥日記 (三三八)

天保十一年七月十五日～同十月十四日 書冊 一冊

哭 御奥日記 (三三一)

天保十一年十月十五日～同十二月三日 書冊 一冊

哭 御奥日記 (三七五)

天保十二年正月元日～同四月廿九日 書冊 一冊

吾 御奥日記 (三〇〇)

天保十二年五月朔日～同十月廿日 書冊 一冊

五日記 (四〇九)

天保十二年正月 書冊 一冊

三 北御奥日記 (四二九)

天保十二年正月～同十二月 書冊 一冊

三 御奥日記 (二九九)

天保十四年閏九月廿四日～同十二月廿九日 書冊 一冊

西南御奥日記 (三六二)

天保十五年正月 書冊 一冊

五 御奥日記 (三八三)

天保十五年七月廿七日～弘化元年十二月 書冊 一冊

五 日記 (二七二)

安政四年二月 書冊 一冊

毛 御奥日記 (四五四)

安政四年八月～同十二月 書冊 一冊

五 御奥日記 (三七八)

安政五年九月～同六年三月 書冊 一冊

五 (仮題) 日記 (二八九)

(江戸後期) 書冊 一冊

六 奥日記 (二七五)

(江戸後期) 書冊 一冊

六 御奥日記 (三三三)

(江戸後期) 三月四日～四月廿八日 書冊 一冊

六 (仮題) 奥日記 (四二八)

(江戸後期) 書綴 一綴

六 (仮題) 奥日記 (四三五)

(江戸後期) 書綴 一綴

六 (仮題) 日記 (五一八)

(江戸後期) 書綴 一綴

六 (仮題) 日記 (五二一)

(江戸後期) 書綴 一綴

癸（仮題）日記	（一六八四）	書綴 一綴
空（仮題）奥日記	（三七二）	書綴 一綴
六（仮題）奥日記	（三五三）	書綴 一綴
充日記	（三七四）	書冊 一冊
七（仮題）奥日記	（三八〇）	書綴 一綴
七日記	（四一六）	書綴 一綴
三日記	（四九四）	書冊 一冊
三（仮題）日記（首尾欠）	（五二九）	書綴 一綴
七四日記	（四八〇）	書冊 一冊
七五（仮題）奥日記	（三〇三）	書冊 一冊
七六日記	（二八三）	書冊 一冊
明治三年		

七 御次日記抜書	（三七七）	書冊 一冊
※ 六 江戸御留守日記書拔	（五九二）	書冊 一冊
九 江戸御留守日記書拔	（五四七）	書冊 一冊
八 江戸御留守日記	（五四八）	書冊 一冊
八 松崎日記抜書	（二八二）	長綴 一綴
三（仮題）月番記録	（五二六）	書綴 一綴
三 日記	（三三〇）	書冊 一冊
四 御用日記	（二九四）	書冊 一冊
五 家老日記	（三四三）	書冊 一冊
六 日記	（九四）	書冊 一冊
實匡誌		

八七 日記

天保元年

實伍誌

書冊 一冊 (九五)

八六 月番記録

天保三年正月

書冊 一冊 (三二二)

八五 月番記録

天保四年正月

書冊 一冊 (三二〇)

八四 記録

天保四年

書冊 一冊 (三九五)

八三 記録

天保五年

書冊 一冊 (三六四)

八二 月番記録

天保五年正月

書冊 一冊 (四七四)

八一 月番記録

天保六年正月

書冊 一冊 (三〇五)

八〇 日記

天保六年

書冊 一冊 (九六)

實伍誌

七九 記録

天保七年九月～同八年八月

書冊 一冊 (六六)

七八 記録

天保七年

書冊 一冊 (四〇二)

七八 記録

天保八年八月～同九年八月

書冊 一冊 (三六六)

八六 御記録

天保九年

書冊 一冊 (二七六)

御記録處

八九 御記録上・中・下

天保十年

書冊 一冊 (三二二)

御記録所

一〇〇 記録

天保十年九月～同十一年八月

書冊 一冊 (三六八)

一〇二 御記録

天保十一年

書冊 一冊 (二七八)

一〇三 記録

天保十一年九月～同十二年八月

書冊 一冊 (三九〇)

一〇三 月番記録

天保十二年

書冊 一冊 (五一〇)

一〇四 記録

天保十二年九月～同十三年八月

書冊 一冊 (四六七)

一〇五 内記録

天保十二年二月・明治二年

書冊 一冊 (二七四)

一〇六 月番記録

天保十三年

書冊 一冊 (四五二)

二〇七 御記録

天保十三年

書冊 一冊

(三二三)

二〇八 記録

天保十三年五月～同十四年八月

書冊 一冊

(四六五)

二〇九 月番記録

天保十四年

書冊 一冊

(四一四)

二一〇 記録

天保十四年九月～同十五年八月

書冊 一冊

(四六六)

二一一 御記録上・中・下

天保十四年

書冊 一冊

(三三三)

二一二 日記

天保十五年

書冊 一冊

(九七)

二一三 御記録上・中・下

天保十五年

書冊 一冊

(二八〇)

御記録所

二一四 記録

弘化元年九月～同二年八月

書冊 一冊

(四四四)

二一五 御記録

弘化二年

書冊 一冊

(二九八)

御記録所

二一六 記録

弘化二年九月～同三年八月

書冊 一冊

(四四八)

二一七 御記録

弘化三年

書冊 一冊

(二八八)

御記録所

二一八 記録

弘化三年九月～同四年八月

書冊 一冊

(二七九)

二一九 御記録

弘化四年

書冊 一冊

(二九一)

御記録所

二二〇 記録

弘化四年九月～嘉永元年八月

書冊 一冊

(五一九)

二二一 御記録上

弘化五年

書冊 一冊

(四六四)

二二二 御記録

弘化五年

書冊 一冊

(三九九)

二二三 記録

嘉永元年九月～同二年八月

書冊 一冊

(四三〇)

二二四 御記録

嘉永二年

書冊 一冊

(三三二)

二二五 記録

嘉永二年九月

書冊 一冊

(四二二)

二二六 御記録

嘉永三年

書冊 一冊

(四二三)

二七 御記録

嘉永四年

書冊 一冊 (三〇七)

二六 御記録繰出牒

嘉永四年

書冊 一冊 (三三六)

二九 記録

嘉永四年

書冊 一冊 (四六八)

三〇 記録

嘉永四年六月改

書冊 一冊 (三五一)

三一 記録

嘉永四年九月～同五年八月

書冊 一冊 (四一五)

三三 御記録

嘉永五年

書冊 一冊 (三六〇)

三三 御記録繰出

嘉永五年

書冊 一冊 (四四〇)

三四 記録

嘉永五年九月～同六年八月

書冊 一冊 (四六九)

三五 御記録

嘉永六年

書冊 一冊 (四五三)

三六 記録

嘉永六年九月～安政元年八月

書冊 一冊 (三〇八)

三七 記録

安政元年九月～同二年八月

書冊 一冊 (四〇三)

三六 御記録

安政二年

書冊 一冊 (四〇四)

三九 記録

安政二年九月～同三年八月

書冊 一冊 (三五四)

四〇 御記録

安政三年
御記録所

書冊 一冊 (三〇一)

四二 記録

安政三年九月～同四年八月

書冊 一冊 (二八六)

四三 御記録(尾欠)

安政四年

書冊 一冊 (四七九)

四四 記録

安政四年九月～同五年八月

書冊 一冊 (四一九)

四四 御記録

安政五年

書冊 一冊 (四〇〇)

四五 御記録 寺社郷土在町

安政五年

書冊 一冊 (三九四)

四六 記録

安政五年九月～同六年八月

書冊 一冊 (三九二)

四七 御次勤手控

安政六年

小横帳 一冊 (四八六)

四八 御記録

安政六年

書冊 一冊 (三八九)

一四 記録

安政六年九月～万延元年八月

（四〇一）
書冊 一冊

一五 御記録

万延元年

（三二七）
書冊 一冊

一五 記録

万延元年九月～文久元年八月

（四〇五）
書冊 一冊

一五 記録

文久元年九月～同二年八月

（四二二）
書冊 一冊

一五 御記録

文久二年

（四〇七）
書冊 一冊

一五 記録

文久二年九月

（三九八）
書冊 一冊

一五 御記録

文久三年

（四一七）
書冊 一冊

一五 記録

文久三年九月～元治元年八月

（四一八）
書冊 一冊

一五（仮題）日記

文久四年

（三九七）
書冊 一冊

一五 寺社在町御記録

元治元年

（三五九）
書冊 一冊

一五 記録

元治元年九月～同二年八月

（二九〇）
書冊 一冊

一六 御記録

慶応元年

（三六七）
書冊 一冊

一六 寺社在町御記録

慶応元年

（四三二）
書冊 一冊

一六 記録

慶応元年九月～同二年八月

（三〇二）
書冊 一冊

一六 日記

慶応二年正月
御納戸頭

（二八七）
書冊 一冊

一六 慶應丙寅歲上中記録

慶応二年

（四一三）
書冊 一冊

一六 寺社在町記録

慶応二年

（二九五）
書冊 一冊

一六 記録

慶応二年九月～同三年八月

（三四七）
書冊 一冊

一六 御記録

慶応三年

（三七三）
書冊 一冊

一六 御記録

慶応三年

（四一〇）
書冊 一冊

一六 御記録

明治元年

（三〇六）
書冊 一冊

一七〇 御記録繰出

明治元年

書冊 一冊 (四六〇)

一七一 御記録

明治二年

書冊 一冊 (二九二)

御記録所

一七二 御記録繰出

明治二年

書冊 一冊 (三九六)

一七三 寺杜郷士在町御記録

明治二年

書冊 一冊 (四三八)

一七四 記録繰出

明治三年正月

書冊 一冊 (三二四)

一七五 記録上・中

明治三年

書冊 一冊 (三九一)

藩政庁

一七六 午正月初日記

明治三年

書冊 一冊 (三五六)

一七七 日記

明治三年閏十月

書冊 一冊 (二九七)

一七八 杜寺郷士之記

明治三年

書冊 一冊 (三四四)

一七九 日誌

明治四年正月(同十二月)

書冊 一冊 (三五八)

秋月藩出張所用辨所

秋月黒田家文書(一、江戸時代史料)

一八〇 (仮題) 御記録

(江戸後期)

書綴 一綴 (三六三)

一八一 (仮題) 御記録

(江戸後期)

書綴 一綴 (四八二)

一八二 (仮題) 御記録

(江戸後期)

書綴 一綴 (五〇五)

一八三 (仮題) 御記録

(江戸後期)

書綴 一綴 (五三〇)

※一八四 (仮題) 御記録

(江戸後期)

書綴 一綴 (四八七)

一八五 (仮題) 寺杜在町御記録

(江戸後期)

書綴 一綴 (四八四)

一八六 (仮題) 御記録(首尾欠)

(江戸後期)

書綴 一綴 (五二八)

一八七 (仮題) 寺杜在町御記録

(江戸後期)

書綴 一綴 (四八五)

一八八 巳年以来御記録書抜

(江戸後期)

書冊 一冊 (四六二)

一八九 (仮題) 月番記録(首尾欠)

(江戸後期)

書綴 一綴 (五二七)

※一九〇 長重公備後御往来記

延宝九年

書冊 一冊 (六二九)

一九一 富士御覽日記

（年度未詳）

小横帳 一冊
（二六五）

一九二 彦山記行

（年度未詳）

書冊 一冊
（九八）

一九三（仮題） 殿様御参勤日記抄

（江戸後期）正月十七日～二月廿六日

小横綴 一綴
（八一四）

一九四 難波紀行

（年度未詳）

小横帳 一冊
（三七一）

一九五 両御道中手控

（年度未詳）

小横帳 一冊
（四九一）

一九六 東京御登日記

明治三年八月三日迄

書冊 一冊
（三二五）

一九七 日記断簡

（年度未詳）

（一四三四の一七）
一枚

5 行政・軍事

(1) 対幕府

※ 一 黒田家江義昭公・信長公・秀吉公ヨリ之御感状并目錄等之写
（義昭時代～秀吉時代）
（六一）
書冊 一冊

※ 二 御感状之写

天和四年三月七日写

（五四）
書冊 一冊

※ 三 御法號

（年度未詳）

書冊 一冊
（四九）

公儀御法号外

※ 四 御遺状御寶藏入百個條

寛政八年臘月中旬写

書冊 一冊
（六二）

※ 五 英雲院様御代公義御役人名前

（寛文五年～宝永七年）

書冊 一冊
（六五）

※ 六 公分限帳

（江戸後期）

書冊 一冊
（二）

※ 七 小金猪狩騎馬徒勢子書付

享保十一年三月廿七日

長帳 一冊
（一九四）

※ 八 御任官御用帳

延宝元年

（七〇）

九 秤改ニ付後藤手代諸国巡行之儀江戸へ申来覚書

（七九八）

宝曆四年四月廿六日

切紙（包紙入）一通

一〇 秤改ニ付遠藤又次郎博多罷出候諸造用書付

（年度未詳）丑五月

卷紙（包紙入）一通

二 書状

（年度未詳）

切紙 一通
（八三八）

三 覚

（年度未詳）未十月廿五日

卷紙 一通
（八六三）

分銅改に付江戸へ往来書面の伝馬可差出

三家治様御代替御朱印改候寛帳下書

(宝暦十年)

書冊 一冊

※ 四 御誓詞之記

宝暦十年

書冊 一冊

御代替に付

一五 御損毛御届之節入用之書付

明和三年九月十二日

巻紙(包紙入) 一通

一六 (仮題) 鍛冶橋御普請手伝一件

イ 御旧記之内書抜

(寛永十二年) 同十三年

切紙 一通

鍛冶橋桜田石垣御普請

ロ 宮崎助大夫家二有之候書留

(寛永十二年) 同十三年

切紙 一通

普請の件

ハ 御旧記之内書抜

(寛永十三年)

一紙 一通

桜田鍛冶橋御普請の件

ニ 書状

(寛政十二年) 七月八日

巻紙 一通

横玄蕃・野村新右衛門・宮崎助大夫・渡辺半大夫外宛、

此方様御系譜御用に付、長興様御代御手伝御勤方調の

事

ホ 御系譜御用ニ付福岡御用人中へ懸合之扣

(一六〇三の四)

寛政十二年七月十一日

巻紙 一通

ヘ 書状

(寛政十二年)

切紙 一通

御用人中宛、桜田鍛冶橋普請の件

※ 一七 朝鮮人來聘ニ付御出金御割合被仰出写

文化五年四月

書冊 一冊

一八 両役金御上納受取書写

文化六年六月廿三日

一紙(包紙入) 二通

野田源五郎手代藤本三郎助外・黒田甲斐守御内牧啓之助宛、此度朝鮮人來聘に付

一九 両役金上納案文

文化六年六月廿三日

書冊 一冊

上包題「文化六巳八月朝鮮人來聘ニ付御納金之受取」

二〇 大坂町御奉行・諸国仕出之儀御尋ニ付御書出ニ相成候書面之扣

文化八年四月

一紙(包紙入) 二通

秋月仕置入墨

二一 覚

(江戸後期) 閏二月廿四日

巻紙 一通

池田藤平・御用人中・御勘定奉行中宛、国々所々御仕

置入墨焼印其外身体に印付候件

三 公義測量方入込二付記録

（二六八）

文化九年九月

書冊 一冊

御作事所

※ 三 御手長記録鷹司右大将様御馳走中

（二二）

文政十年

書冊 一冊

御馳走所天徳寺に而御手長稽古見分に付

西 鷹司右大将様三嶋沼津御迎・大宮御見送使勤扣

（七四三）

文政十年

小横帳 一冊

三 町田善藏従公儀御賞誉御書付

（九七七）

天保九年十一月七日

切紙（包紙入）二通

三 不顧憚申上候覚

（二七九二）

（天保九年）

長綴 一綴

町田善藏従公儀賞誉の件

三 御同席觸二相成候御書付写

（二一八四）

天保九年四月

長帳 一冊

※ 三 御朱印御改一件下請書

（二〇〇）

天保九年

書冊 一冊

※ 元 家茂公御婚禮被為濟候二付禁裏御所献上物御使者記録
（五八）

文久二年三月

書冊 一冊

三 北御長屋去年通り南新門前替地二相成候付而之覚書
并絵図面
（二四一七）

（江戸後期）四月廿九日

切紙（包紙入）一通

三 高倉喜左衛門状

（九二七）

（江戸後期）八月十五日

巻紙 一通

高倉喜左衛門を渡迎作太夫・鶴沼藤太夫宛、日田御郡代の件

三 火災二付公儀江御書上之扣

（七三二）

（江戸後期）八月

切紙（包紙入）一通

三（仮題）御用番へ御届

（二二四五）

（慶応元年）正月十三日

切紙 一通

池田信濃守家来西郡儀左衛門を、堀石見守逼塞申付

三（仮題）老岐守様御家督御拝領の事達

（二二三九）

（江戸後期）

切紙 一通

三 濃州川の御普請御手傳濟之上御祝并精勤之御褒詞彼是左之通
（一五九二）

（江戸後期）

長綴 一綴

三 御手傳二付出張之面々江被仰渡書写

（二五九二）

（江戸後期）

書冊 一冊

※ 三 御盃臺献上

（七七）

（江戸後期）正月三日

書冊 一冊

三 万石以下御旗本之面々江申聞候覚

（二〇五一）

（江戸後期）未八月

長綴 一綴

俟約申渡

三 養女他江嫁或御奉公等之間答古今不同、離別之母方親類忌服聞合、山村問答、日光御祭礼奉行觸穢心得

（五二四）

弘化二年十二月十六日写

書冊 一冊

四 御囲艸ニ付被仰出且詰戻ニ付被仰出之一件

イ (仮題) 秋月領去年損毛ニ付囲艸等手当ニ相用度
ニ付伺写 (八六一の二)

(江戸後期) 丑二月 切紙 一通
牧辰藏(幕府)勘定所宛

口 覚 (八六一の二)
切紙 一通

(江戸後期)

ハ 申達写 (八六一の三)
切紙 一通

(江戸後期) 丑三月

(幕府)勘定奉行服部伊賀守外、
付諸藩への申達 囲艸半高の処分に

四 若殿様長房公御袖留御伺書之写 (七三六)
切紙(包紙入) 一通

(江戸後期)

※ 四 長元公初而御目見一件 (五三九)
書冊 一冊

文政十二年

※ 三 長元公御目見一件帳 (五八〇)
書冊 一冊

文政十二年

※ 四 長元公御目見一件帳 (五八一)
書冊 一冊

(文政十二年)

※ 望 長元公御目見一件下調簿上 (五七九)
書冊 一冊

文政十二年

※ 哭 長元公初而御目見一件 (五四四)
書冊 一冊

(天保元年)

※ 四 長元公御目見八朔初而御禮ニ付献上并御遣物御答禮
被下向帳 (五五六)
書冊 一冊

(天保元年)

※ 哭 長元公御目見八朔初而御札ニ付献上并御進物御答禮
被下向帳 (五五二)
書冊 一冊

(天保元年)

※ 哭 長元公月次五節句両山御參詣御三家様御勤御廻勤御
目見後御客様へ御招請 (二二七)
書冊 一冊

(天保元年)

※ 五 長元公御叙爵一件記 (五五五)
書冊 一冊

天保元年十二月

※ 五 御叙爵記録 (五四六)
書冊 一冊

(天保元年)

※ 五 長元公御叙爵一件 (五四五)
書冊 一冊

(天保二年)

※ 五 柳席両側贈物帳 (二)
書冊 一冊

嘉永七年四月十二日

※ 五 柳席両側贈物帳 (三)
書冊 一冊

嘉永七年

※ 五 柳席両側申合帳 (四)
書冊 一冊

嘉永七年四月十二日

※ 五 柳席両側申合帳 (三)
書冊 一冊

嘉永七年四月

※ 五 長義公御目見記

安政六年

書冊 一冊 (五三二)

※ 五 長義公御目見記

安政六年

書冊 一冊 (五三二)

※ 五 長義公御目見記

安政六年

書冊 一冊 (五三三)

※ 六 長義公御目見記

安政六年

書冊 一冊 (五三四)

※ 六 長義公御目見記

安政六年

書冊 一冊 (五三五)

※ 三 長義公御目見記

安政六年

書冊 一冊 (五三六)

※ 三 長義公御目見記

安政六年

書冊 一冊 (五三七)

※ 四 長義公御目見之記

安政六年秋～冬

書冊 一冊 (五三八)

※ 五 御目見記

安政六年十二月～万延元年三月

書冊 一冊 (五四一)

※ 六 長義公御目見記

安政六年

書冊 一冊 (五四二)

※ 七 月次五節句八朔年始初御登城下調子

(江戸後期)

書冊 一冊 (二二三)

六 酒井讃岐守忠進書狀

(江戸後期) 九月廿一日

折紙 一通 (七七六)

黒田甲斐守宛、曲淵甲斐守長崎江罷越、松平備前守殿
領内通路に付

充 書狀

(江戸後期)

切紙 一通 (一三五七)

京極佐渡守内永田彦四郎、御家老足輕迄の人数調
への件

七 長恵公御参勤御時節御伺御達書

安永元年

巻紙 一通 (八四四)

七 御下向之節淀川御通船直二神崎通夫、陸路御下向被
遊候節不押立御□□扣

文化十四年

切紙(包紙入) 一通 (七四二)

七 道中御奉行菅沼下野守様へ南部大膳大夫様御留守居
吉田矢左衛門、差出候伺書写

(江戸後期) 寅十一月

切紙 一通 (九一三)

七 大御目付溝口讃岐守殿御渡候御書付

(江戸後期) 三月六日

切紙(包紙入) 一通 (八六〇)

七 書狀

(江戸後期)

切紙(包紙入) 二通 (一二六四)

垂井半左衛門・高橋次郎兵衛、吉田右近・箕浦主殿外
宛、大御目付様、御渡に相成御封書の件

七 御船中御届書写シ

(江戸後期) 正月十八日

切紙 一通 (一五四六)

中山平兵衛、黒田甲斐守参勤路の件

其 書狀

(江戸後期) 十月十三日

巻紙 一通

松山文左衛門々吉田斎宮宛、甲斐守様江戸御上下且長崎へ異国船渡来の節水夫御雇の件

七 御家中之面々江戸上下之節人馬書出振之儀御達扣

(二二二七)

安政四年五月

書冊 一冊

其 覚書

(江戸後期)

切紙 一通

江藤三五右衛門、御下向の節京都御所司代様へ御届無御座に付、右次第御尋有之に付荒増報告の模様書上

其 覚

(江戸後期) 二月廿六日

長綴 一綴

今度京都大坂御立寄不被遊山崎通り御通行に付御勤調

八 御休泊割

(江戸後期)

切紙 一通

江戸・京間

九 江戸御供方手扣

文久元年四月改

小横帳 一冊

二 書付

(江戸後期) 二月廿七日

切紙 一通

牧安右衛門々、中山道旅行に付

三 公料出人数虎屋具兵器行列帳

天保四年四月

長帳 一冊

四 二本御道具対御箱御願書写

(八七八)

(年度未詳) 九月七日

一紙(包紙入) 一通

五 (仮題) 不正之薬種取押候二付配当金差上

(二二三二)

(江戸後期) 寅四月

切紙 一通

※ 六 抜荷押候節長崎掛合一件

文化七年十月

書冊 一冊

七 抜荷押候節掛合一件

文化七年十月

書冊 一冊

八 長崎江懸合書狀下付(忠八郎々之来書)

イ (仮題) 成瀬因幡守様御家老御用人名前書上

(江戸後期)

切紙 一通

ロ 廣東人參相添御奉行所江申上候書取写

(江戸後期) 寅三月

切紙 一通

佐藤忠八郎々

ハ 書狀

(江戸後期) 三月十一日

切紙 一通

ニ 書狀

(江戸後期) 三月十一日

切紙 一通

ホ 書狀

(江戸後期) 三月十一日

巻紙 一通

佐藤忠八郎々渡辺半之助・渡辺平太夫外宛、抜荷広東人參の件

六九 書状

（一二四二）

（江戸後期）四月六日

切紙 一通

成瀬因幡守内酒井傳右衛門・白石要助外方渡辺半之助宛、広東人参拔荷の件

七〇 書状

（一二三一）

（江戸後期）

巻紙 一通

広東人参拔荷の件

七一 書状

（一二七〇）

（江戸後期）十二月廿三日

切紙 一通

佐藤忠八郎方小川伴左衛門宛、広東人参取押に付

七二 書状

（一〇六三）

（江戸後期）六月廿七日

切紙 一通

佐藤忠八郎方渡辺半之助外宛、広東人参取押に付褒美の件

七三 書状

（一一〇六）

（江戸後期）十月十五日

切紙 一通

佐藤忠八郎方吉縫殿外宛、広東人参拔荷の件

七四 朝鮮人参一件

（七三四）

（江戸後期）申閏十二月

巻紙（包紙入）一通

江戸人参座岡田次助外方

七五 唐物商売之儀ニ付福岡被仰付之覚書

（七五八）

（江戸後期）子十二月

巻紙（包紙入）一通

七六 唐物拔ケ荷之次第二付従公義被仰出之覚書

（七五八）

（江戸後期）

巻紙（包紙入）四通

七六（仮題）唐物業種之儀佐藤勘次右衛門方之書状（七六三）

（江戸後期）二月廿五日

折紙（包紙入）一通

佐藤勘次右衛門方白井儀左衛門外宛

七六 唐阿蘭陀荷物落札商人并市中之者方赤間ケ関江差送り候巻手板之形

（江戸後期）

一紙二通・書綴二綴

(2) 対本藩

※ 七六 御判物御書出類目録

（天正～元和）

書冊 一冊

孝高・長政・忠之公時代

一〇〇（仮題）孝高公・長政公・忠之公御判物御書出（首欠）

（一八三）

（天正～元和）

書冊 一冊

※ 一〇一 如水公長政公御判物御書控

忠之公

（一八二）

（天正十六年～元和九年）

書冊 一冊

※ 一〇二 長政公御遺言全

（元和元年八月四日）

（一一）書冊 一冊

※ 一〇三（仮題）覚

（慶長～元禄）

（四八九）書綴 一綴

長政公書状写外

二四 興雲院様御事

(八五〇)

(江戸初期)

書冊(包紙入)一冊

二五 少将様江於底井野御出会儀ニ付藤右衛門出福之節彼方ニ而相渡候書付

(二五六〇)

宝曆六年九月

卷紙(包紙入)二通

永田平之丞、甲斐守様御代々福岡へ兩度充御出御封願被成候に付

一〇六 宝曆六年子十一月御屋敷御買請ニ付御取替帳写

(一〇六九)

(宝曆七年) 丑三月

卷紙(包紙入)一通

一〇七 長舒公御成行跡見付之為福岡へ大目付杉山文左衛門被指越候節持参之書付

(七九二)

文化五年二月十九日

切紙(包紙入)一通

一〇八 御領分ニ相用候升之儀ニ付福岡御懸合并福岡へ之御指図

切紙(包紙入)二通

文化十一年九月

一〇九 於江戸表長韶公へ御本家様江御差出ニ相成候秘書

(八七六)

文政二年二月

書冊 一冊

筑前御拝領の次第、長崎御番関係等覚書

一一〇 引切御用懸被仰下候節伊藤半太夫へ於福岡被仰付書之写

(一五三三)

文政八年

卷紙(包紙入)一通

二二 田嶋御絵図仕立ニ付福岡より分間方御招ニ相成候始末記録

(二八九)

文政九年四月

書冊

一冊

二三 福岡御用風土記御調子ニ付右編集方役人御領分江入込ニ相成候始末記録

(二四九)

文政十年三月

書冊

一冊

二四 竹中様へ福岡江御願書内密写置

(七五九)

文政十年

切紙

一通

竹中主税助へ黒田美作・野村新右衛門外宛

二四(仮題) 覚

(一四五五)

文政十年十二月廿八日

切紙

一通

御家老御用にて出福の節

二五 雪心老山見村へ被相越候付福岡懸合一件書付

(一四二二)

(天保三年) 七月廿二日

切紙(包紙入)一通

宮崎与三兵衛へ

※二六 長政公御入国より二百五十年御祝之記

(五〇)

嘉永二年十二月

書冊

一冊

御右筆所

二七 御本家様へ御助勢御歎願一条ニ付依之差出候書付

イ 福岡へ御助勢米御願ニ付箕浦主殿・田代四郎右衛門持参裏判役へ差出候願書控

(二三〇三の二)

安政五年六月

長綴

一綴

田代・太田外へ播磨・隼人・求馬外宛

口 御仕組被仰出候節福岡へ御助勢御願之末猶又差
出候書取

（安政五年）八月

（一一〇三の二）
長綴 一綴

ハ （仮題）覚

（安政五年）

（一一〇三の三）
巻紙 一通

儉約の件

ニ （仮題）覚

（安政五年）

（一一〇三の四）
巻紙 一通

午年〆酉年迄四ヶ年間御助勢御歎願の義

ホ （仮題）覚

（安政五年）

（一一〇三の五）
巻紙 一通

御助成一条に付

二八 松平美濃守内意和泉守指上ル

（慶応元年）正月二日

（一〇五四）
切紙 一通

松平美濃守〆

二九 御本家様〆御借船二付御入箇調子

慶応二年四月

（一五七九）
長帳 一冊

三〇 御変動砌福岡〆被仰出候御書付類

（江戸後期）

（九〇二）
巻紙 一通

山口源右衛門、財政差支の件

三三 御帳面之内付紙落居候分

（江戸後期）

（二四三四の六）
切紙（包紙入）五通

秋月藩石高書上の記載につき福岡藩との交渉

三三 福岡〆御届書

（江戸後期）

（四八三）
書冊 一冊

目録

三三 郡平馬殿異躰之節福岡ニおゐて取計始末書付類

イ 吉田久右衛門御使者に而被仰上候御口上振

（九一六の二）

（江戸後期）

切紙 一通

郡平馬一件につき福岡黒田家との交渉

口 書状

（江戸後期）五月廿二日

（九一六の二）
切紙 一通

郡磯之丞〆吉田主水宛、私家名跡御立被下、新知四千

石被下候に付

ハ 主膳并七郎大夫へ被下候御直書下書

（江戸後期）

（九一六の三）
切紙 一通

ニ 奉願口上覚

（江戸後期）五月十日

（九一六の四）
切紙 一通

郡庄兵衛・郡九郎右衛門外〆梶原十左衛門・竹田安兵

衛宛、郡平馬拝禄指上度

ホ （仮題）申渡書

（江戸後期）五月廿一日

（九一六の五）
切紙 一通

郡平馬一族中宛、郡平馬知行・居屋敷等召上

ヘ 口上之覚

（江戸後期）

（九一六の六）
切紙 二通

郡金右衛門外〆

ト 奉願口上覚 (九一六の七)

(江戸後期) 五月十五日 切紙 一通

郡正兵衛・同九郎右衛門外左衛門外宛、平馬
拝祿指上申度

チ 覚 (九一六の八)

(江戸後期) 五月十九日 切紙 一通

郡善兵衛へ遣の扣

リ 覚 (九一六の九)

(江戸後期) 切紙 一通

二四 宗旨帳面福岡御懸合之控

御朱印前之内為御内証替福岡江被差出置候村々宗門改
帳之儀に付

イ 覚 (九三五の二)

(江戸後期) 長綴 一綴

ロ 覚 (九三五の二)

(江戸後期) 十二月 切紙 一通

ハ 覚 (九三五の三)

(江戸後期) 長綴 一綴

ニ (仮題) 覚 (九三五の四)

(江戸後期) 長綴 一綴

ホ 覚 (九三五の五)

(江戸後期) 長綴 一綴

三五 福岡勤向 (二〇二)

(江戸後期) 五月十七日・同月廿八日 書冊 一冊

※ 三六 書状 (九八四)

(江戸後期) 七月廿三日 切紙 一通

種徳・静馬宛、大殿様福岡表へ御越駕被遊の件

三七 福岡江齊藤衛門書持参被仰付候書付之控 (二六七八)

(江戸後期) 十一月 切紙 一通

三六 御達書 (二一四八)

(江戸後期) 十二月

福岡藩太田多左衛門宛、印藩沼御手伝に付御本家様
へ御拝借御相談の件

三元 長堅公御代羈ケ岡御手伝之節福岡へ差出候口上書之
控 (八二七)

(安永・天明頃) 正月 小横綴(包紙入) 一綴

三〇 福岡表御仕組之次第承繕申候廉々左二申上候 (六三四)

(江戸後期) 長帳 一冊

二三 往還筋道程之覚 (二四二〇)

(幕末) 長帳 一冊

御本家様御届に相成候写

二三 脇往還里数附 (二四一九)

(幕末) 十月 長帳 一冊

二三 御本家様江戸長崎御先備覚 (七四四)

(年度未詳) 長綴(包紙入) 一綴

二四 書状

（二〇三七）

（江戸後期）九月八日

切紙（包紙入）一通

野田勘之丞より吉田齋宮・太田多左衛門宛、黒崎御代官、遠賀郡御境目奉行兼帯被仰付に付通知

二五 覚書

イ 書状

（九一七の二）

（江戸後期）戊二月十二日

切紙 一通

福岡藩主への贈物に付

ロ（仮題）黒田甲斐守様へ音物差上候に付相談覚

（九一七の二）

（江戸後期）

切紙 一通

二六 書状

（江戸後期）四月九日

切紙 一通

岸田瀬左衛門外より吉田齋宮助宛、少将様へ甲斐守様よりの御見廻品代銀に付

二七 魚屋甚八福岡御船方役所へ上納銀年延願一件

イ 町奉行より差出候書面

（二四八六の二）

文政八年正月廿六日

切紙 一通

ロ 書状

（二四八六の二）

（文政八年）二月七日

巻紙 一通

伊丹九郎左衛門より吉田縫殿宛

(3) 秋月支藩

(a) 職制

二八 御目付頭誓紙

（七九九）

文化五年正月十四日

巻紙（包紙入）一通

宮井喜六より宮崎織部・渡辺帯刀外宛

二九 誓紙

文化五年五月九日

巻紙（包紙入）一通

太田宅之進

三〇 誓紙証文

文化九年三月十五日

巻紙（包紙入）一通

坂本汀・間小四郎より吉田齋外宛

三一 起請文前書之事

文政二年十二月廿一日

巻紙 一通

吉田守之進・川鳴弥助より

三二 誓紙

文政二年十二月廿一日

巻紙（包紙入）一通

田代彦助・磯彦八郎・藤田仲より

三三（仮題）覚

文政九年十月六日

切紙 一通

役職被仰付候節

三四 起請文

文政十一年四月八日

巻紙（包紙入）一通

土井奎之丞より

三五（仮題）覚

文政十一年五月

切紙 一通

御陸士宛、新規に被召出候節

一四 (仮題) 覚 (二七七八)

(文政年間) 切紙 一通

御役人の隠居御用有之御呼出の節

一四 (仮題) 達 (二四六九)

(江戸後期) 十一月廿六日 切紙 一通

御陸士直礼諸御礼被為請候節規定

一四 (仮題) 覚 (二七七六)

(江戸後期) 切紙 一通

者頭組替被仰付候節は中之間に而御達に付

一四 起請文 (八三七)

文政十二年九月十一日 卷紙(包紙入) 一通

古賀近・高橋太郎

一五 (仮題) 部屋住御用召之節覚 (二四六六)

天保七年九月 切紙 一通

一五 覚 (二四六〇)

天保十三年二月十四日 切紙 一通

土井奎之丞、具役の儀

一五 誓紙 (八三三)

元治元年 卷紙(包紙入) 一通

一五 (仮題) 起請文 (八七四)

慶応三年 卷紙 一通

一五 起請文前書之事 (七三九)

(江戸後期) 一紙(包紙入) 一通

一五 書状 (九九五)

(慶応四年) 切紙(包紙入) 一通

垂井半左衛門、吉田右近・太田多左衛門宛

一五 寄會帳 (二五一四)

慶応四年四月九日 長帳 一冊

一五 役場御一新一件

御直披奉願愚存書 (二四三二の二)

(明治元年) 辰十月廿一日 長綴(包紙入) 一綴

御右筆御廢絶相成度

口 口達扣 (二四三二の二)

(明治元年) 切紙 一通

此度役場御取締御作法替申儀に付

ハ 役場御一新二付被仰付人々覚 (二四三二の三)

(明治元年) 切紙 一通

一五 秋月藩治職制分課 (七七八)

(明治二年) 書冊 一冊

藩制改革

一五 (仮題) 御兵制御変革二付役号被相改候二付達 (二五四八)

(明治二年) 四月 切紙 一通

大監察宛

一六 (仮題) 御兵制御変革二付役号相改候覚 (二五四九)

(明治二年) 卷紙 一通

一六（仮題）役号改名覚

（明治二年）

巻紙 一通

一六 覚

（江戸後期）十一月九日

巻紙 一通

一五（仮題）兵制御改二付役替覚

（明治二年）

切紙 一通

一五 書状

（江戸後期）十月七日

巻紙（包紙入）一通

一四 覚

（明治二年）五月

切紙 一通

御無足中々、御一藩の等級御治定に相成に付

垂井半左衛門吉田右近・太田多左衛門宛、当表御屋敷御人減の件

一四 書状

（明治二年）五月廿三日

巻紙 一通

土岐主水右楨玄蕃・吉田右近外宛、御兵制の儀隊割御人数繰の儀

一三（仮題）覚

（江戸後期）

切紙 一通

伊藤吉左衛門宛、役職御免

一三 書状

（江戸後期）正月廿一日

巻紙（包紙入）二通

久野惣右衛門・町田平藏右吉田右近外宛、従御右筆依歎願老人御差登の儀

一二（仮題）覚

（江戸後期）

切紙 一通

長井自然役儀御免

一六 言上覚

（江戸後期）六月廿六日

切紙（包紙入）一通

谷安左衛門・吉田悟介、渡辺練助御雇動に付異議申立

（一三八五）

（一二七九）

（一二八五）

（一二〇二）

（一二〇〇）

（一二二六）

（一二九九）

一六 口上覚

(一二八七)

(江戸後期) 五月十七日

切紙(包紙入) 一通

坂田又左衛門、交代罷下候様被仰付度

一七 イ 書状

(一二六九の二)

(江戸後期) 五月十九日

切紙(包紙入) 一通

戸波六兵衛、吉田右近外宛、御買物奉行松延右史郎へ被仰付外

ロ 御減シ之上御人割

(一二六九の二)

(江戸後期)

切紙 一通

一八 新御役人中誓紙

(二六九三)

(江戸後期)

巻紙(包紙入) 二通

一九 書状

(二〇〇〇)

(江戸後期) 五月廿九日

巻紙(包紙入) 一通

土岐主水、横玄蕃・箕浦主殿宛、御右筆一人被仰付度

二〇 口上覚

(二〇〇四)

(江戸後期) 五月十六日

切紙(包紙入) 一通

大場哲蔵・江藤弥平次、御金奉行御免交代被仰付度

二一 書状

(二二八四)

(江戸後期) 九月十四日

切紙 一通

垂井半左衛門、吉田右近外宛、古賀和左衛門交代の件

二二 (仮題) 役替書上

(九四三)

(江戸後期) 七月朔日

切紙 一通

二三 口上覚

(九四二)

(江戸後期) 三月六日

切紙(包紙入) 一通

吉村平蔵・山田林之丞外、坂田喜又病氣に付当勤御改の儀願出

二四 書状

(二二八〇)

(江戸後期) 三月十一日

巻紙(包紙入) 一通

小川伴左衛門、箕浦主殿外宛、当表御人数減少の義外

二五 (仮題) 供人数省略願

(八七五)

(江戸後期)

書綴 一綴

二六 (仮題) 役職任用通達

(二四五八)

(江戸後期)

切紙 一通

二七 書状

(二四四九)

(江戸後期)

切紙(包紙入) 一通

戸波六兵衛、吉田斎宮・太田多左衛門外宛、御勘定方森田庄右衛門病氣に付交代之者指登せ依頼

二八 覚

(二四六三)

(江戸後期) 八月廿九日

切紙 一通

退身願出許可の件

二九 (仮題) 覚

(二四六七)

(江戸後期)

切紙 一通

諸勤被成御免

※ 三〇 書状

(九八五)

(江戸後期) 八月晦日

切紙 一通

小河専大夫直諒、吉田静馬宛、大目付役就任報知

一六 寅ノ在番申渡之覚

（江戸後期）

巻紙 一通

江戸

一七（仮題）中隊小役人名前書上

（江戸後期）

切紙 一通

一八 伺之覚

（江戸後期）

切紙 一通

組子人数不足の件

一九（仮題）小人者預り様之支

（江戸後期）

書綴 一綴

軍陣の心得

二〇（仮題）御小人組覚書

（江戸後期）

切紙 一通

二一 姫様御供人数覚

（江戸後期）

切紙 一通

二二 書状

（江戸後期）

切紙 一通

於栄様御供の件

二三 口上覚

（江戸後期）十二月十九日

切紙（包紙入）一通

御上京御供人の事

二四 稽古馬本鞍帳

慶応二年十二月

長帳 一冊

馬回頭

二五（仮題）覚書

（江戸後期）

長綴 一綴

人事の件に付進言

(b) 行政

二六 月番吉村五兵衛覚書

元文四年五月

書綴 一綴

二七 渡辺作八月番覚書

元文五年閏七月

書冊 一冊

※二八 御当代勤方帳

安永八年六月十七日

書冊 一冊

元日御居間御着座祝

※二九 年中御次第書

（年度未詳）

書冊 一冊

御在邑年始御次第外

三〇 田代宅左衛門月番中伺

享和三年三月

切紙（包紙入）一通

三一 覚

文化六年六月

切紙 一通

側弓頭・側筒頭々、連絡心得

三二 文化九申年二月廿三日御記録部分左之通二相改

文化九年二月廿三日

巻紙 一通

二〇八 誓詞

文化十年二月十一日

一紙（包紙入）一通

林久左衛門ゝ吉田齊之助外宛、殿様御留守に付役筋御直に言上仕来候儀

二〇九 博多藏本判之者縊死之節結縁セラレ取斗書付

（二四九〇）

文化十五年五月三日

切紙 一通

二一〇 秘記

（文政九年～同十一年）

書冊 一冊

御用部屋

※三一 長元公御入部御記録

（天保）

書冊 一冊

（五七五）

三三 天保二年辛卯五月廿八日長元公御入部御次第書

イ 當寺御番繼申送帳

（天保二年）

長帳 一冊

（二二七）

ロ（仮題）御膳次第

（天保二年）

切紙 二通

（二二七の二）

ハ 四ヶ寺御禮

（天保二年）

切紙 一通

（二二八の二）

配膳次第

ニ 御本家御使者御逢并御料理已下

（天保二年）

切紙 一通

（二二八の二）

三三（仮題）覚

天保三年九月

長綴 一綴

（六四二）

長井自然、役方の件に付

※三四 諸御次第書

天保五年正月

書冊 一冊

（五七四）

御納戸頭中

三五 郷村御書上ニ付桜田より細川様江御問合ニ相成候處、御同家様衆ゝ付紙を以返答有之候書面之写

天保五年七月

長綴（包紙入）一綴

（九六二）

三六 八幡丸御新製之記

天保五年六月

書冊 一冊

（四五七）

三七 口上覚

（天保五年）正月廿日

切紙 一通

（一五四五）

中山平兵衛ゝ、此度黒田甲斐守乗船老艘造立仕候に付

三八 口達之趣覚書

（天保八年）

書冊 一冊

（二二〇）

御判物御朱印写・郷村帳写等に関する覚書

※三九 被仰出之記

天保十年～同十四年

書冊 一冊

（二八四）

天保十亥年御意御書付写・天保十一年御内分被仰出之御書付・天保十二年江戸御屋敷火事の件外

三〇 諸控

慶応三年十月十四日～明治四年

書冊 一冊

（三三〇）

御納戸頭

三二 雑記

（慶応四年）

書冊 一冊

公務方、金札拝借御手続・徴兵御差出の手続外

三三 雑記

（慶応四年）辰七月

書綴 一綴

公務方、庭田様御縁辺之御手続・御暇被仰出御参内并御発駕御手続

三四 届書控

（明治元年～同二年）

書冊 一冊

公用方

※三五 長徳公東京御滞留中分御願書・御届書

明治二年四月～同七月

書冊 一冊

御印鑑御届・御着府御届外

三六 御願書御届書扣并日記

明治二年八月～同十二月

書冊 一冊

三七（仮題）福岡藩下におゐて不審なる者召捕候様達書

明治二年七月廿一日

卷紙 一通

渡辺弾正大忠外々秋月藩宛

三八 諸願伺届控

明治四年六月

書冊 一冊

秋月藩用弁所

三九 覚書

イ 被仰出之覚

（江戸後期）五月

（二五二の二）
切紙 一通

口 豊松様御目見迄之内御大格之覚

（宝暦頃）四月

（二五二の二）
長綴 一綴

ハ 福岡御家老中御状

（江戸後期）五月十一日

（二五一の三）
卷紙 一通

野村太郎兵衛・吉田式部外々渡辺半大夫宛、御合力米御断被仰達件に付

三〇 桜田便覚

（江戸後期）六月二日

（九三二）
卷紙 一通

宮崎藤右衛門外宮崎与兵衛外宛

三一 書状

（江戸後期）正月十七日

（九九三）
卷紙（包紙入）一通

垂井半左衛門外吉田右近外宛、死亡人間違の事・御屋敷内定府の面々救援願

三二 詮議口書

（江戸後期）八月廿四日

（七三七）
卷紙 一通

御用荷物運搬に付道中報告

三三（仮題）御用状覚（首尾欠）

（江戸後期）

（五五四）
書冊 一冊

三四（仮題）御役替・寺社・罰・町覚（首欠）

（江戸後期）

（四九五）
書綴 一綴

※三五 留守中覚書

（江戸後期）

（五三）
書冊 一冊

三三 不押立奉伺覚

(二〇七〇)

(江戸後期) 八月

切紙(包紙入) 一通

御陸士中々、服装・薪拾いの件外

三六 不顧憚言上之覚

(六三六)

(江戸後期)

長帳 一冊

人事・藩内事情等留守中報告

三七 書状

(九九六)

(江戸後期) 五月十九日

巻紙 一通

井上庄左衛門々吉田右近外宛

三八 書状

(一二二五)

(明治初期) 八月廿九日

切紙(包紙入) 一通

江藤東一郎々横玄蕃・箕主殿外宛、申入候儀決定催促

※三九 建白書附録之一、四

(六〇八・五八七・五八六・五八五)

(江戸後期)

書冊 四冊

四〇 (仮題) 覚

(六三八)

(江戸後期)

長綴 一綴

役方の儀に付申上

四二 (仮題) 家臣心得書・藩政意見書

(二七八九)

(江戸後期)

巻紙 一通

四三 願通

(八八五)

(江戸後期) 三月廿一日

切紙(包紙入) 二通

大筒組中々、永谷河原に小屋建立願

四四 口上

(九二九)

(江戸後期) 四月十六日

切紙 一通

曾根又次々、拍子木番よりの報告

四五 口書

(九三二)

(江戸後期) 四月十六日

切紙 一通

中嶋太右衛門々、拍子木番よりの報告

四六 若殿様長房公御乗出御延引御次第書

(七五〇)

(江戸後期)

巻紙(包紙入) 一通

四七 覚

(一〇六六)

(江戸後期) 五月

巻紙(包紙入) 一通

近藤徳左衛門外々、若殿様御乗出の儀

四八 書状

(一三八二)

(江戸後期) 五月十一日

切紙(包紙入) 一通

戸波六兵衛々吉田齋宮外宛、殿様御着城可被遊外

四九 書状

(一三八三)

(江戸後期) 六月廿日

切紙 一通

御館出立の予定問合せ

五〇 書状

(一一一八)

(江戸後期) 四月廿八日

切紙(包紙入) 一通

戸波六兵衛外々吉田齋宮・吉田静馬外宛、御発駕通知

五一 書状

(一一一五)

(江戸後期) 四月廿二日

巻紙 一通

西川左大夫外々吉田齋宮助外宛、殿様御登城並御発駕の件・太出雲守様御病状外

二五 書状

（江戸後期）九月廿九日

（二四八二）
切紙（包紙入）一通

井上庄左衛門ゝ吉田縫殿助宛

二五三 覚

（江戸後期）五月七日

（二四七一）
切紙 一通

勅書写差出候

二五三 覚

（江戸後期）五月廿六日

（二四八三）
巻紙 一通

調子役中ゝ、戸倉弥三江身元調子

二五四 御馬廻頭覚書写

宝暦六年九月改、同八年八月写

（七九六）
小横帳 一冊

二五五 御馬廻頭手控写

（江戸後期）

（七九七）
書冊 一冊

二五五 書状

（江戸後期）十一月十七日

（二〇七七）
切紙 二通

御右筆所ゝ御用役外宛、附、名前書上

二五七 覚

（江戸後期）

（九三六）
切紙 一通

二五八（仮題）覚

（江戸後期）

（二三九〇）
切紙 一通

役筋ゝ申出の件

二五九 覚

（江戸後期）五月廿五日

（二七八三）
切紙 一通

御在邑中御用状差出の件

二六〇（仮題）覚書

（江戸後期）六月十四日

（二〇六一）
切紙 一通

御家老中へ被仰付候御達書の件

二六一（仮題）覚

（江戸後期）正月二日

（二四五三）
長綴 一綴

白井六郎兵衛ゝ木村角左衛門外宛

※二六二 諸願届

（江戸後期）

（四八二）
書冊 一冊

目録

二六三 書状

（江戸後期）五月廿六日

（二〇二二）
切紙 一通

西川左大夫ゝ吉田斎宮助外宛、太出雲守様御逝去に付外

二六四 書状

（江戸後期）正月十六日

（二二七五）
巻紙（包紙入）一通

久野惣右衛門外ゝ吉田右近外宛、広寿院様接待の件

二六五 書状

（江戸後期）六月廿九日

（二二七八）
巻紙（包紙入）一通

戸波六兵衛ゝ吉田右近・箕浦主殿外宛、広寿院様此御屋敷に御逗留の件

二六六 書状

（江戸後期）二月五日

（二二八三）
巻紙（包紙入）二通

戸波六兵衛ゝ吉右近・箕主殿外宛、広寿院様御帰府一
条

二六 書状

(二二七四)

(江戸後期) 二月廿八日

巻紙(包紙入) 一通

戸波六兵衛^ら吉田右近・太田多左衛門外宛、広寿院様
当屋敷御滞留の義外

二六 書状

(一六三三)

(江戸後期) 正月十五日

巻紙 一通

久野惣右衛門・町田平藏^ら吉右近外宛、山撰津守様御
大病の件

二六 イ 御口上覚

(一四〇一の二)

(江戸後期) 辰三月

切紙 一通

故民部様御跡へ是迄御米御世話被進候義に付

口 覚

(一四〇一の二)

(江戸後期) 五月朔日

切紙 一通

殿様御役被為蒙仰候節

二七 書状

(一四〇一の三)

(江戸後期) 五月十九日

切紙 一通

太田多左衛門^ら吉田斎宮・吉田静馬外宛、其表当夏麦
毛上如何に可相成哉外

二七 (仮題) 覚

(一〇八〇)

(江戸後期) 六月十一日

切紙 一通

二七 書状

(一二五二)

(明治初期)

巻紙(包紙入) 一通

井上権大参事^ら四宮正徳外宛、御廻米着船に付外

二七 書状

(一二六五の二)

イ 東海道中^ら内藤熊藏東京へ之書状

(一六三三)

(明治初期) 八月十五日

切紙(包紙入) 一通

内藤熊藏^ら白石奎右衛門宛、諫見、参政局日記等旅中
持下りの件

口 覚

東海道中^ら東京へ北原諫身^(マ)之返書(一二六五の二)

(明治初期) 八月十五日

巻紙 一通

北原諫身^(マ)原田宛

二七 御口上覚

(一六三三)

(明治初期) 二月

切紙(包紙入) 一通

吉田紀四郎^ら、政務取扱いの姿勢について意見書

(c) 訴訟・刑罰

二七 御達書

(八四二)

文化六年十月十九日

巻紙(包紙入) 一通

家老中^ら、加来孫大夫前之罪差赦

二七 御内用日門様^ら御詫言ニ付始末書付類

イ 旧例若御入用も可有御座哉与書拔指遣候

(八五六の二)

(文化十二年)

切紙 一通

上野門主より要求の際の処置についての旧例

口 書状

(八五六の二)

(文化十二年)

切紙 一通

木付・松崎宛、上野門主申入の件

ハ 書状

（八五六の三）

（文化十二年）八月廿八日

切紙 一通

松崎作左衛門・木付半作を吉田齊之助・吉田縫殿外宛、

上野門主よりの要求に付

二 達

（八五六の四）

（文化十二年）

切紙 一通

門主の要求断りに付

ホ（仮題）覚

（八五六の五）

（文化十二年）

切紙 一通

沢木七郎大夫宛、上野御門主より黒田甲斐守へ流罪の

もの赦免要求に付

二七 御詫言之覚・願人取次名前写

（八五六の写）

イ 願人・取次名前写

（八五七の二）

（文化十二年）

切紙 一通

ロ 覚写

（八五七の二）

（文化十二年）

切紙 一通

沢木七郎大夫宛

ハ 御詫言之覚

（八五七の三）

（文化十二年）七月

切紙 一通

惠恩院・覚王院を養寿院宛、宮崎織部以下九名流罪赦免の儀

二 江戸へ来状之写

（八五七の四）

（文化十二年）八月廿八日

切紙 一通

松崎作左衛門・木付半作を吉田縫殿外宛

二八 書状

（八五八）

（文化十二年）七月

切紙（包紙入） 一通

惠恩院・覚王院を養寿院宛、松平備前守家老等九名の

大嶋・姫嶋流人の者赦免に付

二九 姫嶋嶋番を届書面写

（八九四の二）

イ 覚

（八九四の二）

（江戸後期）辰正月

切紙 一通

三奉行を、姫嶋流人の内秋月国人自殺に付

ロ 書状

（八九四の二）

（江戸後期）正月八日

切紙 一通

占部織江・永井吉蔵を喜多村勘左衛門外宛、秋月国人

自殺に付

三〇 書状

（二四四〇）

（江戸後期）四月十八日

切紙 一通

斉藤三郎太夫を吉田齊之助・吉田縫殿外宛、大嶋へ流

罪被仰付置候両人の者共此節帰嶋被仰付候に付

三一 覚

（二五三二）

（文化十二年）

巻紙（包紙入） 一通

流人帰嶋被仰付候に付取斗の一件福岡より御作法申来

候控

三二 旅人直助殺害一件

イ 櫛木村庄屋・組頭申上候口上覚（尾欠）

（八五一の二）

文政十三年六月

一紙（包紙入） 一通

櫛木村庄屋・組頭を

口 秋月御領夜須郡櫛木村判元幸四郎御詮議ニ付乍恐申上口上之覚
(八五二の二)

文政十三年五月 一紙 一通
櫛木村判元幸四郎吉仁兵衛宛

ハ 穂波郡飯塚宿利藏御詮議ニ付乍恐申上ル口上之覚
(八五二の三)

文政十三年五月 一紙 一通
飯塚宿利藏吉仁兵衛宛

ニ (仮題) 直助殺害一件ニ付飯塚宿庄屋組頭申上候覚 (首欠)
(八五二の四)

文政十三年五月 一紙 一通
飯塚宿庄屋・組頭吉仁兵衛宛

ホ 秋月御領夜須郡櫛木村判元幸四郎女房はま御詮議ニ付申上候口上之覚
(八五二の五)

文政十三年五月 一紙 一通
幸四郎女房はま吉仁兵衛宛

ヘ (仮題) 幸四郎儀ニ付御詮議ニヨリ乍恐申上候
(八五二の六)

文政十三年五月 一紙 一通
櫛木村庄屋・組頭吉仁兵衛宛

ト 豊前中津御領春口村新助娘只今幸四郎女房はま御詮議ニ付乍恐申上口上候
(八五二の七)

(文政十三年) 六月三日 一紙 一通
幸四郎女房宛

チ 夜須郡櫛木村江以前入判仕居候幸四郎御詮議ニ付乍恐申上口上候
(八五二の八)

(文政十三年) 六月三日 一紙 一通
幸四郎宛

リ 櫛木村判外幸四郎一件福岡往返御懸合写
(八五二の九)

文政十三年五月・同六月 切紙 (包紙入) 一通
福岡・秋月往復書状写

又 宗像郡赤間宿判元平次郎御詮議ニ付乍恐申上ル口上之覚
(八五二の一〇)

文政十三年五月 一紙 一通
平次郎吉仁兵衛宛

二三 (仮題) 覚
(二三八四)

天保十二年五月 切紙 (包紙入) 一通
伊藤吉左衛門御咎節御免に相成

二四 書状 (首欠)
(二一〇二)

(慶応四年) 十二月廿八日 卷紙 一通
佐々善治外宛、田代勝兵衛一件

二五 (仮題) 田代勝兵衛儀去ル四月筑後下川村百姓惣右衛門殺害一件
(二一〇〇)

慶応四年 切紙綴 一綴
二六 (仮題) 田代勝兵衛一件
(二一〇二)

(慶応四年) 一紙綴 一綴
二七 口上書
(二一〇三)

二六 書状

(一〇九七)

(慶応四年) 十二月十六日 巻紙(包紙入) 一通

佐々善治外々末松左源太宛、田代勝兵衛調子の件

二九 田代勝兵衛筑後掛り合一件二付諸書付

(一〇九八)

(慶応四年) (包紙のみ)

二〇 (仮題) 伺状写

(一一六四)

(明治二年) 二月十五日 巻紙 一通

江藤東一郎宛、田代勝兵衛久留米領において殺害の件

二一 関門兵衛家来判專吉口書(尾欠)

(八三九)

(江戸後期) 一紙 一通

二二 博多赤間町上今津屋弥八口書

(八四〇)

(江戸後期) 午閏正月 一紙 一通

御町御役所宛

二三 覚

(八四一)

(江戸後期) 書綴 一綴

町奉行・同助役宛、罪人專吉・弥八の件

二四 (仮題) 秋月領卯八・利助罪状書上(首欠)

(八七九)

(江戸後期) 一紙 一通

專吉宛御役所宛

二五 (仮題) 賭博取調一件

(一一三〇の二)

イ 口書

(一一三〇の一)

(江戸後期) 九月十一日 切紙(包紙入) 一通

ロ 覚

(一一三〇の二)

(江戸後期) 八月 切紙 一通

ハ 口書

(一一三〇の三)

(江戸後期) 九月十一日 切紙(包紙入) 一通

御者頭宛

二六 書状

(一二六六)

(江戸後期) 八月廿九日 巻紙(包紙入) 一通

白石奎右衛門・井上庄左衛門宛横玄蕃外宛、北原諫見金子盗取詮議の件

二七 書状

(一二三五)

(江戸後期) 八月廿四日 切紙 一通

白石奎右衛門宛横玄蕃・箕主殿・土主水宛、送金盗取に付北原諫見召捕一件

二八 書状

(一〇九二)

(江戸後期) 九月朔日 巻紙 一通

白石奎右衛門外々横玄蕃外宛、北原諫身の件

二九 詮議口書

(一〇九二)

(江戸後期) 八月廿九日 巻紙 一通

北原諫身義

三〇 書状

(一二八九)

(江戸後期) 七月十日 切紙(包紙入) 一通

垂井半左衛門宛吉田右近外宛、戸倉代右衛門盗難の件

三一 書状

(一二八二)

(江戸後期) 五月朔日 切紙(包紙入) 一通

垂井半左衛門宛吉田右近外宛、戸倉代右衛門盗難の件

三二 覚

(九二二)

(江戸後期) 四月十六日 切紙 一通

岩井太四郎、御金蔵盗難の件報告

三〇三 覚

(江戸後期) 十月十四日

切紙(包紙入) 一通

松崎治部左衛門^六、盗難届

三〇四 書状

(江戸後期) 正月十二日

巻紙 一通

相山市郎大夫・伊藤半大夫^六吉田齋宮・吉田静馬外宛、
流入善二郎自殺一件

三〇五 町奉行伺書

(江戸後期) 八月十一日

切紙 一通

御咎メ御免願

三〇六 イ 口書

(江戸後期) 寅十二月

長綴 一綴

千年町大屋善助^六御郡御役所宛、下関にて松隈惣四郎
米賣払先の儀に付

口 口書

(江戸後期) 十月十六日

巻紙 一通

梅屋正三郎^六、大屋彦右衛門・善助下関へ榎実売払代
金の件

ハ 口書

(江戸後期) 十一月廿七日

巻紙 一通

大屋彦右衛門^六、榎実売買に付

ニ 口書

(江戸後期) 十一月廿七日

巻紙 一通

大屋善助^六、他売御差留の榎実売買に付

ホ 口書

(江戸後期) 十二月八日

巻紙 一通

平山村松隈宗四郎^六

ヘ 口書

(江戸後期) 十二月廿日

切紙 一通

松隈宗四郎^六、蠟並辛子売払の件報告

ト (仮題) 覚

(江戸後期)

切紙 二通

他売差留の榎実売渡候に付罪状

チ 役筋^六取調子申出書付

(江戸後期)

巻紙 一通

千年町善助・彦右衛門外社倉御拂米并御郡役所御拂米
売買の件

三〇七 覚

(江戸後期) 卯九月

巻紙 一通

大屋彦右衛門・善助経歴

三〇八 北原禎藏借財筋二付不勘弁之次第申上覚

(江戸後期) 二月

巻紙(包紙入) 一通

目付頭中^六

三〇九 書状

(江戸後期) 四月八日

巻紙 一通

戸波六兵衛^六吉田齋宮外宛、北原禎藏借財の件外

三〇 (仮題) 家臣の処罰覚

(文化八年) 弘化元年

長綴 一綴

三二（仮題）覚

（江戸後期）

（二六〇九）
切紙 一通

役務怠慢に付御叱責被仰付

三三 口上覚

（江戸後期）九月十四日

（一二三三）
切紙 一通

川嶋弥助、同姓孫三郎不埒の義仕候義に付、私差扣の義奉伺

三三 奉言上候覚

（江戸後期）六月廿九日

（二六二二）
切紙（包紙入）一通

横目役、田代酒乱の報告

三四（仮題）覚

（江戸後期）

（二六六八）
切紙 一通

其身大法を犯し候段如何体の御咎被仰付候ても不苦

三五 イ

（仮題）覚

（江戸後期）

（九四七の三）
切紙（包紙入）一通

無足、有間鋪不所行の儀仕に付詫状

ロ

（仮題）覚

（江戸後期）

（九四七の二）
切紙（包紙入）一通

無足中

ハ

（仮題）覚

（江戸後期）

（九四七の一）
切紙（包紙入）一通

部屋住中

ニ

（仮題）覚

（江戸後期）六月

（九四七の四）
切紙（包紙入）一通

御馬廻、詫状

ホ 口上覚

（江戸後期）

（九四七の五）
巻紙（包紙入）一通

萩谷浄保、太過訖度相改候

三六 口上覚

（江戸後期）六月五日

（九四七の六）
切紙（包紙入）一通

戸原曆庵・下川養春

三七（仮題）覚

（江戸後期）六月

（一〇三〇）
切紙（包紙入）一通

部屋住、不所行仕儀御有免願

三八（仮題）覚

（江戸後期）

（二六一六）
切紙 一通

役儀不心得に付御叱被仰付候

三九 書状

（江戸後期）六月十七日

（二〇六八）
巻紙（包紙入）二通

吉田右近、箕浦主殿・吉田悟助宛、白井・中嶋殺害の

件外

三〇（仮題）斬罪者取斗の件につき加役御差除被仰付度願

（江戸後期）

（九〇八）
巻紙（包紙入）一通

三二（仮題）潔斉日限内斬罪被仰付件二付

（江戸後期）

（九〇九）
切紙 一通

三三 上座郡宮野村服部甚次、恐御請申上ル口上之覚

（江戸後期）西三月

（二五八五）
長綴 一綴

田中十右衛門へ預置候米の御差紙に付訴え

三三 書状 (九八九)

(江戸後期) 十一月廿八日 巻紙 一通

杉山文左衛門、吉田斎宮・戸波六兵衛宛、不正物の品所持の者に付

三四 書状 (一四三九)

(江戸後期) 二月十八日 切紙 一通

原田伝右衛門、吉田斎宮・吉田多左衛門外宛、樋口圓藏等去秋之比銀札偽抱に付

三五 御本家様御領平塚村口上書 (掛り郡代役所江差出候写)

(二六七七)

慶応二年八月 巻紙 一通

平塚村榿木の件

三六 口上覚 (九六二)

(慶応二年) 八月廿二日 切紙 (包紙入) 一通

諫山鼎三、平塚村佐平詮議被成下度願

三七 口上覚 (八八八)

(慶応二年) 八月廿二日 巻紙 (包紙入) 一通

諫山鼎三、屋敷内榿木伐採の件

三六 口上書 (一三二二)

(慶応二年) 寅八月廿四日 長綴 (包紙入) 一綴

平塚村庄屋代半二郎、平塚村百姓、諫山鼎蔵屋敷内乱入の件

三九 口上書 (八九二)

(慶応二年) 寅十月二日 切紙 (包紙入) 一通

榿木一件

三〇 平塚村百姓中奉申上口上覚 (一三九四)

慶応二年十一月 長綴 一綴

榿木一件

三三 覚 (一三九五の二)

(慶応二年) 十一月廿一日 長綴 一綴

諫山鼎三、争論の場所御領境に付

三三 口上覚 (一三九五の二)

(慶応二年) 十一月三日 長綴 一綴

諫山由作、榿木所在地に付

三三 口書 (一三〇四)

(慶応二年) 十二月十一日 切紙 一通

平塚村左平、榿木一件

三四 (仮題) 平塚村地図 (一七四四)

(慶応二年) 一枚

三五 平塚村百石分天神馬場先御境之図 (一七四二)

(慶応二年) 一枚

三六 (仮題) 諫山屋敷附近図 (一三三〇)

(慶応二年) 一枚

三七 (仮題) 覚 (一三二九)

(明治初期) 十一月 切紙 (包紙入) 一通

御供方中御政府宛、渡辺練助義不調法の件

三六（仮題）時枝風説取調子書

（二一八八）

（明治初期）正月

長綴 一綴

監察

三七 書状

（一五五四）

（明治初期）八月五日

巻紙 一通

井上権大参事、土岐大参事・戸波権大参事外宛、贗金事件等に付

三八（仮題）秋穂義実一件書類

イ 覚

（九六三）

（明治初期）

切紙 一通

監察中、秋穂義実に御捨扶持被下置度

ロ 口書

（九六四）

（明治初期）

切紙 一通

秋穂義実、本家借財の義

ハ 覚

（九六五）

（明治初期）八月十六日

切紙 一通

監察中、秋穂義実儀銀談に付莫大の公財を費將又、自分借財身柄不相応の大借財致候段

ニ 覚

（九六六）

（明治初期）

切紙 一通

秋穂義実へ不審の件問合せ

ホ 覚

（九六九）

（明治初期）十二月

切紙 一通

三角庄作、清田十一宛、秋穂義実払分勘定

ヘ（仮題）秋穂義実への不審問に対する回答

（九六七）

（明治初期）二月廿七日

切紙 一通

月番萩谷静雄

ト 覚

（九六八）

（明治初期）

切紙 一通

秋穂義実へ御不審廉に付問合せ

チ（仮題）借銀の件報告

（九七〇）

（明治初期）二月廿七日

巻紙 一通

月番萩谷静雄

リ 覚

（九七二）

（明治初期）

切紙 一通

調達金子覚

ヌ 覚

（九七二）

（明治初期）六月六日

切紙 一通

監察中、秋穂義実一件に付井上権大参事・吉田主礼叱責の言上

ル 秋穂義実一条

（九七三）

（明治初期）

切紙 一通

三三（仮題）覚

（一三六四）

（明治初期）

切紙（包紙入）三通

萩谷静雄外、秋穂義実流罪

三四 書状

（一二一七）

（江戸後期）十一月二日

切紙 一通

星野半右衛門外、吉田縫殿外宛、広東人参抜荷の件

三三 書狀

(一〇三八)

(江戸後期) 十月十二日

巻紙 一通

星野半右衛門・鈴木順平・吉田縫殿外宛、人參拔荷の件

(d) 財政

三四 京都御普請方諸色御入目帳

(五五)

寛文六年六月十七日

書冊 一冊

三五 酉年於傳美屋敷院使女院使御賄入用帳

(七一)

明暦四年

書冊 一冊

※三四 御普請方金銀請拂帳

(六八)

天和三年正月

書冊 一冊

三六 質物入置令借用銀子之事

(八〇二)

貞享二年二月三日

一紙(包紙入) 一通

三六(仮題) 長恵公御入部之上家老中申渡之書付

(一一四三)

明和九年九月

書冊 一冊

財政難に付儉約精勤

三六 講数掛錢共調

(一六二五)

(安永七年) 戊閏七月

長帳 一冊

三七 拝借銀附留帳

(一一三三)

安永七年七月

書冊 一冊

家中拝借

三五 拝借無之覚書

イ 口上

(一二三六)

(安永七年) 六月廿九日

切紙 一通

吉井諸右衛門・山田十蔵宛

ロ 覚

(一二三七)

(安永七年) 六月廿七日

切紙 一通

水城甚右衛門・山田十蔵宛

ハ 覚

(一二三八)

(安永七年) 六月

切紙 一通

阿部傳左衛門宛

ニ 口上之覚

(一二三九)

(安永七年) 戊六月

切紙 一通

柴田助左衛門宛

ホ 口上之覚

(一二四〇)

(安永七年) 六月廿日

切紙 一通

久野惣右衛門宛

ヘ 口上

(一二四一)

(安永七年) 六月廿八日

切紙 一通

垂井源吾宛

ト 覚

(一二四二)

(安永七年) 六月廿日

切紙 一通

原田十郎左衛門宛

チ 口上

(一二四三)

(安永七年) 六月廿七日

切紙 一通

高根市左衛門宛

リ 口上

（安永七年）六月廿九日

宮崎助七ゝ

（一三三四）
切紙 一通

ヌ 口上

（安永七年）六月廿七日

浅野安右衛門ゝ

（一三三五）
切紙 一通

ル 口上

（安永七年）六月

海北連七ゝ

（一三三六）
切紙 一通

ヲ 口上

（安永七年）六月廿五日

末松玉置ゝ

（一三三七）
切紙 一通

ワ 口上書

（安永七年）

明石辰八ゝ

（一三三八）
切紙 一通

カ 口上

（安永七年）六月

井上林右衛門ゝ

（一三三九）
切紙 一通

ヨ 覚

（安永七年）六月廿日

山井十時ゝ

（一三四〇）
切紙 一通

タ 覚

（安永七年）六月廿日

田中八太夫ゝ

（一三四一）
切紙 一通

レ 覚

（安永七年）六月

小泉権兵衛ゝ

（一三四二）
切紙 一通

ソ 覚

（安永七年）六月

山田庄九郎ゝ

（一三四三）
切紙 一通

ツ 口上

（安永七年）六月廿五日

吉田清兵衛

（一三四四）
切紙 一通

ネ 口上覚

（安永七年）六月廿八日

白石奎右衛門ゝ

（一三四五）
切紙 一通

ナ 口上之覚

（安永七年）六月

吉田金大夫

（一三四六）
切紙 一通

ラ 口上覚

（安永七年）六月廿二日

鳴村小兵衛ゝ

（一三四七）
切紙 一通

ム 口上之覚

（安永七年）六月廿九日

磯万兵衛ゝ

（一三四八）
切紙 一通

ウ 口上

（安永七年）六月廿八日

神吉佐助ゝ

（一三四九）
切紙 一通

中 覚

(安永七年) 六月

切紙 一通 (一二五〇)

渡辺作太夫

ノ 口上之覚

(安永七年) 六月

切紙 一通 (一二五一)

伊藤惣兵衛

オ 口上

(安永七年) 七月朔日

切紙 一通 (一二五二)

右田寛平

ク 覚

安永七年

巻紙 (包紙入) 一通 (一二五三)

拝借断り書提出者名

三五 御儉約被仰付候ニ付下書

享和三年十一月

切紙 (包紙入) 一通 (七七九)

御郡奉行・御町奉行宛

三六 両市中々銀貳百貫目御借入ニ付御家老中々福岡江被

指越御一札之写

(一四八〇)

文政二年十月

巻紙 (包紙入) 一通

吉田久右衛門外々井手勘七宛

三七 文政三年正月十七日此御作法通ニ御取行ニ相成候事

文政二年十二月

長綴 一綴 (一九五)

今般御勘定所御改正に付執行の廉々

三五 (仮題) 覚

文政三年六月

切紙 一通 (一六六一)

御町役所々秋月御勘定所宛、秋月学問所稽古観料の内
当役所仕組銭の内に御加入の覚

三六 文政十二丑年々三ヶ年御省略ニ付一統方申合之儀申
出書

文政十二年

(包紙のみ) (一四三四の二五)

三七 三ヶ年中申合之覚

(江戸後期) 丑八月

長綴 一綴 (二〇七二)

御組外中々、質素儉約申合せ

三八 三ヶ年省略役人中申合

(江戸後期)

切紙 一通 (二〇七八)

三九 三ヶ年中申合

(江戸後期) 丑八月

長綴 (包紙入) 一綴 (二〇七五)

御陸士中々

四〇 (仮題) 覚

天保三年十二月

切紙 一通 (一四五七)

今度摺立の新札引替に候、福岡町役所にも引替取扱
心遣の面々へ被下覚

六一 覚

(天保六年)

切紙 一通 (一四三四の一九)

未四月々申二月迄諸出金見積

四二 廻米御届写

天保八年十一月

巻紙 (包紙入) 一通 (一五四四)

町田善藏々御勘定所宛

三三 覚

（江戸後期）正月廿八日

切紙（包紙入）一通

中山平兵衛、黒田甲斐守領分筑前国秋月已年收納米の内大坂廻米の積高

三四 天保十一年子夏切手御引揚ニ付福岡御拝借金丑十月年割返納御相談相成候處元杉林五左衛門殿、裏判大野忠右衛門ヲ以相達候書付

イ 書状

（天保十二年）十一月十四日

卷紙 一通

大塚権兵衛・大野忠右衛門外、太田多左衛門宛、去夏御切手引揚に付御拝借金御返納方の儀

口（仮題）錢札御引揚ニ付其元取替分返洛覚

（一二三四の二）

（天保十二年十一月）

卷紙 一通

太田多左衛門宛

三五（仮題）御減知筋面々覚書

天保十二年、元治二年

切紙 三通

三六 口達扣

天保十五年七月

卷紙（包紙入）一通

財用繰六ヶ敷に付

三七 覚

（天保頃）

長綴 一綴

返洛利足

三六（仮題）御借金拂方見積帳

（天保頃）

長綴 一綴

三九 年賦返納銀請取之覚

嘉永二年十二月

一紙 一通

久松鷹之丞外、吉田六太郎外宛

三〇 御作事所諸品書廻拔書

文政二年、同十一年、嘉永二年、同六年

長綴 一冊

三一 同

（江戸後期）四月朔日

卷紙 一通

郡奉行、御作事所年々入用竹木并諸品の儀

三二 大筒射場屯所出来ニ付御作事奉行、差出候積書

（江戸後期）子四月四日

卷紙 一通

※三三 御作事所渡竹并二杭木書拔

文久二年三月

小横帳 一冊

三四 古来、御作事所在納諸品御定之写

文久二年四月

長綴 一冊

三五 口上書并覚書

イ 御当用定格現品在納之分代錢付并差引覚

（一二二五の二）

（江戸後期）

卷紙 一通

口 口上覚

（江戸後期）五月廿四日

卷紙 一通

御作事奉行、御当用定格御入用諸品は代錢納に相成

ハ 覚

(江戸後期) 戊五月

(一三二五の三)
切紙 一通

近年之定格細々臨時在納諸品三ヶ年平均

三七 戊ノ十二月御當用米札請拂書上ケ控

(二一八二)

文久二年

長帳 一冊

三七 文久催合規則連判帳 (尾欠)

(二二〇九)

(文久年間)

書綴 一綴

三七 拝借仕證文之事

(九二二)

慶応元年十二月

一紙 (包紙入) 一通

磯原泉藏方御納戸頭宛

※三七 御堀川御普請ニ付御郡郷夫賃錢庸并諸職人日庸材木
竹凡積附借入銀年賦割

(江戸後期)

書冊 一冊

三六 御堀川筋御運上空益并諸交易凡積、附當時御差間筋
之覚

(八五二)

(江戸後期)

書綴 一綴

三六 札買上見込

(六四四)

(江戸後期) 五月廿九日

長帳 一冊

名越仙左衛門

三六 (仮題) 古金銀等引替之義ニ付達

(九八三)

(江戸後期)

切紙 一通

目付頭宛

三三 御銀主中江申入口達控

(六三〇)

(江戸後期)

長帳 一冊

三四 (仮題) 御小人切米勘定覚

(二〇五九)

(江戸後期)

切紙 二通

三五 覚

(二〇五八)

(江戸後期) 三月

切紙 一通

長井自然方、御小人切米御渡方に付

三六 御小人御渡方立合セ下付

(二〇五〇)

(江戸後期) 五月

切紙 一通

三七 伺書

(二〇五六)

(江戸後期) 午三月

長帳 一冊

長井自然方、御小人待遇に付

三八 (仮題) 秋月表世帯向差支の件に付達

(九〇二)

(江戸後期) 六月

巻紙 一通

沢木七郎大夫宛

三九 手覚書

(九〇四)

(江戸後期)

切紙 (包紙入) 一通

銀子御取替被進候分

四〇 手覚書

(九〇五)

(江戸後期)

切紙 (包紙入) 二通

吉田久右衛門宛、御財用方請持沢木七郎大夫秋月表へ
被差越に付

三九二（仮題）御借銀御仕法の取扱に付覚

（九〇七）

（江戸後期）

巻紙 一通

吉田久右衛門宛

三九三 口達手控

（九〇〇）

（江戸後期）

切紙 一通

吉田久右衛門宛、甲斐守様御世帯向御財用の儀

三九四 御意御書付

（八九八）

（江戸後期）

切紙 一通

吉田縫殿・吉田久右衛門宛、甲斐守御世帯向御取締方

御借財等の儀

三九五 御積帳銀立ニ相成其外御建増口々江御達書

（二五八〇）

（江戸後期）

長帳 一冊

三九六 御甘ケ主法之覚

（八九〇）

（江戸後期） 七月

切紙 一通

久野左忠太夫、福岡御家中内借御引受御取扱被仰付候
由に付爰元茂御仕組被成下度

三九七 口上覚

（二六二三）

（江戸後期） 十一月五日

巻紙 一通

御組外中々、福岡表御家中為御仕組長崎々御借入金の
件

三九八 口上覚

（八七二）

（江戸後期） 十二月朔日

巻紙 一通

御無足中々、長崎表借入金の義

三九八 書状

（二六三二）

（江戸後期） 十二月三日

切紙（包紙入） 一通

御無足中々、長崎表々金子借入の義

三九九 覚

（八二二）

（江戸後期）

書冊綴 一綴

上御幼年中一統万事慎筋被仰出

四〇〇 大坂平野屋平九郎江返済金之儀ニ付紀伊様御城附方
来候書取写

（二四六二）

（江戸後期） 七月

切紙（包紙入） 一通

四〇一（仮題）藩札引替覚

（二七九〇）

（江戸後期）

断簡 二枚

四〇二 書状

（二二九二）

（江戸後期） 四月十六日

切紙（包紙入） 二通

伊藤半太夫々吉田斎宮・吉田静馬外宛、御伺書下書并
新札増立仕法の件

四〇三 書状

（二二八八）

（江戸後期） 五月廿二日

巻紙（包紙入） 一通

田代四郎右衛門々箕浦主殿宛、金札御貸渡の儀

四〇四 覚

（八九九）

（江戸後期） 五月十五日

切紙 一通

勘定所々江戸御役所宛

四〇五（仮題）御借財御為筋存付候ニ付申上書

（二〇〇九）

（江戸後期） 七月十二日

書綴 一綴

四六 口上覚 (一二三七)

(江戸後期) 十一月十四日 切紙(包紙入) 一通
横目役々、御家中へ御貸渡しに相成候金子の件

四七 覚 (一三五九)

(江戸後期) 卷紙 一通
御救米御渡し之事外

四八 覚 (一五二三)

(江戸後期) 十一月六日 卷紙 一通
家老中へ御目付頭中宛、拝借金 of 件

四九 書状 (一五二二)

(江戸後期) 卷紙 一通
借米 of 件外

四〇 (仮題) 家中借銀二付覚 (二〇一九)

(幕末) 卷紙 一通

四一 覚 (二一九八)

(江戸後期) 長綴 一綴
借銀元利返済の面々

四二 (仮題) 覚 (二六六三)

(江戸後期) 六月七日 卷紙 一通
町田平蔵々、当役御手当金の儀

四三 江戸御懸合扣 (二六四八)

(江戸後期) 六月廿一日 切紙 一通
田代四郎右衛門々名越仙左衛門宛、米百俵充被進に相成に付

四四 書状 (一六五〇)

(江戸後期) 九月六日 卷紙 一通
伊藤吉左衛門外へ吉田縫殿助宛、江戸にての御普請場の模様并御手当金の義外

四五 書状 (一一六三の二)

(天保十四年) 八月廿一日 切紙(包紙入) 二通
伊藤吉左衛門外へ吉田縫殿助宛、御用金・御普請の件に付

四六 書状 (一二八六)

(江戸後期) 卷紙 一通
磯信藏・神吉小介々吉右近・箕主殿外宛、御屋敷地御買入の義

四七 書状 (一二四四)

(江戸後期) 丑七月 卷紙 一通
銀子調達の件

四八 御渡御規定書 (二四四五)

(明治元年・同四年) 書冊 一冊
東京までの諸出費

四九 質屋并借財見込書 (二六五四)

(明治初期) 長綴 一綴
監察

五〇 乍恐口上覚 (二〇九〇)

(江戸後期) 七月九日 切紙(包紙入) 一通
水城二平々、財政仕法に付

四二 口上覚

（二六五二）

（江戸後期）

巻紙 一通

今般永代御積御調子御座候に付意見申上

四三（仮題） 拝禄差上度との願により甲斐守の御意向の取次
（二〇五七）

（江戸後期）

切紙 一通

吉田齊之助・吉田縫殿外宛

四三（仮題） 今般永代御積御調子御座候に付申上書

（二四三四の九）

（江戸後期）

切紙 一通

四四 乍恐口上覚

（二四一〇）

（江戸後期） 七月九日

切紙 一通

萩谷傳之進々、財政に付

四五 覚

（二四一一）

（江戸後期） 七月九日

切紙（包紙入） 一通

平田専之丞々、御借財御道附の義存寄差出候様被仰付に付

※四六 覚

（六四三）

（江戸後期） 已七月

切紙 一通

神吉小介々、御財用方に付

四七 口上覚

（二五八二）

（江戸後期） 五月

切紙 一通

垂井武兵衛々、御財用繰に付

四六 口上

（二〇八二）

（江戸後期） 七月廿六日

切紙 一通

清田領内外々、御財用繰に付

四九 乍恐口上覚

（二〇六五）

（江戸後期） 丑七月九日

切紙 一通

吉村五郎兵衛々、財政方御仕組に付意見申上

四〇 口上覚

（二〇六四）

（江戸後期） 七月九日

切紙（包紙入） 一通

山本熙太郎々、財政方意見申上

四三 乍恐申上口上覚

（二〇四八）

（江戸後期）

巻紙（包紙入） 一通

阿部善八々、御財用繰の件

四三 乍恐申上口上覚

（二〇四三）

（江戸後期）

切紙（包紙入） 一通

嶋村喜八郎々、財政方御仕組の件

四三 口上覚

（二〇二六）

（江戸後期） 七月八日

切紙（包紙入） 一通

四四（仮題） 覚

（二〇二五）

（江戸後期） 七月九日

切紙（包紙入） 一通

御切米の分指上度

四五 乍恐奉申上覚

（二〇〇八）

（江戸後期） 七月

切紙（包紙入） 一通

薦野半内々、御財用繰御差支に付

四六(仮題) 覚 (六一七)

天保五年六月 長綴 一綴
長井自然、財政の件

四七(仮題) 覚 (八八九)

(江戸後期) 七月 切紙(包紙入) 一通
久野左忠太夫、財用繰に付申上

四八(仮題) 御省略仕法に付申上書 (一二三四)

(江戸後期) 七月八日 巻紙(包紙入) 一通
吉田作十郎

四九(仮題) 御借財御道付御主法之儀ニ付申上書 (一二三二)

(江戸後期) 七月九日 切紙 一通
谷檀之助

四〇 奉捧口上覚 (一二三〇)

(江戸後期) 七月九日 切紙(包紙入) 一通
山口一弥太夫、御世帯繰に付申上

四一 書状 (一二〇六)

(江戸後期) 七月廿九日 切紙 二通
吉田縫殿助・吉田多左衛門外太戸波六兵衛宛

四二 乍恐申上口上覚 (二六四二)

(江戸後期) 七月 切紙(包紙入) 一通
岡野数八郎、御世帯繰御差支に付拝祿の内差上候様仕度

四三 口上覚 (一六五三)

天保十二年七月 巻紙(包紙入) 一通
中村権平、御世帯繰に付意見申上

四四 乍恐口上覚 (二二一六)

(江戸後期) 七月九日 切紙(包紙入) 一通
坂本喜左衛門、御渡米の内差上度

四五(仮題) 覚 (二六三三)

(江戸後期) 七月 切紙(包紙入) 一通
時枝作内、拝米の内差上度

四六 口上覚 (二六一五)

(江戸後期) 七月九日 切紙(包紙入) 一通
藤野角太夫、財用繰に付意見申上

四七(仮題) 覚 (二六〇六)

(江戸後期) 七月九日 切紙 一通
末松左源太夫、御財用繰に付意見申上

四八 口上之覚 (二五八六)

(江戸後期) 已十一月 長綴 一綴
青柳一助、小幡猶右衛門外宛、御国益のため紫根仕立を申上

四九(仮題) 覚 (二二六八)

(江戸後期) 七月九日 折紙(包紙入) 一通
岡本又右衛門、御財用仕組に付申上

五〇 口上覚 (二五二六)

(江戸後期) 長綴(包紙入) 一綴
吉田右馬允、儉約の勧め

五一 申上廉之覚 (二五二九)

(江戸後期) 七月九日 切紙 一通
吉田守之進、儉約の件

四三（仮題） 覚 （一五三〇）

（江戸後期）七月 切紙（包紙入）一通

中村直記々、御財用方に付申上

四三（仮題） 覚 （二五三二）

（江戸後期）七月 巻紙 一通

佐々造酒助々、財用繰に付申上

四四 口上覚 （二五二二）

（江戸後期）七月九日 長綴（包紙入）一綴

堀尾久八郎々、御借財御道附方の義に付申上

四五 口上覚 （二五三三）

（江戸後期）七月 巻紙（包紙入）一通

吉村武太夫々、御財用筋の義に付申上

四六（仮題） 覚 （二五一六）

（江戸後期）七月 切紙（包紙入）一通

富永甚蔵々、財用方に付意見申上

四七 口上覚 （二三六五）

（江戸後期）七月八日 切紙 一通

吉田束々、講御仕組進言

四八 口上覚 （二七八七）

（江戸後期）七月八日 巻紙（包紙入）一通

原正蔵々、財政に付申上

四九 覚 （六三二一）

（江戸後期） 長帳 一冊

財政に付申上

四〇 乍恐奉申上口上覚 （二四七六）

（江戸後期）七月 巻紙 一通

海賀市蔵々、財用方に付意見申上

四一（仮題） 口上覚 （二四七五）

（江戸後期）七月九日 巻紙 一通

磯順蔵々、財用繰に付意見申上

四二 覚 （二四九七）

（江戸後期）七月九日 切紙（包紙入）一通

渡辺小弥太々、御財用繰に付意見申上

四三 奉呈口上覚 （二四九六）

（江戸後期）七月九日 切紙（包紙入）一通

伊東九郎々、御世帯繰に付意見申上

四四 口上覚 （二四九三）

（江戸後期）七月九日 長綴 一綴

近藤升々、財用繰に付意見申上

四五 乍恐申上候口上覚 （二四八二）

（江戸後期）七月九日 長綴（包紙入）一綴

高橋次郎兵衛々、御財用筋の義に付意見書

四六 口上覚 （二二二二）

（江戸後期）七月九日 切紙（包紙入）一通

田代字多太々、御切米の内奉指上度

四七 奉伺覚 （一五三五）

（天保十三年）八月廿九日 巻紙 一通

目附頭々、儉約筋引拵方の儀

四六 覚

(江戸後期)
御役人中宛、質素倭約の儀

(一〇九三)
巻紙 一通

四九 口上覚

(江戸後期) 七月九日
吉田太仲宛、倭約の義に付

(一二四〇)
切紙 一通

四七〇 覚書

(江戸後期) 丑八月
御無足中宛、質素倭約に付

(一〇七四)
切紙 一通

四七一 覚

(江戸後期) 八月
馬廻中宛、倭約等に付

(一〇七三)
切紙(包紙入) 一通

四七二 覚

(江戸後期) 丑八月
御組外中宛、倭約の義に付伺

(一〇七二)
切紙(包紙入) 一通

四七三 (仮題) 乍恐申上候御事

(江戸後期) 七月九日
中山三六宛、一統倭約文武に励む様

(一二五五)
切紙 一通

四七四 覚

(江戸後期) 七月十日
藤田吉蔵宛、財用繰に付意見書

(一〇二七)
切紙 一通

四七五 財用筋書

(年度未詳)

(六四〇)
(包紙のみ)

四六 御借財高調子

(年度未詳)

(六三九)
(包紙のみ)

(e) 寺社

四七 寺社之部山伏佛説共

正徳四年〜文政十二年

(三六)
書冊 一冊

※四七 鳴渡山一件記録

天明四年二月

(二四五)
書冊 一冊

天明三年十二月鳴渡山南福院音聲寺観音堂一字境内共に野島普明院末寺に御引戻し被仰付候一件覚書

四九 筑前国下座郡小田村御座本庵主

寛政元年十一月

(一〇一五)
書冊 一冊

東照寺宛、御座本庵の人別

四〇 口上書之写

文化二年閏四月

(二二九)
長帳 一冊

黒崎大宮司波多野河内守宛、此節御上御参府被為遊御座候方海陸御安全御礼御守奉献納度

四二 奉願口上之覚

文化十一年

(二〇七)
巻紙(包紙入) 一通

日照院宛、日照院大地格直りに付願書

四二 日照院大地格直リニ付申出候書付

イ 覚

（一一〇の二）

（文化十一年）十二月

巻紙（包紙入）一通

日照院々田代伊左衛門宛、当院寺格転位の儀御願立の儀

ロ 長崎聞役関屋舎々廉書

（一一〇の二）

（文化十一年）十二月

巻紙（包紙入）一通

日照院

※四三 垂裕明神御勸請始末記

安政六年六月

書冊 一冊

四四 御一新ニ附甲斐国巨摩郡百姓神葬式願書取・長門国萩領神職同式、伊勢国御神領葬祭式

（慶応四年）

書冊 一冊

宮永保親編集

四五 達書写

（一五六の二）

（江戸後期）

切紙 二通

寺社受持々町奉行宛、蓮成房松源院住職に被仰付候様願并その許可

四六 書状

（一二三七）

（江戸後期）正月七日

切紙 一通

徳巖々原田十郎左衛門宛、崇福寺の件

四七 口上

（九三三）

（江戸後期）四月

切紙 一通

日照院々正岡吉甫宛、日照院護持尊像等大頼破に付修補被仰付候様家老中迄御執達願

四八 口上手扣

（一五七三）

（江戸後期）十月

切紙（包紙入）一通

照明院々、御宮御別当大徳院配下高野山上智院義

四九 口上覚

（一五七四）

（江戸後期）

巻紙（包紙入）一通

本覚院々黒田甲斐守御役人中宛、上智院の義

五〇 写書

（一五七五）

（江戸後期）未五月

書冊 一冊

上智院々大坂秋月蔵屋敷宛、高野山上智院儀施設物収納減少に付願

五一 書状

（一二二八）

（江戸後期）正月四日

切紙 一通

原田傳右衛門々井上彦左衛門外宛、高野山上智院兼務本覚院事

五二 イ 蓮成房殿一件書付

（一六四四の二）

（江戸後期）五月廿五日

巻紙 一通

西田弥三郎・同五兵衛々中山平兵衛宛

ロ 蓮成房殿普明院住職被達ニ付聞合市郎大夫々来状

（一六四四の二）

（江戸後期）四月十日

切紙 一通

桐山市郎大夫々吉田斎宮外宛

ハ 口上之覚

（一六四四の三）

（江戸後期）卯九月

長綴 一綴

蓮成房普明院住職の件

二 聞書

(江戸後期)

(一六四四の四)
長綴 一綴

愛宕山中威徳院之覚

ホ 東叡山々被仰付之事並東叡山宮様々甲斐守様へ

御頼入之事

(江戸後期)

(一六四四の五)
巻紙 一通

ハ 覚

(江戸後期)

(一六四四の六)
巻紙 一通

普明院に関する覚書

ト (仮題) 覚

(江戸後期)

(一六四四の七)
切紙 一通

蓮成房並普明院に付

チ 書状

(江戸後期) 五月十二日

(一六四四の八)
巻紙 一通

蓮成坊々忠左衛門宛、普明院住職願

リ 書状

(江戸後期) 五月十五日

(一六四四の九)
巻紙 一通

忠左衛門々静馬宛、礼状

四九三 (仮題) 御宮建一切積

(江戸後期)

(二一九六)
長綴 一綴

四九四 口上手扣

(江戸後期) 十二月

(一四四四の二)
切紙 一通

本覚院使僧寛然々

四九五 看松庵へ書状之案

(江戸後期)

(八二〇)
書綴 一綴

藤右衛門・半大夫外々端岩座元侍者宛、本山転位願の義

四九六 玉垣式間半二三間位見込積

(江戸後期)

(二一九五)
長綴 一綴

稻荷社普請

四九七 書状

(江戸後期) 十二月十九日 (包紙入)

(二一六三の一九)
切紙一通、折紙一通

看松庵端巖々宮崎与二兵衛外宛、当庵開祖百回忌に付

四九八 書状

(江戸後期)

(二一六三の二〇)
切紙(包紙入) 一通

垂井半左衛門々吉田右近外宛、寺社關係に付荒木寛一

々願出候一件

四九九 市中出家山伏人別書出写

(江戸後期)

(二一三四)
書冊 一冊

五〇〇 神道本

(年度未詳)

(七四)
書冊 一冊

(f) 藩学

※五〇一 稽古観文武公令

天明四年

(二一〇五)
書冊 一冊

※五〇二 稽古館切令被仰出之写

天明四年・文化七年

(二一〇四)
書冊 一冊

五〇三 儒学之儀被仰付候御直書

（八四六）

天明八年正月廿日

卷紙一通・切紙一通

※五〇四 福岡御儒者御招始末之記

（一九七）

文化十年十月

書冊 一冊

五〇五 記録之写

（八三〇）

文政八年

書冊 一冊

真藤漸次郎義御本家様へ御貫返の節御断一件

五〇六 真藤漸次郎福岡へ御貫返ニ付福岡へ之来書

イ 書状

（二六七三の二）

（文政八年）四月十七日

切紙 一通

野村市右衛門へ吉田齊之助外宛

ロ 書状

（二六七三の二）

（文政八年）四月十七日

切紙 一通

野村市右衛門へ吉田斎宮外宛

五〇七 イ 口達扣写

（二六二一の二）

（文政頃）

切紙 一通

真藤漸次郎学問指南方被仰付

ロ （仮題）口達扣

（二六二一の二）

（文政頃）

切紙 一通

真藤漸次郎学問指南方被仰付

五〇八 口上之覚

（二六三七）

（江戸後期）十月

長綴 一綴

真藤漸次郎へ吉田喜内宛、稽古館御手伝代役御人数増の儀

五〇九 真藤漸次郎秋月引越参候一件書付

イ 井上佐助へ御達控

（二六七〇の二）

（江戸後期）四月

切紙 一通

真藤漸次郎学問指南方被仰付に付

ロ 口達控

（二六七〇の二）

（江戸後期）

切紙 一通

井上佐助宛、真藤漸次郎学問指南方の儀に付

ハ 書状

（二六七〇の三）

（江戸後期）四月廿七日

切紙 一通

小川・野村宛、真藤漸次郎の件

ニ （仮題）達書

（二六七〇の四）

（文政八年）四月廿六日

切紙 一通

真藤漸次郎宛、福岡表へ御貫返に相成候旨申来候件

五二〇 口上之覚

（二六六九）

（江戸後期）三月

長綴 一綴

真藤漸次郎へ竹田助吉宛、甲斐守様御相手の件

※五一 諸芸軸帳上・下

（一四三・一四四）

文政十二年十二月

書冊 二冊

※五二 文武諸芸高覧記録

（二二一）

（天保頃）

書冊 一冊

御馬回頭

※五三 稽古観之次第覚書

（九一）

（江戸後期）

書冊 一冊

五四 今般諸頭被仰出候御書付写

(江戸後期)

長綴 一綴 (一三六八)

学問所入門規定

五五 書状

(江戸後期) 八月廿五日

切紙 一通 (一一五二)

垂井半左衛門ゝ吉田右近宛、学館へ武芸稽古所御取集に相成件

五六 覚

(江戸後期) 正月廿六日

切紙 一通 (一三七三)

稽古館手伝役中ゝ宮崎権内・田代四郎右衛門宛、稽古館御書物拝借の儀

五七 口上之覚

(江戸後期) 閏八月

切紙 一通 (一三六六)

真藤漸次郎々、被仰付候御役儀に付

五八 書状

(江戸後期) 八月廿五日

切紙 一通 (一五五二)

垂井半左衛門ゝ吉田右近宛、今般文武為御引立学館へ武芸稽古所御取集に相成

五九 存寄書

(江戸後期)

切紙 一通 (一三九二)

真藤漸次郎々吉田喜内宛、稽古館入学年令外

五〇 口上之覚

(江戸後期) 閏八月

長綴(包紙入) 一綴 (一三九三)

真藤漸次郎々林久左衛門・伊藤惣兵衛外宛、稽古館手伝役の件

五三 稽古観之事ニ付御直ニ仰付候草案御意之控 (マ、) (一三九二)

(江戸後期)

長綴 一綴

稽古観学問稽古の事

※五三 御輔導存意書

(江戸後期)

書冊 一冊 (一一四)

御学問の義

五三 覚

(江戸後期) 八月十一日

切紙(包紙入) 一通 (一一二一)

横目役中々、朱子学者磯信蔵取立願

五四 口上覚

(江戸後期) 十月

長綴 一綴 (一六三八)

井上庄助々小川伴左衛門宛、学問の義

五五 覚

(江戸後期) 四月

巻紙 一通 (一六三九)

秋月表学問の件

五六 口上之覚

(江戸後期) 三月

切紙 一通 (一六四〇)

真藤漸次郎々、学問指南の件、井上太助助役被仰付度

五七 真藤漸次郎へ御達之控

(江戸後期)

切紙 一通 (一六四一)

秋月にては御家中の面々学問指南方被仰付

五八(仮題) 覚

(江戸後期)

切紙 一通 (一六二〇)

稽古館是迄の通被相建置候

五九 書状

（一一一三）

（江戸後期）

巻紙 一通

隈江織部・内田主水・吉田斎宮外宛、坂田弟藏月山流
修行の件

五〇 書状

（一一六三の二七）

（江戸後期）

切紙（包紙入）一通

垂井半左衛門・吉田右近・太田多左衛門宛、山本肇より
西洋学修学の義願出候に付

五三 学館筋之義二付御褒詞御達之節中之間出方

（二四五六）

文政十年

切紙 一通

五三 覚

（一二三三）

（江戸後期）六月廿三日

長綴 一綴

典膳・半大夫外・藤右衛門宛、上御学問專要御誠願に付

(g) 軍役

※五三 嶋原御人数付

（二四〇）

（寛永十四・十五年）

長帳 一冊

五四 筑前侍従様初而当所御着座之節惣左衛門殿方書留之
写

（二九〇）

明和七年

書冊 一冊

出嶋唐人屋敷

五五（仮題）治茂様御卒去の際の長崎御番勤方記録

（二〇四〇）

文化二年

切紙 一通

五六 記録書抜

（二〇三九）

文化二年正月

巻紙（包紙入）一通

長崎御番関係、松平肥前守様への御口上、佐賀家老中
より御家老中への口上

五七 長崎聞役桐山市郎大夫・差出候書取

イ 覚

（一一三五の二）

天保十五年十月

切紙 一通

甲斐守様御陣所の儀

ロ 書状

（一一三五の三）

天保十五年十一月三日

切紙 一通

杉山文左衛門・太田多左衛門宛、長崎表非常の節御陣
所取調

ハ 覚

（一一三五の二）

天保十五年十一月廿日

切紙 一通

杉山文左衛門・太田多左衛門宛、本陣一件

ニ 書状

（一一三五の四）

天保十六年正月七日

切紙 一通

杉山文左衛門・太田多左衛門宛、長崎諏訪社境内へ其
御許様御本陣所御取極に付

ホ 覚

（一一三五の五）

（天保十六年）巳正月

切紙 一通

長崎聞役・長崎諏訪社境内にて甲斐守様御陣場御取
極

五八 唐船漂着御勤記 (二六八九)

(江戸後期) 書冊 一冊

五九 覚 (八七〇)

(江戸後期) 七月朔日 巻紙 一通

松崎作左衛門・渡辺長左衛門ら、長崎御番の儀

五〇 手控 (八六二)

(江戸後期) 八月 巻紙 一通

長崎御加番御受持被成度御内願の件

五一 書状 (七三三)

(江戸後期) 四月七日 折紙 一通

松平肥前守齊直ら黒田甲斐守宛、長崎台場守衛の件

五二 書状 (七九三)

(江戸後期) 六月十五日 折紙 一通

松平肥前守齊直ら黒田甲斐守宛、松平官兵衛長崎御番所の儀

五三 書状 (七九四)

(江戸後期) 五月廿四日 折紙 一通

大村上総介ら黒田甲斐守宛、松平備前守石火矢台場見廻に付

五四 (仮題) 長崎関係史料断簡 (一四三四の一四)

(江戸後期) 一袋

(h) その他

五五 神田御門御道具願書 (九一九)

寛政三年七月 書冊 一冊

萬屋五兵衛ら、江戸登城道具修覆など請負願

五六 秋藩摘録 (三三二)

(文化・明治四年) 小横帳 一冊

家臣関係・災害等記録

五七 覚 (八九一)

(江戸後期) 八月廿六日 切紙(包紙入) 一通

横目役中ら、文武御引締の進言

五八 乍恐別段言上之覚 (六三三)

(江戸後期) 六月 長帳 一冊

吉田縫殿助ら、文武の稽古に付

五九 (仮題) 口上覚 (六三七)

天保三年二月 長帳 一冊

長井自然ら、藩主心得等に付進言

六〇 (仮題) 覚 (一〇八〇)

(江戸後期) 六月十一日 切紙 一通

君子の心得進言

六一 (仮題) 覚 (六四二)

天保三年九月 長綴 一綴

長井自然ら、藩主心得等に付進言

五二 覚

（一〇八一）

（江戸後期）六月十一日
藩主への進言書

巻紙 一通

五三 書状

（一四三二）

（江戸後期）三月廿九日
吉田右近右算浦主殿外宛

切紙 一通

※五四 書状案（首欠）

（八一三）

（江戸後期）
吉田縫殿・吉田斉之助右山田十蔵宛

切紙 一通

・五五 書状

（一二九五）

（江戸後期）七月十二日
坂田諸遠右近・四郎右衛門外宛

切紙（包紙入） 一通

五六 口上覚

（一二二九）

（江戸後期）七月九日
遠山愛之輔右

切紙（包紙入） 一通

五七 書状

（一二九六）

（江戸後期）五月五日
神吉小介・武藤進右吉田右近外宛

切紙（包紙入） 一通

五八 書状

（一二九二）

（江戸後期）四月廿九日
小川伴左衛門右近・主殿宛

巻紙（包紙入） 一通

五九 書状

（一〇九六）

（江戸後期）十月十二日
伊藤半大夫右吉田縫殿宛、斉藤忠太夫右申談の件

切紙 一通

(4) 幕末維新（含本・支藩）

※六〇 大船製造二付御同席様方思召寄書写

（二〇九）

嘉永六年十二月

書冊 一冊

附、天保八年二月竹嶋江渡海いたし候一件触書、明和二年二月十六日助郷定・天保十三年六月にせ金錢に付触書外

六一（仮題）御借入外国船之義

（一二六七）

（幕末）

切紙 一通

六二 俄羅斯書翰和解

（四四六）

（幕末）

書冊 一冊

六三 魯西亜書牘和解

（二六八〇）

嘉永五年七月廿一日

書冊 一冊

六四 書状

（二〇一四）

（嘉永六年）七月五日
寺田数右衛門・鈴木左織右大久保七左衛門宛、亜墨利加書翰の写拝見の上御存察御差出に付

切紙 一通

六五 来状写

（二〇〇五）

（嘉永六年）

切紙（包紙入） 一通

六六 徳川家茂請書

（一四三四の五）

（文久三年三月）

切紙 一通

六七 豊前守殿右相渡候御書付写

（二五九三）

（文久三年）四月廿七日

巻紙（包紙入） 一通

従朝廷外国和親交易拒絶の詔有之に付

五六 書状

(文久三年) 八月

切紙 一通

大和国行幸中止の件外

五六 被仰出之写

(文久三年) 九月朔日

卷紙 一通

大目附宛、京都の情勢

五七 京師風説奉申上口上覚

(文久三年) 九月七日

卷紙 一通

白石李右衛門宛、八月十八日政変・天誅組の乱等に付

五八 京都風説且被仰出書写

(文久三年) 九月八日

卷紙 一通

有馬遠江守・井上河内守外々植村駿河守宛、天誅組の乱一件

五九 御宸翰写

文久三年

切紙(包紙入) 二通

八月十八日の政変に付、一橋中納言へ御守衛に付

五七 覚

(文久三年) 亥六月

長綴 一綴

フランス船長府城下へ大砲打掛候一件

五八 覚

(文久三年) 六月十七日

長綴(包紙入) 一綴

長州藩下関で蘭・仏・英砲撃の風説

五五 書状

(文久三年) 九月十四日

切紙(包紙入) 一通

白石李右衛門宛御家老中・御月番宛、京地風説に付奉
申上候

五六 不押立奉申上口上覚

(文久三年) 九月十四日

卷紙 一通

八月十八日政変の件報告

五七 或京都法重役衆の書翰写

(文久三年)

長綴 一綴

八月十八日政変後の模様

五八 京都風説奉申上口上覚

(文久三年) 九月廿日

切紙(包紙入) 一通

白石李右衛門宛

五九 書状

(文久三年) 九月廿一日

切紙 一通

白石李右衛門宛御月番宛、京地騒動風説書等差上の事

五〇 (仮題) 覚

(文久三年) 九月

切紙 一通

十津川郷士への御沙汰

五一 (仮題) 天誅組一件等覚書

(文久三年)

切紙 一通

幕府御触書、大和浪士乱暴者打取に付外

五二 為御知且御觸書京地風説書覚

(文久三年) 亥八月十七日・同廿七日

卷紙 一通

畿内周辺の騒動報告書写

ロ 京地風説奉申上口上覚

（一二四五の四の一）

（文久三年）八月晦日

切紙（包紙入）一通

白石左右衛門々、京の情勢に付藩庁への報告書

ハ 口達（写）

（一二四五の三）

（文久三年）亥八月

巻紙 一通

幕府々、京・大坂・和州の治安に付

ニ 書状

（一二四五の四の三）

（文久三年）八月晦日

切紙 一通

白石左右衛門々吉田右近外宛、御所表騒動に付

ホ 御達書写

（一二四五の二の二）

（文久三年）九月七日

切紙 一通

和州五條の一揆外

ヘ 京都御用達々去ル七日御達書写

（一二四五の二の四）

（文久三年）九月

切紙 一通

七卿落に付達

ト 京畿風説一件

（一二四五の四）

（元治元年）

切紙（包紙入）三通

チ 書状

（一二四五の二の一）

（幕末）九月六日

切紙 一通

御所司代様より御呼出の儀

リ （仮題）徳川家茂請書写

（一二四三の二）

（元治元年）四月

切紙 一通

横浜鎖港外

又 一橋慶喜等連署上表文案

（一二四三の三）

元治元年四月廿九日

切紙 一通

一橋慶喜・松平直克・酒井忠績・水野忠精

ル 御建白寫

（一二四五の二）

元治元年四月

切紙 一通

松平下野守々、鎖港の儀に付

ヲ 去ル四日京都町々御固被仰出候寫

（一二四五の二の三）

（元治元年七月）

切紙 一通

其三 宸翰写

（七五二）

文久四年正月

折紙（包紙入）一通

其四 宸翰写

（一二四四）

文久四年正月

書綴 一綴

其五（仮題）徳川家茂奉上写

（一二四二五）

（文久四年二月十四日）

書綴 一綴

其六 御請之写

イ 徳川家茂請書写

（一二四二九の二）

（元治元年）

切紙 一通

横浜鎖港に付

ロ （仮題）書付写

（一二四二九の二）

（元治元年）三月六日

切紙 一通

横浜鎖港に付御所々被仰出候書付写並御請被仰上候御

書付の儀

五七 勅書并御請書・御達書等

イ 徳川家茂請書

(元治元年) 四月

(二四二八の二)
切紙 一通

横浜鎖港に付

ロ 徳川家茂請書

(元治元年)

(二四二八の二)
切紙 一通

ハ (仮題) 達書

(元治元年) 五月

(二四二八の三)
切紙 一通

勅書御請書写并奏聞の条々に付

五六 京師騷擾巨細書

(元治元年) 八月十五日

(二四四六)
書綴 一綴

五九 御内用秘記

元治元年

(四四五)
書冊 一冊

周旋方、長州征討の儀

五〇 長州へ使者中津江来ル口達控

(元治元年) 八月

(二二七六)
書綴 一綴

五一 探索筋書付

(元治元年) 九月廿四日

長綴 (包紙入) 一綴
(二二四二)

第一次長州戦争に付

五二 長防御出勢御人数御領内宿陣ヶ所割

(元治元年)

(二〇八九)
切紙 一通

五三 七月廿四日之口達写

(元治元年) 七月廿三日

(二四九二)
切紙 一通

禁門の変後御所より被仰出候追討状

五四 御所へ被仰出候御書付写

(元治元年) 二月

(一五九四)
切紙 (包紙入) 二通

横浜鎖港一条

五五 徳川慶喜等連署上奏文案

元治元年四月廿九日

(二四二七)
切紙 一通

一橋慶喜・松平直克・酒井忠績・水野忠精・稲葉正邦

五六 イ 初度御達ニ付此方様御請持御名付

(元治元年)

(二四四四の二)
切紙 一通

ロ 初度御所司代へ之御達書写

(元治元年七月十三日)

(二四四四の五)
切紙 一通

長州兵結集に付

ハ 御所向御警衛

(元治元年七月)

(二四四四の三)
切紙 一通

諸門・諸道等の警固大名交名

ニ 二度目稲葉美濃守様へ之御達書写

(元治元年) 七月廿三日

(二四四四の六)
切紙 一通

長州兵結集に付

ホ 二度目此方様御一同御達ニ相成候御名元

(元治元年)

(二四四四の四)
切紙 一通

五七 上意振并御達書写

イ 牧野備前守殿御渡覚書写

(幕末) 八月二日

(二四八九の二)
切紙 一通

宸翰写在国在邑の面々へ通達候様

口 上意振写

（元治元年）

（二四八九の二）
切紙 一通

長州征討令

ハ 達書

（幕末）八月

（二四八九の三）
切紙 一通

一橋中納言殿賜候宸翰写為心得相達

五九 大隈出張応接方探索書写

（元治二年）七月

（二〇一八）
長帳（包紙入）一冊

五九 大隈出張応接方ヨリ探索書写

（元治二年）十月

（二〇八七）
長帳（包紙入）一冊

六〇 大隈出張応接方外聞写

（元治二年）

（二五六二）
長綴（包紙入）一綴

魚住幸太夫、中津表上方通船の事

六一 被仰上之書付并勅答之写

（幕末）

（七三五）
切紙（包紙入）三通

防長処置の義

六二（仮題）第一次長州戦争和平交渉文書写

（幕末）

（八九五）
書綴 一綴

六三（仮題）覚

（幕末）

（二六五九）
巻紙 一通

松平美濃守宛、毛利大膳父子御裁許の義

六四 書状

（幕末）十一月

（二〇四七）
切紙 一通

松平美濃守宛、毛利大膳父子伏罪の儀に付疑惑の廉々有之候に付

六五 御渡書写

（幕末）

（二〇〇七）
巻紙（包紙入）一通

小笠原大膳大夫宛、長藩の者征討の儀従天朝被仰出に付

六六 四月十一日豊村才右衛門引合

（慶応元年）

（八二三）
書綴 一綴

長州戦争関係の報告書

六七（仮題）諸国風聞書

（慶応元年）閏五月九日

（二四二六）
書綴 一綴

將軍進発の噂につき諸国の模様報告

六八 宸翰写・御請写

（幕末）

（七九五）
（包紙入）二通

孝明天皇宸翰写・徳川家茂写

六九（仮題）達書

（慶応元年）三月

（二一六〇）
切紙 一通

大樹上洛の儀

七〇（仮題）長州征伐ニ付松平美濃守江御達書写

慶応二年五月

（八一六）
書綴 一綴

七一 書状

（慶応二年）六月十七日

（二二七一の二）
巻紙（包紙入）一通

吉田悟助・神吉小助、第二次長州征伐模様

口 御本家様応接方老岐守様御旅館開善寺江御呼出

之上御書付ヲ以御達写

（二二七一の二）
切紙 一通

六三 肥後家中式守峰三郎と申者小倉引弘之節飯塚宿二取
落居候帳面組江三兵衛貫請所持二付借請帳面之写

(八九七)

慶応二年六月〜同七月

長綴 一綴

第二次長州戦争の際の小倉の戦況

六三 書状

(一二七〇)

(慶応二年) 六月十八日

切紙(包紙入) 一通

吉田悟助・神吉小介の箕浦主殿宛、附、肥後・柳川・久留米兵福岡応接方承る廉

六四 覚

(一二七三)

(慶応二年) 六月十八日

巻紙(包紙入) 二通

吉田悟助・神吉小介の箕主殿外宛、於芸地御布告に相成候御達書写外

六五 探索書附

(一二四二)

(慶応二年)

長帳 一冊

第二次長州戦争

六六 覚

(一二七二)

(慶応二年) 六月廿二日

巻紙(包紙入) 二通

神吉小介の箕浦主殿・田代四郎右衛門宛、長州戦の模様

六七 書状

(一二七二)

(慶応二年) 八月五日

一紙(包紙入) 一通

吉田悟助・神吉小介の吉右近宛、長人小倉に大勢入込件

六八 見聞書

(一二九九)

(慶応二年)

書綴 一綴

長州征伐の模様

六九 長州二而見聞書

(一二六九)

(幕末) 九月十一日

長綴 一綴

江藤弥平次

七〇 小倉領内探索聞取書

(一二五七)

(慶応二年) 九月十六日

長帳 一冊

秋穂千万太夫、第二次長州征伐に付

七一口上書

(一二三五)

(幕末) 十二月廿四日

長帳(包紙入) 一冊

平位文右衛門宛、長州方々小笠原近江守様人質として相渡候様申参候件

七二 書状

(一二三七)

(慶応二年) 十二月十三日

切紙(包紙入) 一通

大隈出張隊長西山四郎右衛門宛 福岡表へ掛合書状写

七三 覚

(一二三六)

(慶応二年)

切紙 一通

第二次長州戦争捕虜取調口上書

七四 書状

(一二二二)

(幕末) 正月七日

切紙(包紙入) 一通

秋穂千万太夫、小倉・長州対談模様

七五 御書付写

(八六四)

(幕末)

切紙(包紙入) 三通

御所より被仰出候御書付写・(家茂) 御請被仰上候御書付写

六六（仮題） 版籍奉還建白書下書

（一四三四の四）

（慶応三年）二月

切紙 一通

六七（仮題） 書付

（二〇一六）

（慶応三年）十月

切紙（包紙入） 一通

徳川慶喜の黒田甲斐守宛、大政奉還につき意見書を求む

六八（仮題） 朝廷の御沙汰書案

（一四三四の六）

（慶応三年十一月）

切紙 一通

大事件・外異一条は尽衆議自餘の儀は諸侯上京の上御決定

六九 書状

（九九七）

（慶応三年）十一月十四日

巻紙（包紙入） 一通

高橋次郎兵衛・垂井半左衛門の吉田右近宛、王政復古被仰出候に付不謂挙動等無之様御老中様御演達儀外

七〇 御奏聞書写

（一四五二）

（幕末）十二月

巻紙（包紙入） 一通

慶喜

七一 書状

（一〇〇三）

（慶応三年）十二月廿三日

巻紙（包紙入） 一通

高橋次郎兵衛の吉田右近宛、將軍辭職に付外

七二（仮題） 古賀和左衛門探索書

（八二二）

（慶応三年）十二月廿四日

書冊綴 一綴

江戸の情況報告

七三 書状

（二六三五）

（幕末）正月六日

切紙（包紙入） 一通

高橋次郎兵衛の吉田右近宛、下向の通知

七四 書状

（二六五二）

（幕末）三月十四日

巻紙 一通

吉田右近の箕浦主殿・田代四郎右衛門外宛

七五 書状

（二二六三）

（幕末）三月廿二日

巻紙（包紙入） 一通

武藤武・磯信蔵外の吉右近・箕主殿外宛、兵庫開港・磯信蔵帰国の件外

七六 書状

（二〇八五）

（幕末）八月廿三日

切紙（包紙入） 一通

上野助右衛門の楠壮右衛門外宛、長賊筑前御境へ屯致し居候件

七七 書状

（二二六二）

（幕末）九月七日

切紙 一通

白石奎右衛門の吉右近・箕主殿外宛、京師風説書等奉入貴覧

七八 書状

（二二〇二）

（明治初期）七月朔日

巻紙（包紙入） 二通

江藤東一郎・井上庄左衛門の牧玄蕃外宛、附、六月晦日書状一通、刑法官との談判に付

六三 探索書

(一〇三三)

(幕末) 九月八日

切紙(包紙入) 一通

磯信藏・神吉小介の箕主殿・田四郎右衛門外宛、一橋公御直書九州諸藩へ参り申候に付細川・閑叟の動向報告

六四 山家駅探索口上書

(一五九七)

慶応四年正月十八日

長帳 一冊

井上重蔵

六五 (仮題) 井伊掃部頭内々斬人差出申候覚

(八一七)

(慶応四年) 二月

書冊綴 一綴

六六 (仮題) 戦乱の模様報知

(四七〇)

(慶応四年)

書冊 一冊

八月廿七日会津城下発九月十一日着大垣報知之写外附、觸穢之記(寛政・文政)

六七 豊前国四日市騒動之書付

(一一四〇)

(慶応四年)

長綴(包紙入) 一綴

六八 黒田甲斐守領分筑前国村高国役金取調申上書附

(一二三四)

慶応四年四月

書冊 一冊

大宮御所御造立御入用国役金

六九 書状

(一五七一)

(慶応四年) 九月廿二日

巻紙 一通

垂井半左衛門吉田右近外宛、大宮御造営に付国役割納金の儀外

六九 イ 書状

(一二六三の五)

(慶応元年) 九月十三日

切紙 一通

箕浦主殿田代四郎右衛門外宛、倉藩より征長のための援軍依頼に付

七〇 書状

(一二六三の六)

(慶応二年) 八月十九日

切紙(包紙入) 一通

戸波六兵衛吉田右近外宛、御人減外

七一 書状

(一二六三の四)

(慶応二年) 九月朔日

切紙(包紙入) 一通

戸波六兵衛吉田右近外宛、本土よりの征長隊の報告外、附、御減人数

七二 書状

(一二六三の一〇)

(慶応四年) 正月廿二日

切紙(包紙入) 一通

高橋次郎兵衛外吉田右近外宛、江戸・京の情勢・大坂銀談筋外

七三 書状

(一二六三の一七)

(慶応四年) 閏四月廿八日

切紙(包紙入) 一通

田代四郎右衛門箕浦主殿外宛

七四 書状

(一二六三の二)

(慶応四年) 五月五日

切紙 一通

田代四郎右衛門・吉田右近外箕浦主殿外宛、関東の御征討未御平治に至兼

七五 書状

(一二六三の二)

(幕末維新) 十月四日

切紙(包紙入) 一通

戸波六兵衛吉田右近外宛、当表相集り候窮民とも離散

チ 書状

（一一六三の七）

（幕末維新）四月廿五日

切紙（包紙入）二通

此節御人減に付

リ 書状

（一一六三の八）

（幕末維新）正月十七日

切紙（包紙入）一通

垂井半右衛門ゝ吉田右近外宛、御人減に付

ヌ 書状

（一一六三の九）

（幕末維新）

切紙（包紙入）一通

吉田右近・田代四郎右衛門ゝ箕浦主殿・吉田悟助宛、
付紙のみ

ル 書状

（一一六三の一一）

（幕末維新）十二月十日

切紙 一通

垂井半左衛門・高橋次郎兵衛ゝ吉田右近外宛

ヲ 書状

（一一六三の一二）

（明治初期）二月十四日

切紙（包紙入）一通

山本肇ゝ吉田右近・吉田悟助外宛、御殿向破損に付

ワ 書状

（一一六三の一四）

（明治初期）九月十九日

切紙（包紙入）二通

井上・江藤両権大参事ゝ土岐大参事外宛、兼而御下向
の末藩政改革被仰出に付

カ 書状

（一一六三の一五）

（幕末維新）

切紙（包紙入）一通

山本肇外ゝ吉田右近外宛、上方情況に付

ヨ 書状（尾欠）

（一一六三の一五）

（明治初期）五月十三日

切紙 一通

吉田右近・田代四郎右衛門ゝ箕浦主殿外宛、両船朝廷
御借用に相成箱館へ廻船外

タ 書状

（一一六三の二一）

（明治元年）正月十日

切紙 一通

垂井半左衛門ゝ吉田右近外宛、鳥羽伏見の戦見聞報告

レ 書状

（一一六三の二四）

（幕末維新）十月六日

切紙（包紙入）一通

山本肇ゝ吉田右近外宛

ソ 書状

（一一六三の二五）

（明治初期）三月十八日

切紙（包紙入）二通

井上庄左衛門ゝ吉田右近外宛、版籍返上の上書御受取
に相成

ツ 議事策問

（一一六三）

（明治初期）

切紙 一通

軍事に付

ネ 書状

（一一六三の二九）

（幕末維新）

切紙（包紙入）一通

戸波六兵衛ゝ吉田右近外宛、御寝間御普請外

ナ 書状

（一一六三の三〇）

（幕末維新）十月廿一日

切紙（封筒入）一通

甲斐ゝ吉田右近外宛、来年留守役人に付

ラ 添状 (一一六三の三二)

(幕末維新) 十月廿一日 切紙(包紙入) 一通
宮井左平太外吉田右近・箕浦主殿外宛

ム 書状 (一一六三の二六)

(明治二年) 四月六日 切紙(包紙入) 一通
土岐主水吉田右近外宛、両殿様兵庫港御着船・滞坂
人数進退の儀

ウ 書状 (一一六三の三)

(明治二年) 二月十一日 切紙(包紙入) 一通
吉田奥三右衛門、常山隊より甲府にての報告

エ 上書 (一一六三の二三)

(幕末維新) (包紙のみ)

ノ 書状 (一一六三の二六)

(幕末維新) 五月四日 切紙 一通

ハ 書状 (一一五五の二)

(明治元年) 正月十一日 切紙 一通
静寛院宮様御上京に付警衛の件

ヘ 御上京御発途之節御道書 (一一五四の二)

(明治元年) 正月十三日 切紙 一通

ト 書状 (一一四六の二)

(明治元年) 二月四日 巻紙 一通
井上庄左衛門吉右近外宛、静寛院様警衛の件外

ホ (仮題) 覚 (一一五八)

(明治元年) 二月四日 切紙(包紙入) 一通
江藤東一郎軍務御役所宛、静寛院宮様警衛人数伺

コ イ書状 (一一四〇の二)

(明治元年) 二月廿七日 巻紙 一通
垂井半左衛門吉田右近外宛、静寛院宮様御守衛の件
報告

ク 静寛院宮様より被下候御目録并御酒肴御菓子覚 (一一四〇の二)

(明治元年) 切紙 一通

ハ 静寛院宮御用掛り名前書上(首のみ) (一一四〇の三)

(明治元年) 切紙 一通

ヘ (仮題) 着京までの御守衛に付覚書 (一一五四の二)

(明治元年) 切紙 一通

ト (仮題) 覚 (一一五四の三)

(明治元年) 切紙 一通
兵隊人数并酒

チ 御発途静寛院宮様御列書 (一一五五の二)

(明治元年) 長帳 一冊

リ 書状 (一一五七の二)

(明治元年) 正月四日 巻紙(包紙入) 一通
上野四郎兵衛吉白井直理宛、鳥羽伏見の戦の模様

六五 書状

（一四三八）

（明治元年）七月十二日

切紙 一通

坂田諸遠より右近・主殿外宛、奥羽征討のため出兵内勅に付

六六 御裁判所より之御達書写

（一〇六二）

（明治元年）辰七月

巻紙 一通

筑前宰相宛、羽州秋田迄出兵要請

六七 書状

（一四三四の三二）

（明治元年）九月廿九日

切紙（包紙入）一通

吉田主禮より吉右近・箕主殿外宛

六八（仮題）戊辰戦争恩賞大名覧

（一四三四の八）

（明治元年）

切紙 一通

六九（仮題）賞状

（一四〇六）

（明治二年）二月

切紙 一通

行政官より黒田甲斐守兵隊宛

七〇 書状

（一六四三）

（明治二年）正月廿一日

巻紙 一通

吉田主禮・井上庄左衛門より吉右近・箕浦主殿外宛、東京へ御登りの一条外

七一 諸藩建白并雜書集

（四三四）

明治二年初秋より

書冊 一冊

七二 諸家様御参府御着日より同天機濟等御手続写

（五一六）

明治二年

書冊 一冊

公用方

七三 書状

（一二二四）

（明治四年）三月十七日

切紙 一通

米藩水野・沢・日出公御預二相成候件外

七四 書状

（一四三四の二八）

（明治初期）

（包紙のみ）

横直躬より参政府宛

七五 書状

（一二四八）

（明治初期）八月十一日

巻紙（包紙入）一通

井上権大参事より土岐大参事外宛、脱藩人・贋札の件等に付

七六 書状

（一〇五二）

（幕末維新）九月二日

切紙 一通

中川修理大夫留守居井上宗三郎より

七七 甲州二而隊長江御達書写

（一二五二）

（明治初期）正月

切紙 一通

判事より秋月長官中宛

七八 書状

（一〇〇二）

（明治初期）

巻紙（包紙入）二通

山本肇より箕浦隼人外宛、於行政官御城門御印鑑御渡の節・甲州出兵の御人数・待遇の件外

七九 廻状写并御達書写

（一四五二）

（幕末維新）八月廿七日

切紙（包紙入）二通

中川修理大夫留守居井上宗三郎より、諸藩士并浮浪人等諸家へ立入暴論を唱候より取締の事

六二 (仮題) 震援隊世話の件 (一二三三)

(幕末維新) 七月十七日
切紙 一通
関屋舎

六三 書状 (一二六一)

(幕末)
巻紙 (包紙入) 一通
吉田彦太夫吉右近・箕主殿外宛、京坂模様・鹿代様
御縁辺一件外

六三 覚 (一三八九)

(幕末維新) 六月十一日
切紙 一通
横目役中宛、西洋調練為御試伝習の義

六四 御京着御列書 (一五三七)

(幕末維新)
長帳 一冊

六五 書状 (一三七二)

(幕末維新) 九月九日
巻紙 一通
堤精太夫宛磯万兵衛宛、黒崎よりの報告

六六 書状 (一二五〇)

(明治初期) 八月七日
切紙 一通
山田権少参事・江藤権大参事宛土岐大参事宛、殿様等
接待の件報告

六七 書状 (一二四九)

(明治初期)
巻紙 (包紙入) 一通
江藤権大参事宛土岐大参事宛、知事の旅程・西郷と
の面談等に付

六六 書状 (一二五四)

(明治初期) 六月廿五日
巻紙 (包紙入) 一通
井上権大参事宛四宮正徳外宛、御下向十四ヶ条・筋違
御門受持の事外

六七 書状 (一二七七)

(幕末維新)
巻紙 (包紙入) 一通
吉田右近宛箕浦主殿宛、昨年輕拵一条に付悟介初御詮
義聞取書の件に付

六八 覚 (一〇九五)

(幕末維新)
巻紙 一通
小宮民部騒乱の件

六九 書状 (一二六一)

(幕末維新) 九月廿八日
切紙 一通
京極佐渡守内永田彦四郎宛、所司代宛別帋の通御渡相
成候に付

七〇 御廻達写 (一三七〇)

(明治初期) 八月
切紙 一通
太政官宛、諸藩公用人自今京都には差置に不及候事

七一 書状 (一〇八四)

(明治初期) 三月九日
切紙 (包紙入) 一通
吉田権大参事宛土岐大参事宛、天野大参事熊本藩御
預け・奥州の方百姓一揆の件外

七二 イ 書状 (一四三〇の二)

(幕末維新)
切紙 一通
吉田主禮宛吉右近・箕主殿外宛、人員差出に付

口 書状

（幕末維新）八月

（二四三〇の二）
切紙 一通

公議人の儀今般御改に相成

六五 イ（仮題）御沙汰書

（幕末維新）

（二四三四の二）
切紙 一通

建白の旨趣被聞食候

ロ（仮題）添状

（幕末維新）十月

（二四三四の七）
切紙 一通

去ル十三日於京地被仰出候御書取写相達候

ハ 覚

（幕末維新）

（二四三四の二）
切紙 一通

井上軍太夫来春迄御指留に付

二（仮題）軍書断簡

（幕末維新）

（二四三四の二）
断簡 一枚

陣場奉行の条

ホ 建白書等写

（幕末維新）丁卯

（二四三四の二三）
書綴 一綴

ヘ 酒井忠義建白書写

（文久二年）四月十日

（二四三四の二〇）
書綴 一綴

広橋一位・坊城大納言宛、西国筋の浪人共多人数兵庫
大坂辺に集り不容易暴論唱候趣に付

※六六（仮題）諸侯よりの廻文写

（幕末）

（四九〇）
書綴 一綴

六七 公議人延着御届書

（明治初期）

（二六七二）
切紙（包紙入）一通

山本肇方辨事御役所宛

六八 書状

（明治初期）二月十三日

（二〇〇二）
巻紙 一通

阿部傳兵衛方吉田右近・吉田悟助宛、公議人延着届に付

六九 書状

（幕末維新）十一月十二日

（九九〇）
巻紙 一通

小笠原刑馬長祚外方吉田右近外宛、諸浪人取締方に付
英彦山へ人数差越の件

七〇 小倉へ問合書并大坂市中風聞

（幕末維新）子二月廿二日

（二六六四）
折紙 一通

領地拾万石被召上候事外

七一 申渡之覚

（幕末維新）子正月廿五日

（二二四七）
切紙 一通

戸田越前守宛、野州廻賊徒追討被仰付候節其方家来共
右賊徒へ渡来関係致し候者も有之領知召上

七二 公卿方御恩賞

（明治初期）

（二六六六）
切紙 一通

七三 六月二日御恩賞

（明治初期）

（二六六七）
切紙 一通

七四 イ（仮題）達書

（明治初期）

（二五三四の二）
切紙 一通

御一新御変革に付上京の事

口 演舌書

(一五三四の二)
切紙 一通

(明治初期)
御変革御一新に付

ハ 書状

(一五三四の三)

(明治初期) 十二月十八日
池田信濃守留守居矢吹卯之二、名前御届の件に付

六五 書状

(二〇四九)
切紙 一通

(幕末維新) 十月
御所より被仰出候旨に付

六六 (仮題) 覚

(二三六七)

(明治初期) 十月
巻紙 (包紙入) 一通
福井卓爾外、御宗藩様を執政参政以下当分御附属にて双方御処置被仰付件

六七 書状

(二六四九)
巻紙 一通

(幕末維新)
白石奎右衛門を吉右近・箕主殿外宛、此節の御東行に付東海道筋模様報告

六八 書状

(二二六七)
巻紙 一通

(幕末維新)
白石奎右衛門を横玄蕃外宛、上納金の儀・在京兵員取調子の件

六九 書状

(二三七五)
切紙 (包紙入) 一通

(幕末維新) 三月廿七日
武藤進・磯信蔵外を吉右近・箕主殿外宛、朝廷を各藩へ被仰出写外

七〇 書状

(一三七九)
巻紙 (包紙入) 一通

(幕末維新) 八月十二日
江藤東一郎・井上庄左衛門を横玄蕃・箕浦主殿外宛、御廻達の件に付外

七一 書状

(一五五九)
切紙 一通

(明治初期) 正月廿一日
東京にて朝勤の旨被仰出候に付発途依頼

七二 書状

(一五二四)
切紙 一通

(明治初期) 十月廿五日
江藤権大参事の土岐大参事・戸波権大参事外宛、知事旅程報告

七三 書状

(一五五三)
巻紙 (包紙入) 一通

(明治初期) 六月廿四日
吉田権大参事の土岐大参事外宛、兵員改革の事達・廃藩置県論議外

七四 見聞書

(一四九九)
書綴 一綴

(幕末維新) 亥七月
秋穂千万太外

七五 上杉様を御渡二相成候御封切并御書付写

(八四八)
切紙 (包紙入) 二通

(幕末) 二月
宸翰写并御請写共為心得相達

七六 御所より被仰出候御書付写

(一四三四の二七)
(包紙のみ)

(幕末維新)

6 家臣

(1) 分限帳・知行

一（仮題）家臣知行高内訳覚

（元和九年）

切紙 一通
（五一四）

二（仮題）元和九年分知之節の供の人数及給知禄高調

（明治以降作成）

書綴 一綴
（四七七）

三長興氏秋月分知ノ節福岡ヨリ附人之家

（元和九年）

書綴 一綴
（七〇七）

四山口家頂戴之御判物并知行目録

イ（仮題）知行宛行状

寛永十二年正月九日

折紙（包紙入）一通
（一〇三六の四）

長興〆山口半之丞宛

ロ 打渡

寛永十二年正月九日

一紙（包紙入）一通
（一〇三六の五）

長興〆山口半之丞宛

ハ（仮題）知行目録

延宝八年十二月廿二日

折紙（包紙入）一通
（一〇三六の八）

長重〆山口三郎左衛門宛

ニ（仮題）知行宛行状

延宝八年十二月廿二日

折紙（包紙入）一通
（一〇三六の二七）

長重〆山口三郎左衛門宛

ホ（仮題）知行宛行状

正徳二年十二月十三日

折紙（包紙入）一通
（一〇三六の一五）

長軌〆山口三郎左衛門宛

ヘ（仮題）知行目録

正徳二年十二月十三日

一紙（包紙入）一通
（一〇三六の一六）

長軌〆山口三郎左衛門宛

ト 知行目録

宝暦六年九月十五日

一紙（包紙入）一通
（一〇三六の五）

山口半之丞宛

チ（仮題）知行充行状

宝暦六年九月十五日

折紙（包紙入）一通
（一〇三六の六）

長邦〆山口半之丞宛

リ（仮題）知行充行状

明和九年十月朔日

折紙（包紙入）一通
（一〇三六の九）

長恵〆山口三郎左衛門宛

ヌ 知行目録

明和九年十月朔日

一紙（包紙入）一通
（一〇三六の一〇）

長恵〆山口三郎左衛門宛

ル 知行目録

天明五年九月朔日

一紙（包紙入）一通
（一〇三六の一）

山口九郎大夫宛

ヲ（仮題）知行充行状

天明五年九月朔日

折紙（包紙入）一通
（一〇三六の二）

長舒〆山口九郎大夫宛

ワ (仮題) 知行充行状

享和三年九月十五日

長治6山口三郎左衛門宛

(二〇三六の二三)
折紙(包紙入) 一通

カ 知行目録

享和三年九月十五日

長治6山口三郎左衛門宛

(二〇三六の二四)
一紙(包紙入) 一通

ヨ (仮題) 知行充行状

文化六年三月朔日

長房6山口半之丞宛

(二〇三六の二一)
折紙(包紙入) 一通

タ 知行目録

文化六年三月朔日

長房6山口半之丞宛

(二〇三六の二二)
一紙(包紙入) 一通

レ (仮題) 知行宛行状

天保二年九月廿八日

長元6山口一弥太宛

(二〇三六の七)
折紙(包紙入) 一通

ソ 知行目録

天保二年九月廿八日

長元6山口一弥太宛

(二〇三六の八)
一紙(包紙入) 一通

ツ 給知高目録

嘉永六年八月

中村権平外6山口一弥太宛

(二〇三六の三)
一紙(包紙入) 一通

※ 五諸士配地附

元文二年正月廿八日

(二〇七)
書冊 一冊

秋月黒田家文書(一、江戸時代史料)

※ 六御家中知行高目録扣

明和九年十一月三日

(一三二)
書冊 一冊

※ 七長元公御判物記録

天保二年

(五七八)
書冊 一冊

八分限帳

(明治初期) 午三月

(五三三)
小横帳 一冊

九(仮題) 禄高書上

(年度未詳)

(三八一四七)
書冊 十冊

※ 二知行方切府方御渡定

(年度未詳)

(一九二)
小横帳 一冊

二知行高切扶方御渡米段取

(年度未詳) 辰十月

(八〇七)
卷紙(包紙入) 一通

三在住之家頼中ニ扶持米高并ニ自己持抱之地方余米差
出候分を以永代為扶持夫々宛行候米高共ニ覚書

(八一八)

書冊綴 一綴

(江戸後期) 午二月

吉田興善

(2) 由緒書・系譜

※ 三黒田家臣傳

(年度未詳)

(五)
書冊 一冊

※ 一四亡家系譜

(年度未詳)

(六一二)
書冊 一冊

※ 五 秋府諸士系譜一（一三）（二七二・二六一・二七一・三三四）

（年度未詳） 書冊 十三冊

※ 六 秋府諸士系譜附録（一七三）

（年度未詳） 書冊 一冊

※ 七 秋府半禮系譜一（四）（二七四・二七九）

（年度未詳） 書冊 六冊

※ 八 秋府陸士系譜（一五七）

（年度未詳） 書冊 一冊

※ 九 秋府陸士半禮系譜五（五九三）

（年度未詳） 書冊 一冊

※ 一〇 秋府新郷士系譜十四（三二五）

（年度未詳） 書冊 一冊

※ 三 秋府諸士畧譜（二五八・一六〇）

（年度未詳） 書冊 三冊

三 坂口傳次右衛門由緒書（一一九〇）

明和元年十月 長帳 一冊

三（仮題）賀米恕庵家覚書（一〇三五）

安政六年四月 切紙（包紙入）三通

系図・役職

(3) 家督

二四（仮題）覚（一四六八）

（江戸後期） 切紙 一通

江藤養泰・江藤東一郎宛、江藤父子隠居并家督相統の事

二五（仮題）吉田太郎太夫隠居退身願に付覚（二二四）

（江戸後期） 巻紙 一通

二六 田代四郎右衛門隠居之節之例（二七七九）

文政九年二月 切紙 一通

二七（仮題）覚（二七八〇）

天保四年六月十九日 切紙 一通

一井彦之進父子へ隠居・家督相統被仰付候節

二八 御役人隠居家督之節中間御達書例文（二四五九）

（江戸後期） 切紙 一通

二九 御陸士以下隠居家督被仰付候節御口達書例文（尾欠）（二四七〇）

（江戸後期） 切紙 一通

三〇（仮題）平土隠居家督願例文（二七七三）

（江戸後期） 切紙 一通

三一（仮題）隠居家督願例文（二七七四）

（江戸後期） 切紙 一通

三二 書状（二二六二）

（江戸後期） 切紙（包紙入）二通

小川孫一郎・戸波六兵衛ら吉田齋宮外宛、松延利助家

督相統・麦作の模様外

三三 口上覚（二五八四）

（江戸後期） 長綴 一綴

齋宮の件に付隠居願

(4) 家計

三 覚

(江戸後期) 未十月

卷紙 一通 (九三〇)

家老中々吉田喜大夫外宛、磯甚蕃方勝手向の件

三 口上之覚

(江戸後期) 六月十二日

切紙 一通 (二三三)

大久保五右衛門・江崎半右衛門々、在定御足輕中救助願

三 書状(首欠)

(江戸後期)

卷紙 一通 (二四八四)

組大借の次第に付その処置

三 口上覚

(江戸後期) 六月

切紙 一通 (二三八六の一)

久野惣右衛門々、御側筒幕方難渋に付

三 覚

(江戸後期)

切紙 一通 (二三八六の二)

御側筒中一月一人前入用高

三 一ヶ月老人前入用之覚

(江戸後期) 寅六月六日

切紙 一通 (二三三四)

定府部屋中・表御門定番々

三 一ヶ月老人前入用之覚

(江戸後期) 子六月六日

切紙 一通 (二三三五)

交代部屋中々

四 覚

(江戸後期) 五月

切紙 一通 (二三〇九)

坂田弟蔵々、御旅方御下男中入用高

四 覚

(江戸後期) 六月朔日

切紙 一通 (二三二〇)

坊主役中老人分入用高

四 覚

(江戸後期) 寅六月

卷紙 一通 (二三〇七)

御陸士中々、御陸士中老人前入用高

四 覚

(江戸後期) 六月

長綴 一綴 (二三〇六)

御馬捕々、御馬捕中老人前入用高

四 覚

(江戸後期)

長綴 一綴 (二三〇五)

御手廻中老人前御渡高銭計算

四 書状

天保十二年四月

切紙(包紙入) 一通 (二六〇八)

木下内記々、御合力被成下候様

四 御口上覚

(江戸後期) 五月

切紙 一通 (二五六七)

幕方難渋に付銀子永借願

四 覚

(江戸後期) 六月

卷紙 一通 (二三〇八)

御納戸頭中々、御奉公立行候様に御詮義被成下度

四イ 書状

（江戸後期）六月五日
卷紙 一通
（一三五四の二）

牧四郎大夫・渡辺平大夫宛

口 覚

（江戸後期）寅六月
切紙 一通
（一三五四の二）

御陸士中宛、暮方明細書

五 口上覚

（江戸後期）十一月十九日
切紙（包紙入）一通
（一六三二）

御陸士中宛、借入金お世話願

五 手控

（江戸後期）子十一月廿日
卷紙（包紙入）一通
（一〇四四）

黒田四郎五郎外宛、世帯繰の儀に付相談の書面

五 覚

（江戸後期）十二月廿日
小横帳 一冊
（一九三）

藤野弥五左衛門・佐々弥左衛門より拝借願申出の件

五 （仮題）吉田作十郎方家内混雑之儀調書

（江戸後期）四月十一日
卷紙（包紙入）一通
（一〇五五）

横目役宛

五 （仮題）吉田作十郎切分残米相渡不申旨調書

（江戸後期）四月十一日
卷紙 一通
（一〇五五）

横目役宛

(5) 家族

五 （仮題）雪心老秋月御越一件

（江戸後期）六月
切紙 四通
（二四一八）

五 書状

（江戸後期）四月廿一日
切紙（包紙入）一通
（二四一六）

伊藤半大夫宛吉田斎宮・吉田静馬外宛、雪心老容体に

付甲斐守様御心配

五 書状

（天保三年）四月廿七日
卷紙 一通
（二二九八）

伊藤吉左衛門・吉田静馬外宛伊藤半大夫宛、雪心儀に付

五 覚

（江戸後期）五月十九日
切紙 一通
（二四〇一の五）

茅野雪心老容体に付

五 雪心老秋月令滞留二付福岡表伺済之段半大夫来状

（天保三年）七月廿四日
卷紙（包紙入）一通
（二二九七）

伊藤半大夫宛吉田斎宮外宛

六 秋月御家老中宛之伺横折

（天保三年）七月
長綴（包紙入）一綴
（二二五七）

秋月家老中宛、雪心儀秋月にて滞留、薬用被仰付度

六 郡正大夫伺横折

（天保三年）辰七月十八日
長綴（包紙入）一綴
（二二五六）

祖父雪心を秋月に滞留させ度願

三 書状

（天保三年）六月十七日
切紙 一通
（二二五五）

伊藤半大夫宛吉田斎宮外宛、雪心儀に付外

三 書状

(天保三年) 七月廿日

卷紙 一通

伊藤半大夫と吉田齋宮・吉田静馬外宛、雪心秋月へ滞留の儀

四 雪心老一件二付半大夫と懸合状写

天保三年

切紙 一通

五 書状

(天保三年) 八月六日

切紙 一通

伊藤吉左衛門・吉田静馬外宛、郡正大夫との問合事

六 御伺書之下書

(天保三年)

卷紙 一通

家老中宛、郡正大夫方養家祖父茅野雪心病氣の件

七 (仮題) 相垣三兵衛赦免の件

イ 西念寺江御達書写

(二四八七の二)

文化六年十月十九日

切紙 一通

家老中宛

ロ 相垣三兵衛江御達書写

(二四八七の二)

文化六年十月十九日

切紙 一通

家老中宛

八 安西純素支配頭奏者番役月番吉田宇右衛門より純素

江被申達候口達書之写

(二四八七の四)

文化六年十一月十五日

切紙 一通

九 口上覚

(文化十二年) 五月廿九日

(二四八七の三) 切紙 一通

西念寺宛、相垣三兵衛悱勝太郎御取立の義

一〇 覚

(江戸後期) 五月十一日

(二六〇七) 切紙 一通

草履取時八出奔の件

一一 中村新作并甥中山記七郎儀、記七郎親作次郎為対面

日向国高鍋へ罷越一件

イ (仮題) 覚写

(天保三年) 八月五日

(二五六五の五) 卷紙 一通

坂田弟蔵外宛、中山喜七郎先年親七助行方相尋高鍋表

へ罷越候節の次第

ロ 口上之覚

(天保三年) 九月八日

(二五六五の四) 卷紙 一通

ハ 日向行一件追書返事

(天保三年) 九月廿七日

(二五六五の三) 切紙 一通

ニ 郡奉行と飛脚を以坂田忠右衛門迄懸合状之扣

(二五六五の二) 切紙 一通

(天保三年) 十一月十日

ホ 書状

(天保三年) 十月三日

(二五六五の一) 卷紙 一通

中村新作と内田八右衛門・小林嘉右衛門外宛

㉔ 口上之覚

（一五六四）

（天保三年）十一月晦日

切紙（包紙入）一通

中村新作々内田八右衛門外宛、帰宅候様郡奉行方致指
図候段届出

※ ㉕ 書状

（江戸後期）

切紙 一通

郡平馬欠落一件

㉖ 郡平馬欠落一件日記

（八三二）

（江戸後期）五月五日～同十六日

書綴 一綴

㉗ 口上覚

（江戸後期）二月廿七日

切紙（包紙入）一通

名越雄三郎々、弟出奔届

㉘ 覚

（江戸後期）子二月廿七日

切紙 一通

黒田篤之允使者々、名越雄三郎弟出奔に付

㉙ 泉田亮妻御関所通行二付江戸表下調之書

（七三一）

（江戸後期）十月

巻紙（包紙入）一通

㉚ 書状（首欠）

（一三五八）

（江戸後期）五月朔日

切紙 一通

伊藤四平々井上庄左衛門宛、黒田小一郎奥方死去に付

㉛ 覚

（江戸後期）

切紙（包紙入）一通

宮崎久作々、母在方逗留許可願

㉜ 書状

（九九四）

（江戸後期）十二月廿五日

切紙（包紙入）一通

垂井半左衛門々吉田右近外宛、沼田忠之助妹縁談の儀外

㉝ 書状

（一二七二）

（江戸後期）三月廿日

切紙（包紙入）一通

垂井半左衛門々吉田右近外宛、沼田忠之助妻縁談願出
の件

㉞ 書状

（一六三四）

（江戸後期）六月七日

切紙（包紙入）一通

垂井半左衛門々吉田右近外宛、沼田忠之助妻縁談願の
義

㉟ 書状

（一二八一）

（江戸後期）四月十日

切紙（包紙入）一通

吉田多左衛門々吉田斎宮・吉田静馬外宛、縁組願の事・
斎藤半助出奔の件

㊱ 書状

（一二三〇）

（江戸後期）二月十八日

切紙 一通

原田傳右衛門々吉田斎宮助外宛、吉村小平縁談許可外

㊲ 書状

（一二六八）

（幕末）

切紙（包紙入）二通

高橋次郎兵衛々吉田右近外宛

㊳ 書状

（一二六八の二）

（幕末）十二月廿二日

切紙（包紙入）一通

町田平蔵々、家族御差下願

口 (仮題) 嘆願書

(二六八の二)

(幕末) 十二月廿三日

切紙 (包紙入) 一通

平蔵父親儀は家族一同御差立被下度願

六 口上覚

(一六四七)

(江戸後期) 十二月朔日

切紙 (包紙入) 一通

神吉定夫、妻子を召寄度に付願

七 口上覚

(一〇四二)

(明治初期) 三月廿六日

一紙 一通

鶴沼藤九郎、藩政庁御伝達所宛、伊勢神宮へ参詣の願

出

(6) その他

六 酉年御家中并人馬増減目録

(七五二)

享和元年十一月

巻紙 (包紙入) 二通

六 秋月御家中始江戸・大坂・博多・黒崎居付之面々并

都而輕キ御扶持人兩津住居判元之者迄之家内人数調

子覚

(七四二)

文化二年十一月

巻紙 一通

六 御家中并在町人高増減目録

(一五九八)

文政八年、天保八年

長帳 一冊

六 於会所養老之札御執行之次第

(一二三六)

文化五年十月十三日

書綴 一綴

六 令則

(八〇四・八八二)

文化五年四月

巻紙 二通

黒田長房宛

六 無禮ニ而苗字御免之者

(一四四三)

文政十年七月改

切紙 一通

六 (仮題) 家臣願書

(一四九五)

(江戸後期)

断簡 一枚

六 (仮題) 諸願 (首尾欠)

(一六八六)

(江戸後期)

書綴 一綴

六 (仮題) 書状写 (首尾欠)

(四九六)

(江戸後期)

書綴 一綴

稲葉右京亮出立の廻状外

六 御暇他行判形帳

(一一八三)

慶応四年四月

長帳 一冊

六 御暇判形帳

(一一〇三)

(江戸後期) 三月廿一日、九月十六日

長帳 一冊

六 松澤涉齋身上一件

(一一〇五の二)

イ 松澤涉齋身上之書付

折紙 (包紙入) 一通

(明治三年) 霜月二日

口 不表立入御内覧候書取

(一二〇五の二)

(明治三年)

長綴 一綴

松沢涉齋一件

一〇〇イ 在任手続書

（江戸後期）

（二六五六の二）
書綴 一綴

御渡家床地間数・坪数・家作料

ロ（仮題）覚

（江戸後期）

（二六五六の二）
長綴 一綴

在住所引越方順席外

一〇一 書状

（江戸後期） 四月廿二日

（九九九）
卷紙（包紙入）一通

小川伴左衛門吉右近外宛、京都より磯信藏義下国一件

一〇二 奉願口上覚

（江戸後期） 八月十三日

（一四一三）
一紙（包紙入）一通

森田庄左衛門吉、私儀相勝不申

一〇三 覚

（江戸後期） 九月廿一日

（九一二）
切紙 一通

丹下剃髪の義外

一〇四 書状

（下書）（首欠）

（一〇七九）
切紙 一通

（江戸後期） 十一月十七日
御家老中杉山宛、某人死去通知

一〇五 書状

（江戸後期） 八月十八日

（一四七七）
切紙 一通

戸波六兵衛吉田多左衛門外宛、森田庄右衛門死亡届

一〇六 書状

（江戸後期）

（二七八八）
切紙 一通

養父を払出候儀に付

一〇七 覚

（江戸後期） 二月九日

（二六〇五）
切紙 一通

神吉小介方看病人の件

一〇八

神吉小助方追々之病人有之節近親与ハ乍申深切二世
話致シ不淨物洗清等迄も行届候由馬廻頭不押立申
出候名前書付

（江戸後期）

（二四七四）
切紙 一通

一〇九 御達扣

文政四年七月朔日

（二四六五）
切紙 一通

寄特の者に付老人扶持被下

一一〇 御家中心得宜者書上

（明治元年） 辰九月十六日

（二二三六）
長帳 一冊

横目役

一一一 覚

（明治元年） 辰九月

（二二四七）
切紙 一通

御陸士目付中、心得宜者名前書上

一一二 預り

（江戸後期） 未七月廿一日

（一四〇〇の八）
一紙（包紙入）一通

渡辺極之助外久野左忠太外宛、刀・脇差預り状

一一三 覚

（江戸後期） 六月三日

（九三七）
切紙 一通

御目見一件

一一四 附帋

（江戸後期）

（九三八）
卷紙 一通

来春御目見之節家老御目見之義

二五 口上覚 (八八七)

(江戸後期) 十月六日
家士の不風儀等に付 切紙(包紙入) 一通

二六 御請 (一〇二九)

(江戸後期) 六月
御馬廻中、風俗教化の御意仰せられるに付申合 切紙(包紙入) 一通

二七 口上覚 (一〇三二)

(江戸後期) 六月五日
渡辺杏斎・佐谷永庵外、風俗教化の趣意可相守 巻紙(包紙入) 一通

二八 口上覚 (一〇三二)

(江戸後期) 五月五日
御納戸中・御側中・南御部屋御番方中・御馬役々、風俗教化の御意仰せらるるにつき申合 巻紙(包紙入) 一通

7 在方・町方

(1) 土地

一 筑前国下座郡内屋形原村古田畠新田畠御検地帳 (六七六)

慶長七年九月 書冊 一冊

二 筑前国下座郡内田代村古田畠新田畠御検地帳 (六七七)

慶長七年九月 書冊 一冊

三 筑前国下座郡内板屋村古田畠新田畠御検地帳 (六八六)

慶長七年九月 書冊 一冊

四 筑前国下座郡屋永村本田畠新田畠御検地帳 (六八七)

慶長七年九月 書冊 一冊

五 筑前国下座郡柿原村本田畠新田畠御検地帳 (六九二)

慶長七年 書冊 一冊

六 筑前国夜須郡野鳥村田畠御検地帳 (六六八)

慶長七年九月 書冊 一冊

七 筑前国夜須郡上秋月村古田畠新田畠御検地帳 (六六九)

慶長七年九月 書冊 一冊

八 筑前国夜須郡菩提寺村田畠御検地帳 (六七〇)

慶長七年九月 書冊 一冊

九 筑前国夜須郡内四三島村古田畠新田畠御検地帳 (六七二)

慶長七年九月 書冊 一冊

一〇 筑前国夜須郡内三ヶ山村古田畠新田畠御検地帳 (六七四)

慶長七年 書冊 一冊

二 筑前国夜須郡下秋月村古田畠新田畠御検地帳 (六七八)

慶長七年九月 書冊 一冊

三 筑前国夜須郡内畑島村古田畠新田畠御検地帳 (六八九)

慶長七年九月 書冊 一冊

三 筑前国夜須郡内下高場村古田畠新田畠御検地帳 (六九四)

慶長七年九月 書冊 一冊

一四 筑前国夜須郡内仲牟田村古田畠新田畠御検地帳

（六八四）

慶長七年九月

書冊 一冊

一五 筑前国夜須郡依井村古田畠新田畠御検地帳

（七二六）

慶長七年

書冊 一冊

一六 筑前国夜須郡内久光村古田畠新田畠御検地帳

（七二七）

慶長七年

書冊 一冊

一七 筑前国夜須郡大塚村古田畠新田畠御検地帳

（七二八）

慶長七年

書冊 一冊

一八 筑前国夜須郡牛木村本田畠新田畠御検地帳

（七二九）

慶長七年

書冊 一冊

一九 筑前国夜須郡内上高場村古田畠新田畠御検地帳

（七三〇）

慶長七年

書冊 一冊

二〇 筑前国夜須郡持丸村本田畠新田畠御検地帳

（七三一）

慶長七年

書冊 一冊

二一 筑前国夜須郡千手村本田畠新田畠御検地帳

（七三二）

慶長七年

書冊 一冊

二二 筑前国夜須郡内栗田村古田畠新田畠御検地帳

（七三三）

慶長七年

書冊 一冊

二三 筑前国夜須郡内千代丸村本田畠新田畠御検地帳

（七三五）

慶長七年

書冊 一冊

二四 筑前国夜須郡下浦村本田畠新田畠御検地帳

（七〇八）

慶長七年

書冊 一冊

二五 筑前国夜須郡高田村本田畠新田畠御検地帳

（七〇九）

慶長七年

書冊 一冊

二六 筑前国夜須郡甘水村本田畠新田畠御検地帳

（七一〇）

慶長七年

書冊 一冊

二七 筑前国夜須郡檣原村古田畠新田畠御検地帳

（七一）

慶長七年

書冊 一冊

二八 筑前国夜須郡隈江村古田畠新田畠御検地帳

（六九六）

慶長七年

書冊 一冊

二九 筑前国夜須郡下湊村本田畠新田畠御検地帳

（六九七）

慶長七年

書冊 一冊

三〇 筑前国夜須郡馬田村本田畠新田畠御検地帳

（七〇一）

慶長七年

書冊 一冊

三一 筑前国夜須郡上浦村本田畠新田畠御検地帳

（七〇二）

慶長七年

書冊 一冊

三二 筑前国夜須郡内弥永村古田畠新田畠御検地帳

（七〇四）

慶長七年

書冊 一冊

三三 筑前国夜須郡内江川村古田畠新田畠御検地帳

（七〇五）

慶長七年

書冊 一冊

三四 筑前国嘉摩郡上臼井村古田畠新開田畠御検地帳

（六九三）

慶長七年九月

書冊 一冊

三 筑前国嘉摩郡内椎木村田畠御檢地帳 (六七二)

慶長七年九月 書冊 一冊

三 筑前国嘉摩郡屏村本田畠新開畠御檢地帳 (六七三)

慶長七年九月 書冊 一冊

三 筑前国嘉摩郡平山村古田畠新開畠御檢地帳 (六七五)

慶長七年九月 書冊 一冊

三 筑前国嘉摩郡内馬見村本田畠新田畠御檢地帳 (六七九)

慶長七年 書冊 一冊

三 筑前国嘉摩郡内千手東分古田畠新田畠御檢地帳 (七二五)

慶長七年 書冊 一冊

四 筑前国嘉摩郡西鄉村古田畠新田畠御檢地帳 (七二四)

慶長七年 書冊 一冊

四 筑前国嘉摩郡内泉河内村本田畠新田畠御檢地帳 (七二二)

慶長七年 書冊 一冊

四 筑前国嘉摩郡内大力村本田畠新田畠御檢地帳 (七〇〇)

慶長七年 書冊 一冊

四 筑前国嘉摩郡内才田村本田畠新田畠御檢地帳 (七〇三)

慶長七年 書冊 一冊

四 筑前国穂波郡内山田村本田畠新田畠御檢地帳 (六九八)

慶長七年 書冊 一冊

四 筑前国穂波郡弥山村本田畠新田畠御檢地帳 (六九九)

慶長七年 書冊 一冊

四 筑前国夜須・嘉麻・下座三郡之内村付石高 (二四)

寛文四年 書冊 一冊

※ 四 郷村帳一同御差出二相成候高辻之覚書扣 (七四五)

貞享元年五月廿三日 卷紙(包紙入)一通

※ 四 御水帳目録并覚書写 (二二二)

元禄六年六月十三日 書冊 一冊

四 御水帳目録并覚書 (二二三)

元禄六年六月十三日 書冊 一冊

五 覚書 (八五三)

元禄十三年三月 卷紙(包紙入)二通

下座郡平塚村・嘉摩郡西鄉村并光代村村高不足指引の事

※ 五 筑前国之内秋月領分新田高付帳 (四五八)

元禄十三年三月 書冊 一冊

※ 五 筑前国之内秋月領分郷村高附帳 (二二三)

元禄十三年三月 書冊 一冊

※ 五 筑前国秋月領郷村高辻帳 (二二六)

元禄十三年三月 書冊 一冊

五 筑前国之内秋月領分新田高付帳 (二六八二)

元禄十三年三月 書冊 一冊

五 秋月御領分之内御内證替七箇村高付帳 (二六八二)

元禄十三年三月 書冊 一冊

癸（仮題）夜須郡之内高付帳

（年度未詳）

（二六八三）
断簡 四枚

毛 秋月御領御内證替七ヶ村新田高盛帳

宝永八年正月

（五一七）
書冊 一冊

※ 丑 筑前国秋月領鄉村高辻帳写

宝永八年四月

（二二三）
書冊 一冊

壬 入日記

（宝永八年）卯正月廿六日

（七四〇）
巻紙 一通

高辻帳等目録

△ 新高改帳

宝永八年

（四〇六）
書冊 一冊

△ 宝永八卯覚書

（宝永八年）卯二月十一日・同十二日 一紙（包紙入）二通
（八四三）

宝永八卯起田畠高積目録・川成田畠高覚

※ △ 新高改帳之写

宝永八年二月十一日

（一八六）
書冊 一冊

△ 筑前国秋月領鄉村高辻帳

享保元年十月

（三七〇）
書冊 一冊

※ 酉 筑前国之内秋月領分新田高付帳

享保元年十月

（三六九）
書冊 一冊

※ 亥 秋月御領分之内御内證替七箇村寶永八年御改以後新

田高附帳

（四五六）

延享二年十二月

書冊 一冊

△ 赤藪横留切畠塲侍所

明和四年閏九月

（五〇二）
長綴 一綴

※ △ 拝領山控帳

安永九年五月改

（二八五）
書冊 一冊

※ △ 御預ヶ山在町拝領山御家中在町買畠自分仕立山御郡

役所相對二而預ヶ山調帳

安永九年五月

（二三七）
書冊 一冊

※ 充 拝領山根帳写

（年度未詳）

（二九六）
書冊 一冊

△ 天明五年〆在格段預山書上

（天明五年〆）

（二〇八）
書冊 一冊

△ 文化九年十一月晦日

文化九年十一月晦日

（二二八の二）
一紙（包紙入）一通

山隈村庄屋忠助〆郡御役所宛、湿拔御堀立願

口 覚

（文化九年）申十一月晦日

（二二八の二）
切紙（包紙入）一通

山隈村庄屋忠助〆郡御役所宛、田数書上

△ 文化十年十月

文化十年十月

（二二六の二）
一紙（包紙入）一通

当所村庄屋〆郡御役所宛、干田に御免被仰付被下候様

口 弁慶〆溝田迄田数書上帳

文化十年十一月

（二二六の二）
長綴 一冊

当所村〆郡御役所宛

三 中高場ぶないご湿拔田書上帳 (一六二七の二)

文化十年正月廿三日
下高場村
長帳 一冊

四 湿拔田御願書 (一六二七の二)

(文化十年) 酉正月
下高場村庄屋悦助
巻紙(包紙入) 一通

五 覚 (八四九)

(文化十年) 閏十一月廿八日
湿拔の儀被仰付被下度
切紙 一通

六 御願書 (八〇五)

文化十年閏十一月
上高場村庄屋水右衛門外
田数二町程千
田仕度に付湿拔堀立の義御願
巻紙(包紙入) 一通

七 拝領山預り山仕立山根帳写 (二〇六)

文政十一年五月
書冊 一冊

八 筑前国夜須郡・嘉麻郡・下座郡之内郷村高帳 (二四二)

天保二年
書冊 一冊

九 筑前国夜須郡・嘉麻郡・下座郡之内郷村高帳 (二〇二)

天保五年
書冊 二冊

一〇 筑前国夜須郡・嘉麻郡・下座郡之内新田高帳 (七〇六)

天保六年
書冊 一冊

一一 筑前国夜須郡・嘉麻郡・下座郡之内郷村高帳 (三三五)

(天保)
書冊 一冊

一二 覚 (九七九)

(江戸後期) 八月廿六日
渡辺半大夫宮崎与三兵衛外宛、御領分損毛の御届の件
巻紙 一通

一三 当子年六月十九日洪水川成田畠畝数覚 (二一〇八)

(江戸後期) 子十月
巻紙 一通

一四 戊五月廿五日・同六月朔日大洪水損毛御届之扣 (七三〇)

(江戸後期) 戊七月
切紙(包紙入) 一通

一五 覚 (八七二)

(江戸後期) 五月廿八日
新田の高相違の件
巻紙 一通

一六 口達之覚 (七八〇)

(江戸後期)
切紙 一通

一七 御領分郷村高帳御書上一件 (二一九四)

下座郡平塚村百姓源助抱田地売払一件申渡書
長綴 一綴

一八 丑春浮地折合主法書 (八一九)

(天保頃)
長綴 一綴

一九 丑春浮地二相成分約覚 (二五九〇)

(江戸後期) 丑二月
長綴 一綴

二〇 覚 (二一九九)

(江戸後期) 丑二月
浮地折合方の義に付
長綴 一綴

九一 覚書

（年度未詳）八月

一紙（包紙入）一通

江崎平兵衛ら、郷村高辻帳の件

九二 年恐申上候御事

（年度未詳）閏十一月

切紙 一通

御獵場方中々、御獵場内田肥沖干拓の儀に付

※ 九三 郷村鑑帳

（江戸後期）

書冊 一冊

夜須郡

※ 九四 郷村鑑帳五

（江戸後期）

書冊 一冊

嘉麻郡

※ 九五 郷村鑑帳六

（江戸後期）

書冊 一冊

嘉麻郡

(2) 貢租

九六 御年貢御取立役廉附

天保十二年八月

長帳 一冊

九七 秋月村拾三ヶ村御年貢諸上納米・大豆皆済村々（尾欠）

（二一七八）

（江戸後期）

切紙 一通

九八（仮題）田方畠方かふり分覚

（江戸後期）

長綴 一綴

水害不足年貢百姓負担割当

九九（仮題）菜種・多葉紛商売筋之品運上を以被仰付候書

付（首欠）

（八六九）

（江戸後期）辰九月

御家老中々御郡奉行中宛

一〇〇 下座郡物成帳

明治四年改正

（六五一・六五五・六六四）

一〇一 嘉麻郡物成帳

明治四年改正

（六五二・六五七・六六三）

一〇二 夜須郡物成帳

明治四年改正

（六五三・六五四・六五九・六六〇）

一〇三 穂波郡物成帳

明治四年改正

（六六一）

一〇四（仮題）御物成帳

明治四年改正

（六六一）

一〇五 夜須郡村々軸帳

（明治四年改正）

（六五八・六六六）

一〇六 下座郡村々軸帳

明治四年改正

（六四七・六四八・六五〇・六六五）

一〇七 嘉麻郡村々軸帳

明治四年改正

（六四六・六四九・六五六）

(3) 夫役

二〇 書取

(江戸後期)

書綴 一綴 (八六八)

御国中人馬賃錢増の儀

二〇 口上覚

(江戸後期) 卯六月

巻紙 一通 (二六六〇)

人足賃の儀

二〇 (仮題) 覚

(江戸後期)

切紙 一通 (二六六二)

御買上人足賃の件

二二 福岡往来之人馬御定賃錢二而可相済之取計一件

(一一三九)

(江戸後期)

切紙 (包紙入) 一通

勘定奉行中宛

二三 イ 肥後人数小倉往返人馬賃錢渡方帳

慶応三年五月

長帳 一冊 (二六〇〇の二)

ロ 夜須・下座三組調子筋書上

慶応三年五月

長帳 一冊 (二六〇〇の二)

ハ 覚

(慶応三年)

長綴 一綴 (二六〇〇の三)

夫役人馬賃錢渡方

二 肥後御家中御通行二付人馬書上帳并覚

(二六〇〇の四)

(慶応三年)

長綴 一綴

上秋月村

ホ 覚

(慶応三年) 卯六月四日

切紙 一通 (二六〇〇の五)

檜原村庄屋伊三郎御目付御役人宛、大庄屋元六請取
高人馬賃錢

ヘ 覚

(慶応三年) 六月十五日

切紙 一通 (二六〇〇の六)

持丸村庄屋武井藤八郎御役人宛、肥後小倉通行に付
助郷夫出方

ト 申上ル口上

(慶応三年) 六月四日

切紙 一通 (二六〇〇の七)

隈江村庄屋芳野市四郎山本卯兵衛・石井嘉左右衛門
宛、助郷夫出方覚

(4) 由緒

二三 (仮題) 先祖書

(寛政二年) 戌六月三十日

切紙 (包紙入) 一通 (八〇〇)

三嶋屋四郎次

二四 (仮題) 素平先祖由緒書

(江戸後期)

巻紙 一通 (七七四)

二五 系図

(江戸後期)

一紙 (包紙入) 一通 (七七三)

素平

二六 覚

(江戸後期) 戌七月

一紙 (包紙入) 一通 (七七二)

中町休兵衛宛、先祖書

二七 先祖景図之覚

（七七二）

（寛政二年）戊七月

折紙（包紙入）一通

鳴渡伊助 〆

二六 覚

（七七〇）

（寛政二年）戊七月

一紙（包紙入）一通

大工平助 〆、先祖書上

二九 豊後屋安兵衛先祖遺書覚

（七六九）

（江戸後期）

一紙 一通

豊後屋安兵衛

二〇 先祖書

（七六八）

寛政二年七月七日

一紙 一通

魚屋甚八

二三 覚

（七六七）

（寛政二年）戊七月

一紙 一通

勘藏 〆、先祖書

二三 覚

（七六六）

（寛政二年）戊七月

一紙（包紙入）一通

半三郎、先祖書

二三 先祖書

（七六五）

（寛政二年）七月八日

卷紙（包紙入）一通

中町小山田百太郎 〆

三四 乍恐申上口上之覚

（七六四）

寛政二年七月七日

卷紙 一通

中町彦平 〆、先祖由緒書上

三五 先祖書

（七五四）

（寛政二年）戊七月廿四日

一紙（包紙入）一通

紺屋八兵衛 〆

三六 先祖覚書

（七五三）

（寛政二年）戊八月

卷紙（包紙入）一通

魚町喜六 〆

※三七 黒田甲斐守様江御出入由緒書

（二八一）

弘化三年六月

書冊 一冊

(5) 人口

三六 御領分中町在男女人数之覚

（七六一）

享和元年十一月

卷紙 一通

三元 御領分中人馬増減目録

（七五五）

享和元年十一月

卷紙（包紙入）一通

※三〇 御領分中人高改

（二五一）

文化元年三月改

書冊 一冊

三三 人高差引目録

（七六〇）

文化二年十一月

卷紙（包紙入）一通

三三 西年町在人高并増減目録

（七六一）

文化二年十一月

卷紙（包紙入）一通

三三 御領分中家数・人高・牛馬数附

（八五）

文政三年

書冊 一冊

三四 人高差引目録

(七五七)

(江戸後期) 子五月

巻紙 一通

三五 筑前国夜須郡・下座郡・嘉麻郡之内人数帳 (二三六〇)

天保十一年九月

書冊 一冊

(6) 救恤

三六 嘉麻御救米・御拂米請拂約

(二五〇六)

天保七年十一月～同八年五月十五日

長帳 一冊

三七 嘉麻郡村々御救米約帳

(二五〇四)

天保七年十一月～同八年五月十五日

長帳 一冊

三八 嘉麻郷足輕仲間内友救書上帳

(二五〇五)

天保八年五月

長帳 一冊

三九 嘉麻郡中友救并取替類追々寄特筋調子帳

(二五〇七)

天保八年五月十五日迄

長帳 一冊

四〇 市中御救渡方約帳

(二六一八)

天保八年五月

長帳 一冊

四一 拝借米借用不仕者名前書上帳

(二四〇五)

天保八年五月

長帳 一冊

下湊組

四二 覚

(二二一九)

(江戸後期) 九月

切紙 一通

御救渡作食米惣高

四三 嘉麻郡春麦代り当時御取替約

(二五〇〇)

天保八年五月

長帳 一冊

四四 嘉麻郡村々御取替米覚帳

(二五〇二)

天保八年五月

長帳 一冊

四五 嘉麻郡村々御拂米約

(二五〇二)

(天保七年) 申十二月迄(天保八年) 西五月十五日迄

長帳 一冊

四六 嘉麻御救普請約

(二五〇三)

天保八年五月

長帳 一冊

四七 日向石組村之御収米雜穀書上帳、御救米穀御渡方分書上帳

書上帳

(二五七六)

天保八年五月

長帳 二冊 合冊

四八 作食代り・春麦代り御取替米渡方約帳

(二五七七)

(天保八年) 西五月

長帳 一冊

四九 申十二月迄西四月迄御救米御拂米御取替米約帳

(二五七八)

(天保八年) 西五月

長帳 一冊

(天保八年) 西五月

長帳 一冊

五〇 新麦代り古雜穀取替差出候者名前書上帳

長帳 一冊

(天保八年) 西五月

日向石組

五一 村々救合指出候者名元書上帳

(二四〇四)

(天保カ)

長帳 一冊

一五 覚

（年度未詳）

鐵兵糧御救米被下度

一紙 一通

（八五九）

一五 先年六寸志献上米錢育子料二御渡被下大分大約

天保八年九月

長帳 一冊

（八一〇）

一五 貧民中六申上候口上覚

安政四年九月

切紙（包紙入）一通

（一五三九）

窮民六主殿宛、此節御領分中借財御調子の上当一季元居り利方すたり、諸講も居りに被仰付件に付

(7) 褒賞

一五（仮題）孝行者并出精者御褒美被下覚

享保六年八月～安永八年

長綴 一綴

（二二八九）

※一五 孝者并寄特者之書拔

享保十七年～寛政二年

書冊 一冊

（五七）

一五 筑前夜須郡高田村甚六親孝行之次第庄屋庄平次六

書付差出候写

宝曆十一年八月

折紙 一通

（七八八）

庄平次六

一五（仮題）孝行者褒美申付候覚

（宝曆十一年）八月

切紙 一通

（七八九）

一五 筑前秋月今小路町勇作両親孝行之次第町役人書口写

宝曆十一年八月

折紙 一通

（七九〇）

一六 御勘定御奉行六御付札有之分書拔進之候尤御付札相分候為朱書二相認候

（安永～天明頃）

書冊 一冊

（八二五）

孝行者表彰

※一六 筑前国秋月領分在町孝行奇特之者共名前書扣

寛政四年

書冊 一冊

（六三）

※一六 筑前国秋月領分在町孝行奇特者名前

寛政四年

書冊 一冊

（六四）

一六 奉言上候覚

（江戸後期）寅十二月廿日

切紙（包紙入）一通

（一三八七）

名越雄三郎六、心得宜者名前書上

一六 孝人御感賞書并行状書写

（江戸後期）

書冊 一冊

（三七）

一六 當春江戸御屋敷御火難二付寸志献上之者御賞營左之通被仰付候事

（天保頃）

長綴 一綴

（二一九三）

(8) その他

一六 乍恐奉願上口上之覚

文化七年七月

一紙 一通

（九二二）

上座川堀の儀に付願案文

※一七 御領分中郷筒帳

文化十三年五月改

書冊 一冊

（二二六）

一六 博多藏元出火一件 (二一九)

天保十三年二月廿五日 長綴 一綴

一七 下洲村庄屋市郎左衛門乍恐御願申上ル口上覚 (二二〇)

慶応三年五月 長綴(包紙入) 一綴

一八 (仮題) 覚 (二六一)

(幕末) 十二月朔日 卷紙 一通
郡奉行々、下洲大庄屋桑野新三郎田地為引当日田々借金の件

一九 (仮題) 下洲村桑野新三郎并理八郎借財一件に付伺 (七八三)

(幕末) 寅五月 切紙 一通
郡奉行々

二〇 穂波郡飯塚宿庄屋組頭御詮議ニ付乍恐申上ル口上之覚 (二〇九四)

(江戸後期) 一紙 一通

二一 (仮題) 覚 (二四五〇)

(江戸後期) 切紙 一通
火災後献上米差出に不及

※二二 長韶公御乗出ニ付在々々献上之覚 (七六)

(江戸後期) 書冊 一冊

二三 郡村覚書 (二三八)

(江戸後期) 書冊 一冊

二四 穀留改方不取斗ニ付取調子書付 (二六〇)

(江戸後期) 長綴 一綴

二五 乍恐御請申上ル口上覚 (二五八三)

(江戸後期) 長綴 一綴
宮野村服部勘次々、金松屋松太郎身元に付

二六 御届書 (八九三)

(江戸後期) 戊五月 折紙(包紙入) 一通
大力村庄屋五平々上野武助宛、当村伊蔵出奔届

二七 堀川ニ付口上之覚 (二五九九)

(江戸後期) 午七月 長帳 一冊

二八 乍恐再應奉申上候口上之覚 (二一八七)

(江戸後期) 酉正月 長綴 一綴
御堀川御普請の儀に付

二九 市中酒屋中乍恐御届申上候口上覚 (七七七)

明治二年十二月八日 書冊綴 一綴

三〇 日乞・雨乞之節左之通相極(尾欠) (二四六四)

(江戸後期) 切紙 一通

三一 西郷村庄屋坂口傳兵衛々申出之書付 (二五一九)

(江戸後期) 寅十二月廿二日 切紙 一通
坂口傳兵衛々田辺忠兵衛外宛、鳴村の御家内引越の件に付伺

三二 西郷村庄屋坂口傳兵衛々申出之書面 (二五二七)

(江戸後期) 寅十二月廿三日 切紙 一通
坂口傳兵衛々田辺忠兵衛外宛、老男女・子供衆肥後表へ引越の件

一五 水野庄三郎の差遣候書付写

（江戸後期）

切紙 一通 （二三七七）

加満郡下水村居住者名書出

一六 覚

（江戸後期） 寅二月

長綴（包紙入）一綴 （九八〇）

千年川境論一件

一七 書状（尾欠）

（江戸後期）

切紙 一通 （二二七九）

当秋作方の義

一八 覚

（江戸後期）

切紙 一通 （二二七三）

上町・魚町等人名書上

一九 町口中名前

（虫喰）

（江戸後期）

巻紙 一通 （二〇八六）

一〇 夜須・下座・嘉麻獵御留明側示帳

宝曆十一年四月改

長帳 一冊 （五〇二）

8 絵図

一 元和元年大坂合戦図

（元和元年）

（二七四二） 一枚

二 地図（江戸之図）

文化十四年

（二七三三） 一枚

三 弘化改正大坂細見図

弘化四年

（二六九四） 一枚

四 地図（上州沼田）

嘉永四年

（二六九五） 一枚

五 地図（奥州棚倉）

嘉永四年

（二六九六） 一枚

六 地図（奥州白川）

嘉永四年

（二六九七） 一枚

七 地図（上州館林）

嘉永四年

（二六九八） 一枚

八 地図（美濃大垣）

嘉永四年

（二六九九） 一枚

九 地図（出羽鶴岡）

嘉永四年

（二七〇〇） 一枚

一〇 地図（遠州浜松）

嘉永四年

（二七〇一） 一枚

二 地図（上野厩橋）

嘉永四年

（二七〇二） 一枚

三 地図（信州高嶋）

嘉永四年

（二七〇三） 一枚

三 地図（武州忍）

嘉永四年

（二七〇四） 一枚

四 地図（山城淀）

嘉永四年

（二七〇五） 一枚

一五 地図 (摂州尼ヶ崎)

嘉永四年

(一七〇六)

一枚

一六 地図 (常陸夫戸)

嘉永四年

(一七〇七)

一枚

一七 地図 (出羽秋田)

嘉永四年

(一七〇八)

一枚

一八 地図 (長州萩)

嘉永四年

(一七〇九)

一枚

一九 地図 (駿州府中)

嘉永四年

(一七一〇)

一枚

二〇 地図 (和州郡山)

嘉永四年

(一七一一)

一枚

二一 地図 (出羽山形)

嘉永四年

(一七一二)

一枚

二二 地図 (下総古河)

嘉永四年

(一七一三)

一枚

二三 地図 (奥州二本松)

嘉永四年

(一七一四)

一枚

二四 地図 (播州赤穂)

嘉永四年

(一七一五)

一枚

二五 地図 (駿州田中)

嘉永四年

(一七一六)

一枚

二六 地図 (阿波徳島)

嘉永四年

(一七一七)

一枚

二七 地図 (山城二條)

嘉永四年

(一七二二)

一枚

二八 地図 (和州高取)

嘉永四年

(一七二六)

一枚

二九 地図 (若州小浜)

嘉永四年

(一七三〇)

一枚

三〇 地図 (泉州岸和田)

嘉永四年

(一七三二)

一枚

三一 地図 (三州岡崎)

嘉永四年

(一七三二)

一枚

三二 地図 (勢州長島)

嘉永四年

(一七三三)

一枚

三三 地図 (勢州田丸)

嘉永四年

(一七四三)

一枚

三四 地図

(江戸後期)

(一七一八)

一枚

上ノ段稻荷社の通り御図

三五 御宮式拾一之御図

(江戸後期)

(一七一九)

一枚

三 地図

（江戸後期）

（二七二〇）

一枚

大書院御年始御礼の図

三 小書院年始御禮之図

（江戸後期）

（二七二一）

一枚

三 表惣詰之間年始御目渡之図

（江戸後期）

（二七二四）

一枚

三 御鎗之間年始御目渡之図

（江戸後期）

（二七二五）

一枚

四 大書院式日御目渡之図

（江戸後期）

（二七二七）

一枚

四 御勝手詰間年始御目渡之図

（江戸後期）

（二七二八）

一枚

四 御奥御休息之図

（江戸後期）

（二七二九）

一枚

四 東照宮御八講拝殿絵図

（江戸後期）

（二七三四）

三枚

四 東照宮御八講廻廊大行動絵図

（江戸後期）

（二七三五）

一枚

四 東照宮御八講拝殿絵図

（江戸後期）

（二七三六）

一枚

四 東照宮御八講拝殿絵図

（江戸後期）

（二七三八）

一枚

四 五拾騎一群布陣之図

（年度未詳）

（二七三七）

一枚

四 地図

（江戸後期）

（二七三九）

一枚

四 地図

（江戸後期）

（二七四〇）

一枚

五 地図

（年度未詳）

（二七四五）

一枚

五（仮題）屋敷図

（年度未詳）

（二七四六）

一枚

五 阿弥陀ヶ峰関門所

（年度未詳）

（二七四七）

一枚

五 以心流稽古所之處控図外

（年度未詳）

（二七四八）

三枚

五 地図（江戸之図）

（年度未詳）

（二七四九）

一枚

五 御屋敷図

（年度未詳）

（二七五〇）

一枚

五（仮題）関原附近陣構図

（年度未詳）

（二七五一）

一枚

五 御部屋御住居之図

（年度未詳）

（二七五二）

一枚

五 屋敷図

(年度未詳)

(二七五三)

一枚

五 御勝手惣詰之間式日御目渡之図

(年度未詳)

(二七五四)

一枚

六 表惣詰之間式日御目渡之図

(年度未詳)

(二七五五)

一枚

六 地図

(年度未詳)

(二七五六)

一枚

三 地図

(年度未詳)

(二七五七)

一枚

三 地図

(年度未詳)

(二七五八)

一枚

四 地図

(年度未詳)

(二七五九)

一枚

五 小書院式日御目渡之図

(年度未詳)

(二七六〇)

一枚

六 秋城小書院・大書院御居間御寢間図

(年度未詳)

(七九二)

(包紙入) 四枚

七 地図 (甲斐・信濃附近)

(年度未詳)

(五八四)

一枚

六 (仮題) 境目地図

(年度未詳)

(二七七二)

一枚

六 屋敷図

(年度未詳)

(二七八五)

一括

七 地図

(年度未詳)

(二七六三)

一枚

七 屋敷図

(年度未詳)

(二七六四)

一枚

七 地図

(年度未詳)

(二七六八)

四枚

七 屋敷図 (一部)

(年度未詳)

(二七七二)

一枚

四 地図

(年度未詳)

(二七七二)

一枚

五 御茶屋御建継指図

(年度未詳)

(九九二)

(包紙入) 一枚

9 その他

※ 一新陰流圓太刀

慶安五年二月

(五六四)

書冊 一冊

※ 二五巻書智

慶安五年二月

(五六二)

書冊 一冊

※ 三五巻書智

(年度未詳)

(五六二)

書冊 一冊

四五卷之書

元禄六年九月朔日

（五六〇）

書冊 一冊

五五卷書

（年度未詳）

（五六三）

書冊 一冊

※ 六玉清集

元禄六年九月

（五六・七二）

書冊 二冊

七イ 春日流手附

（年度未詳） 未五月七日

（二六〇二の二）

卷紙 一通

口 鞍馬流手附

（年度未詳）

（二六〇二の二）

卷紙 一通

ハ 捕合

（年度未詳）

（二六〇二の三）

切紙 一通

ニ 神菅想流捕手附

（年度未詳）

（二六〇二の四）

卷紙（包紙入） 一通

ホ （仮題） 覚

（年度未詳）

（二六〇二の五）

卷紙 一通

門弟ふりわけ

ヘ （仮題） 覚

（年度未詳）

（二六〇二の六）

卷紙 一通

門弟ふりわけ

ト 釵術

（年度未詳）

（二六〇二の七）

卷紙 一通

チ 無左右流棒手割附

（年度未詳）

（二六〇二の八）

卷紙 一通

※ 八 諸先輩國字筆記

宝永六年十月十四日

（六九）

書冊 一冊

※ 九 觀光編

文化五年六月十一日

（二二八）

書冊 一冊

※ 一〇 本生録

天保五年

（五九）

書冊 一冊

※ 一二 墨繩之記

（年度未詳）

（四八・二二五・二四二）

書冊 三冊

※ 三種尚愚論條々

（年度未詳）

（六〇）

書冊 一冊

三 文例目録

弘化二年八月三日写

（五〇七）

小横帳 一冊

※ 四 大御系図

（年度未詳）

（二二五）

書冊 一冊

歴代天皇

五 竹旗之紋・幕之紋・家之紋・替紋

（年度未詳）

（八二四）

書冊 一冊

※ 六 禮儀作法

（年度未詳）

（二二四）

書冊 一冊

七 諸書式の覚

（江戸後期）

（四五九）

書綴 一綴

六 金松屋の借用高

(江戸後期)

(一一三)
切紙 一通

元目録

(江戸後期)

(一二四)
切紙 一通

借用金子清算

二 書状

(江戸後期) 八月八日

(一四三・四の一五)
切紙 一通

三 (仮題) 覚

(江戸後期)

長綴 (包紙入) 一綴
(一四三三)

松村無翁ら、以心流可及断滅と相見候に付

三 預り申事

(江戸後期) 十月廿九日

(二七七五)
切紙 二通

土井奎之丞ら、書物預

三 書状 (首部のみ)

(江戸後期)

(二七八六)
切紙 一通

※ 四 連歌手本乃直

永禄四年十一月八日

小横帳 一冊
(二六七)

宗養・昌休

※ 五 集歌

寛保二年

(九九)
書冊 一冊

※ 六 近世名家詩集

(年度未詳)

(二二三)
書冊 一冊

※ 七 松風亭和歌集

(年度未詳)

(二六八)
書冊 一冊

二、明治以降史料

一 御記録書抜

明治三年～同七年

(四三三)
書冊 一冊

二 御廻達写

明治四年～同六年

(四二六)
書冊 一冊

三 懸廳御規定旅行渡方荒増写

明治五年正月

(三五五)
書冊 一冊

四 (仮題) 諸布告・達留

明治五年

(四七一)
書綴 一綴

五 (仮題) 記録

明治五年

(三三四)
書冊 一冊

地券申請・地租納方規則等達

※ 六 (仮題) 記録

(明治六年)

(四四七)
書綴 一綴

布告・諸通達外

七 上秋月村庄屋組頭百姓中乍恐奉願口上覚

明治四年八月

(二二三)
書綴 一綴

知事様被遊御帰京候為御国恩寸志献米仕度

八 外二御渡方扣

(明治) 子十月

(二二六九)
一通

寺社献金米覚

九 永代賣渡田地証文并小目録

イ 永代賣渡田地証文

（八九六の八）

嘉永七年十二月

一通

七兵衛六御郡役所宛

ロ （仮題）土地売券断簡（首欠）

（八九六の二）

（幕末）

一通

ハ （仮題）白石裏御抱御地方図（尾欠）

（八九六の二）

（明治）

一枚

ニ （仮題）拝借金残高覚（首尾欠）

（八九六の三）

（明治）酉一月

一通

ホ 記

（八九六の四）

（明治初期）

一通

未納金の利覚

ヘ （仮題）下秋月村分田畑書上（首欠）

（八九六の五）

（明治）

一通

ト 覚

（八九六の六）

（明治初期）午十二月廿六日

一通

坂口久一郎六年番宛、年貢及び余米納入覚

チ （仮題）下秋月御抱田地絵図（首欠）

（八九六の七）

（明治）

一通

二〇 永代賣渡地方證文之事

（二〇二七）

（明治四年）辛未十二月廿五日

一通

岡部訥雄六磯信藏外宛

二 永代賣渡證文之事

（一一三一）

明治四年十二月

一通

武井五一右衛門六桑野順平宛、土地売渡

三 賣渡證文

イ 證券

（一一三八の二）

明治四年四月八日

一通

遠藤喜三右衛門外六御家職御懸宛、土地売渡

ロ 賣渡證文之事

（一一三八の一）

明治四年十二月

一通

遠藤喜三右衛門六磯信藏宛

ハ 書状

（一一三八の三）

（明治）四月六日

（包紙入）一通

坂口彦七六戸原安甫宛、遠藤喜三右衛門所持田畑売渡に付

三 永代賣渡申地方證文之事

（一一五九）

明治五年四月

（包紙入）一通

石村佐一郎六芳野市次郎宛

四 献上地方并御買入地方目録控

（二八二）

明治五年十一月

書冊 一冊

五 献上地方目録引付帳

（五〇三の二）

明治五年

長帳 一冊

六（仮題）大縄畠定納書上

（一四三四の三〇）

（明治五年）壬申十二月

一通

一七 兼而拝借仕候金子添証文之支

明治六年三月

(九一八)
(包紙入) 一通

岡部篤信外御家職懸宛

一八 泉河内御買入田畠目録

明治八年

(四九九)
小横帳 一冊

一九 証文帳

明治十五年十一月改

(四四九)
書冊 一冊

イ 当時拝借証文之事

文久二年十二月廿五日

(四四九の二)
一通

吉田喜太夫宮村左平太外宛

ロ 拝借金証文

慶応元年十二月

(四四九の七)
(包紙入) 一通

毛利三三吉田喜太夫外宛

ハ 拝借金添証文

明治六年三月

(四四九の三)
(包紙入) 一通

井手得藏御家職懸宛

ニ 拝借証文

(明治) 午十二月

(四四九の四)
(包紙入) 一通

井手得藏御家職司斗御局宛

ホ 借用證券

明治七年五月

(四四九の二)
(包紙入) 一通

第十一大区戸長小嶋孫八外宮崎安意・戸原安浦宛

ヘ 拝借仕証文之事並添証文

明治六年十二月・同七年八月

(四四九の五)
(包紙入) 二通

郷原弘一

ト (借用) 證書

(明治) 巳十二月

(四四九の六)
(包紙入) 一通

毛利興次郎近藤安来外宛

チ 假規則

明治十五年十二月

(四四九の八)
書綴 一綴

小作人より納米する規則

リ 耕地小作証文並納米定

明治十五年十二月、同十七年十一月廿四日

(四四九の九)
書綴 一綴

川嶋弥吉

ヌ 小作證

明治廿年十月十二日

(四四九の一〇)
書綴 一綴

田中七十郎

ル 小作證

明治十九年九月

(四四九の一)
一通

畠山善四郎

ヲ 約定證

明治廿年九月三日

(四四九の一二)
一通

桑野順平外、下作料

ワ 小作証

明治廿年十一月

(四四九の一二)
書綴 一綴

吉村佐一郎

二〇 地券

（一一五六）

明治廿一年二月一日

一通

黒田長徳

二一 御所有地御賣却代金取約帳

（一二八二）

明治廿五年四月

書冊 一冊

二二 黒田家所有地賣却ニ付規則ニ設定スル事左之如シ

（一二二六）

明治廿五年

書綴 一綴

二三 御本拝借箱共扣

（一二四八）

明治四年八月改

書冊 一冊

※ 二四 御吉凶諸扣

（九〇）

明治五年正月〜同十七年四月五日

書冊 一冊

二五 筑前國一揆ノ記

（二六八五）

明治六年六月

書冊 一冊

二六 福岡県下人民群騒家屋ヲ放火破壊ニ関スル覚書写

（八七）

（明治六年）

長綴 一綴

※ 二七 御神祭記録・御改祭典記録・御宮御造営積・黒崎鎮

坐黒田大明神本縁及神官書類共

（八九）

明治八年

書冊 一冊

※ 二八 御改祭典并御手續書写

（二四六）

明治八年三月

書冊 一冊

二九 請取証

（一二一一）

明治十年十二月廿九日

一通

江川源四郎〆御屋敷懸宛、金子受取

※ 三〇 御武器類品付

（一二二九）

明治十年三月

長帳 一冊

附、積書・御供物御日柄

三一 葉書

（九二五）

明治十二年十月十六日

一葉

大原重朝〆黒田長徳宛、懇会開催に付案内

三二 確受之証

（二四三四の二八）

明治十五年九月十九日

一通

福岡日々新聞社〆久野安業宛、広告料

三三 賞状

（二四〇七）

明治十六年二月廿六日

一通

太政官〆黒田長徳宛、鹿児島逆徒征討の際軍団へ清酒

寄贈

三四 葉書

（七八五）

明治十六年五月十六日

一葉

華族会議長〆黒田長徳宛、会議規則誤字訂正

三五（仮題）旧臣不見人諫書（首欠）

（七八四）

明治十六年六月五日

一通

黒田長徳宛

三六 葉書

（二四三四の二二）

明治十六年八月十三日

一葉

黒田長徳〆黒田長徳宛、箱根温泉へ出立の報知

三 葉書 (七八六)

明治十六年八月十九日
京極高厚より黒田長徳宛、囲碁会欠席

三 葉書 (一四三四の二一)

明治十六年八月二十一日
黒田長知より黒田長徳宛

三 葉書 (九二六)

明治十六年九月十五日
朽木綱貞より黒田長徳宛、葬儀通知

四 葉書 (一一五〇)

(明治十六年) 十一月十一日
海楽直常より吉村武之丞宛

四 葉書 (一四三四の二四)

明治十六年十二月七日
三宅康保より黒田長徳宛、上野帰京の報知

四 葉書 (一四三四の三三)

明治十七年二月十日
池田徳潤より黒田長徳宛、赴任通知

四 (仮題) 覚 (一四四二)

(明治)
秋月県の行政官書記用

四 御当出納簿 (二八五)

明治廿四年

書冊 一冊

四 (仮題) 通知書 (一二二五)

明治廿五年九月廿五日
武田祐良より、馬場に於ての集会変更

書冊綴 一綴

哭 杉苗買入二付書付

イ 受取 (九三九の二)

明治廿八年二月一日

上座郡宮野村妹川弥七より垂井安得宛

口 請取 (九三九の一)

明治廿九年二月一日

上座郡宮野村田中崎次郎より垂井安得宛、杉苗代

ハ 記 (九三九の三)

(明治)

杉苗代

ニ 記 (九三九の四)

(明治)

杉苗

ホ (仮題) 小麦代等覚 (九三九の五)

(明治)

ヘ (仮題) 名前書上 (九三九の六)

(明治)

ト 記 (九三九の七)

(明治) 一月廿六日

杉苗・桧苗代

一通

※ 四 秋月沿革取調子二付書類扣

明治廿八年二月

書冊 一冊 (五〇〇)

四 (仮題) 秋月沿革史の原稿

(明治)

書綴 一綴 (五一三)

四 学制ノ部

(明治)

書冊 一冊 (五二〇)

四 御書物扣帳

(明治) 八月

書冊 一冊 (二六九〇)

五 当時扣帳

(明治)

書冊 一冊 (四七二)

諸費用書付

※ 五 書状

(明治)

(九四一) 一通

錦織教久と黒田長徳宛、有栖川宮へ参殿の事

五 作十郎と新五郎江来ル書状之写

(明治) 十四日

(一二四三) 一通

来訪依頼

五 作十郎と新五郎江来書状之写

(明治) 十五日

(一二三六) 一通

其節の一件不同意

※ 五 書状

(明治以降) 七月十日

(九四六) 一通

両国前花火見物の件

五 葉書

(明治以降) 九月十九日

(一一四九) 一葉

庭田重文と黒田長徳宛、本日御召に付宮中祇候被仰付

五 書状

(明治以降)

(一一五二) 一通

黒田御姉宛、訪問日の事

五 書状

(明治以降) 八月廿四日

(一二九六) 一通

森寺續造と長徳宛、御本家様御見舞一条報告

五 書状

(明治以降) 極月廿八日頃来ル
借金断り状

(一二六六) 一通

六 書状

(明治以降) 四月十五日

(一一八〇) 一通

御紙面の趣に付

六 書状

(明治以降) 霜月十日

(一二四四の三二) 一通

栄作と於篤宛

六 書状

(明治以降)

(一二四四の一〇) 一通

半兵衛と藤右衛門宛、大御勝手の儀・柳橋跡やしきの
処理外

六 記

(明治以降) 二月十二日

(九四〇) 一通

半助と御家職御懸宛

畚記

(明治以降) 九月五日

(九四四)
一通

山口屋 6、代金受取

空証

(明治以降) 八月

(七八二)
一通

喜多川 6、七月分請取

奈(仮題) 受取証

(明治以降)

(二〇九九)
一綴

山形屋平兵衛 6

宅亥ノ年貢租

(明治以降)

(二四三四の二九)
(包紙のみ)

平塚村 6 御家職懸り宛

六 書状 (首部のみ)

(明治以降)

(二七八四)
一通

充(仮題) 所有地図

明治十七年十一月十六日

(二七六五)
一枚

七 旧南殿跡并能舞台跡反別及ヒ番号

明治十九年三月写

(二七六一)
一枚

七(仮題) 田畠坪数図

(明治以降)

(二七六二)
九枚

七(仮題) 野鳥村之内図

(明治以降)

(二七六六)
一枚

三(仮題) 山林図

(明治以降)

(二七六七)
一枚

四(仮題) 屋敷図

(明治以降)

(二七六九)
一枚

五(仮題) 借地図

(明治以降)

(二七七〇)
一枚

昭和四十六年七月一日 印刷
昭和四十六年七月十日 発行

福岡市箱崎

発行所 九州大学文学部附属
九州文化史研究部施設

印刷所 九州大学経理部経理課印刷所

印刷者 印刷掛長服部 巧